

滋賀県版 人々のつながりに関する基礎調査（令和4年）  
調査結果の概要

令和5年2月

滋賀県健康医療福祉部健康福祉政策課

## 目次

目次	.....
利用上の注意	.....
第1 調査の概要	.....
第2 結果の概要	.....
1 孤独の状況	.....
2 孤立の状況	.....
3 新型コロナウイルス感染拡大の影響	.....

## 利用上の注意

- ・ 本書は、令和3年に内閣官房が実施した「人々のつながりに関する基礎調査」（郵送依頼・オンライン又は郵送回答）に基づき、滋賀県内在住者を対象としたインターネット調査（調査会社の登録回答者へ依頼・回答）の調査結果の概要を取りまとめたものです。
- ・ 本文、表、グラフなどに使われている（n）は、各質問に対する回答者数です。回答不詳等がある場合、全体の数とは一致しません。・結果は、百分率で表示し、小数点以下第2位を四捨五入しています。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が一致しないことがあります。なお、回答者を絞った質問では、質問該当者を100%とすることを原則としました。
- ・ 複数回答（2つ以上選んでよい質問）においては、合計が100%を超える場合があります。
- ・ 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- ・ 本書に掲載されたデータを引用・転載する場合には、出典の表記をお願いいたします。（例：出典：「滋賀県版令和4年人々のつながりに関する基礎調査結果」（滋賀県））

## 第1 調査の概要

### 1 調査の目的

滋賀県における孤独・孤立の実態を把握し、滋賀県孤独・孤立対策プラットフォームにかかる取り組みのための基礎資料を得ることを目的として実施

### 2 調査の対象等

- (1) 調査の対象：全国の満16歳以上の個人
- (2) 調査対象者数：3,600人（調査会社の県内在住の登録回答者）

### 3 調査事項

#### (1) 孤独に関する事項

孤独感（UCLA孤独感尺度・直接質問）、継続期間、これまでに経験したライフイベント（家族との離別・死別、人間関係の重大なトラブル等）、社会や他人とのかかわり方の満足度

#### (2) 孤立に関する事項

外出頻度、外出目的、行動範囲、社会的交流（家族・友人とのコミュニケーション手段や頻度）、社会参加（活動への参加状況）、各種支援の状況、他者への手助けの状況

#### (3) その他関連事項

コミュニケーションツールの利用状況、不安や悩みの相談相手の有無、不安や悩みを相談する際の感情、心身の健康状態、コロナ禍におけるコミュニケーションの変化・生活の変化

#### (4) 属性事項

年齢、性別、配偶者の有無、同居人の有無・数、収入を得ている同居人の数、教育・就業状態、居住形態（住宅の種類、持ち家か否か）、世帯の年間収入

### 4 調査の方法等

#### (1) 調査期日

令和4年12月1日

#### (2) 調査の方法

- ①令和4年12月に調査会社から調査対象者あてに調査協力依頼をメールにて配信
- ②調査対象者は、回答用のWEBサイトにより回答

### 5 集計事項

孤独感が高い人や孤立度合いが大きい人の属性・傾向（年齢、性別、教育・就業状況等）など、孤独・孤立の実態を概括的に把握するために必要な結果を集計

具体的には、年齢、性別、配偶者の有無等の「属性事項」と「孤独に関する事項」、「孤立に関する事項」とのクロス集計などを実施

### 8 集計対象数

この調査における集計対象数は、次のとおりであった。

◇性別・年齢階級別

			Base	男性	女性	その他 (どちらとも いえない・わか らない・答えたく ない)
Total		N	3600	1842	1727	31
【年齢階 級】	15～19歳	N	188	50	131	7
	20～29歳	N	366	88	278	0
	30～39歳	N	677	218	451	8
	40～49歳	N	848	427	414	7
	50～59歳	N	848	550	291	7
	60～69歳	N	469	350	117	2
	70～79歳	N	175	134	41	0
	80歳以上	N	29	25	4	0



## 第2 結果の概要

※：「令和3年人々のつながりに関する基礎調査結果」（内閣官房）に基づき作成

### 1 孤独の状況

#### (1) 本調査における孤独感の把握方法

孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、この調査では、以下の2種類の質問により孤独感を把握した。

##### ①直接質問

以下のとおり「孤独」について、直接的に質問する内容となっている。

あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

1 決してない	4 時々ある
2 ほとんどない	5 しばしばある・常にある
3 たまにある	

##### ②間接質問

間接質問は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）のラッセルが、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案した「UCLA 孤独感尺度」<sup>1</sup>の日本語版<sup>2</sup>の3項目短縮版<sup>3</sup>に基づくもので、以下の3つの設問への回答をスコア化し、その合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価する内容となっている。設問に「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査ではこれを間接質問と呼んでいる。

今回の調査結果の取りまとめに当たっては、3つの設問それぞれへの回答について、「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化し、その合計スコアについて便宜的に「10～12点」（常にある）、「7～9点」（時々ある）、「4～6点」（ほとんどない）、「3点」（決してない）の4区分に整理した。

あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じるがありますか。

1 決してない	3 時々ある
2 ほとんどない	4 常にある

あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。

<sup>1</sup> Russell DW. UCLA loneliness scale (version 3): reliability, validity, and factor structure. J Pers Assess. 1996;66(1):20-40.

<sup>2</sup> 舛田ゆづり,田高悦子,他::高齢者における日本語版 UCLA 孤独感尺度（第3版）の開発とその信頼性・妥当性の検討,日本地域看護学会誌.15(1) : 25-32,2012.

<sup>3</sup> Arimoto A & Tadaka E:Reliability and validity of Japanese versions of the UCLA loneliness scale version 3 for use among mothers with infants and toddlers. BMC Women's Health. 2019;19:105.

- |          |        |
|----------|--------|
| 1 決してない  | 3 時々ある |
| 2 ほとんどない | 4 常にある |

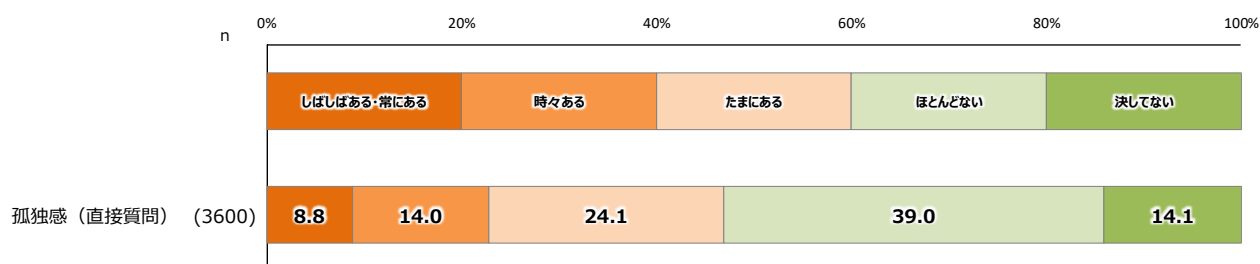
あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

- |          |        |
|----------|--------|
| 1 決してない  | 3 時々ある |
| 2 ほとんどない | 4 常にある |

## (2) 孤独の状況（直接質問）

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は 8.8%、「時々ある」が 14.0%、「たまにある」が 24.1%となっている。一方、孤独感が「ほとんどない」と回答した人の割合は 39.0%、「決してない」が 14.1%となっている。「令和3年人々のつながりに関する基礎調査結果」（内閣官房）（以下、全国調査と記載する）では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は 4.5%であった。一方、孤独感が「ほとんどない」と回答した人の割合は 38.9%、「決してない」が 23.7%となっていた。

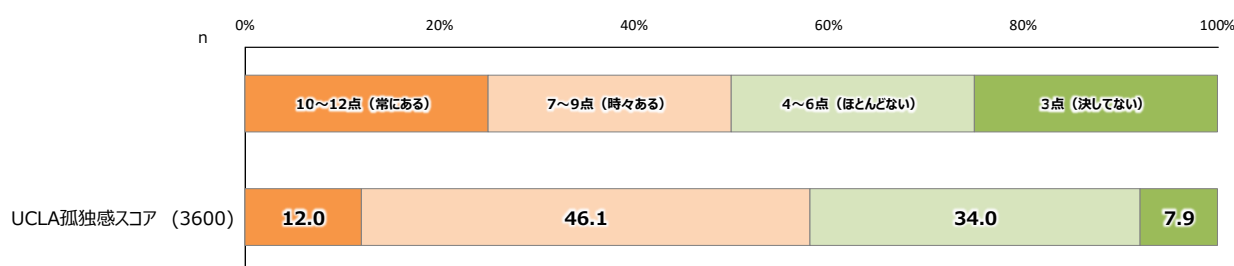
【図1-1】孤独の状況（直接質問）



## (3) 孤独の状況（間接質問）

「UCLA 孤独感尺度」に基づく孤独感スコアでは、「10～12点」という人の割合は 12.0%、「7～9点」が 46.1%となっている。「4～6点」という人の割合は 34.0%、「3点」が 7.9%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は 6.3%、「7～9点」が 37.1%となっている。「4～6点」という人の割合は 37.4%、「3点」が 18.5%となっていた。

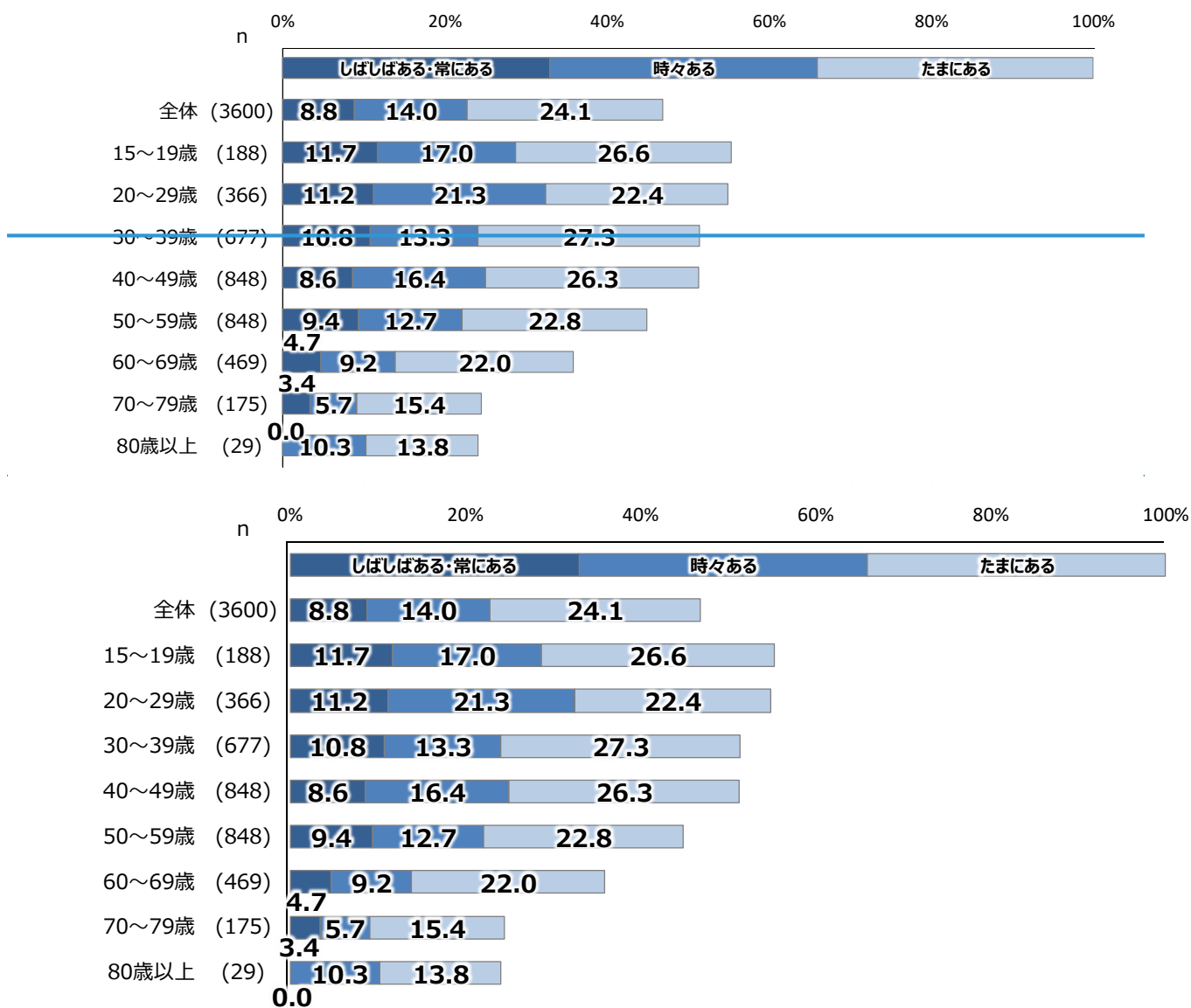
【図1-2】孤独の状況（間接質問）



(4) 年齢階級別孤独感（直接質問）

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合が最も高いのは、10歳代で11.7%となっている。一方、その割合が最も低いのは、70歳代で3.4%となっている（n数が30未満を除く）。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合が最も高いのは、30歳代で7.9%、続いて20歳代で7.7%となっていた。一方、その割合が最も低いのは、70歳代で1.8%となっていた。

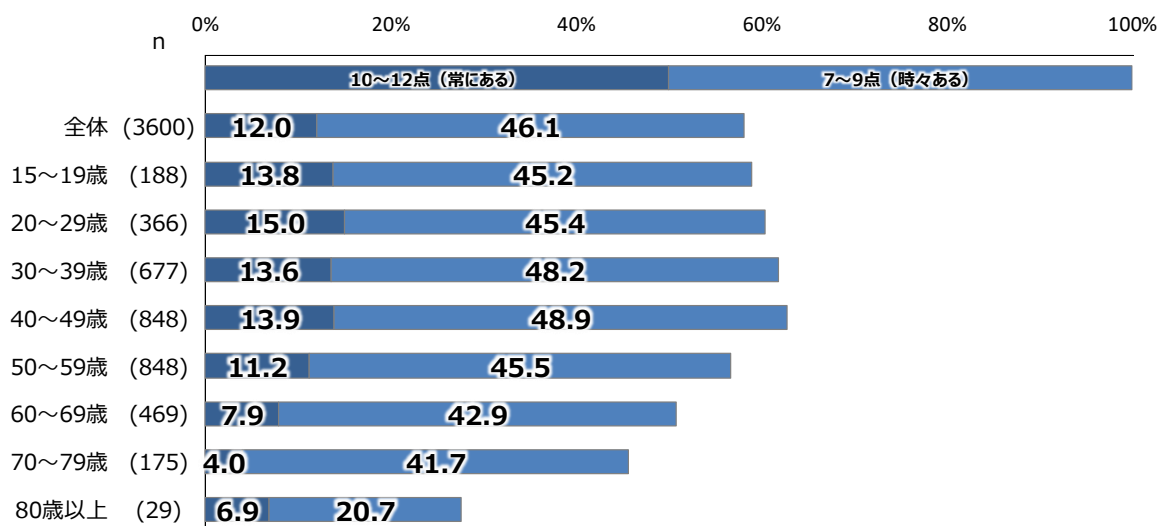
【図1—3】年齢階級別孤独感（直接）



(5) 年齢階級別孤独感（間接質問）

孤独感スコアが「10～12点」という人の割合が最も高いのは、20歳代で15.0%となっている。一方、その割合が最も低いのは、70歳代で4.0%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合が最も高いのは、30歳代で10.0%となっていた。一方、その割合が最も低いのは、70歳代で2.5%となっていた。

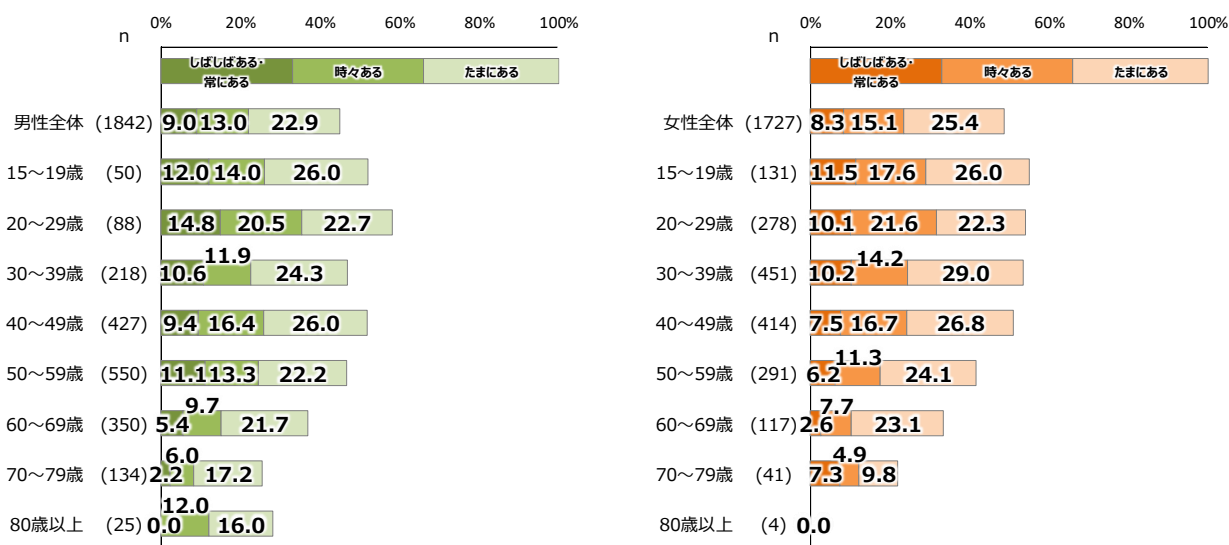
【図1—4】年齢階級別孤独感（間接質問）



(6) 男女、年齢階級別孤独感（直接質問）

男女別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性が9.0%、女性が8.3%となっている。年齢階級別にみると、男性は20歳代の割合（14.8%）が最も高く、女性は10歳代（11.5%）となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性が4.9%、女性が4.1%となっていた。年齢階級別にみると、男性は30歳代の割合（8.3%）が最も高く、女性も30歳代（7.3%）となっていた。

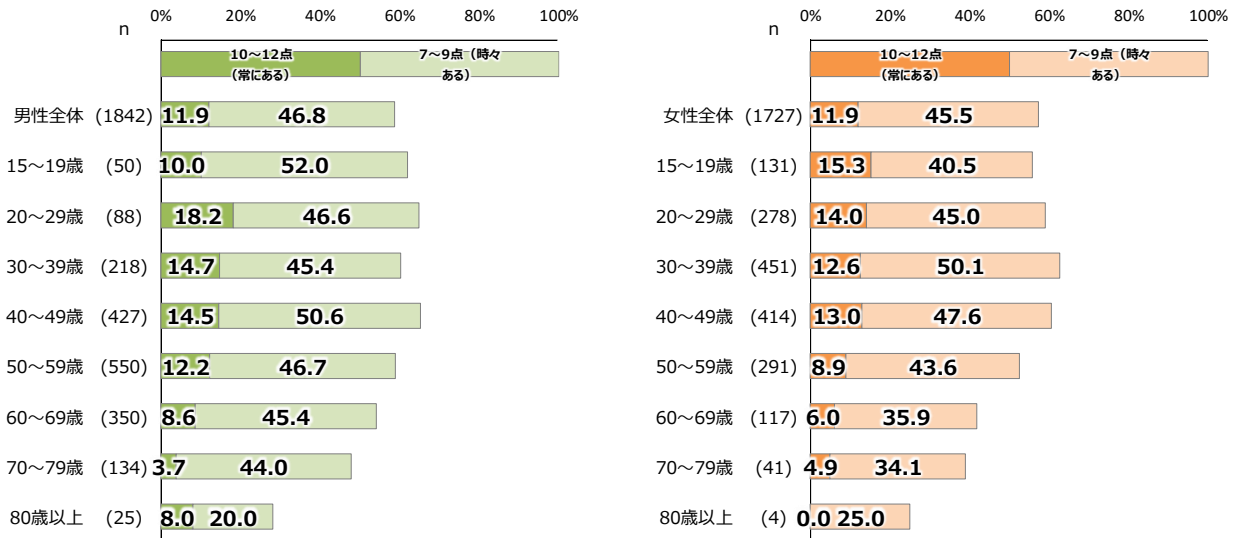
【図1-5】男女、年齢階級別孤独感（直接質問）



(7) 男女、年齢階級別孤独感（間接質問）

男女別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、男女ともに11.9%となっている。年齢階級別にみると、男性は20歳代の割合（18.2%）が最も高く、女性は10歳代（15.3%）となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、男性が7.2%、女性が5.2%となっていた。年齢階級別にみると、男性は30歳代の割合（11.3%）が最も高く、女性も30歳代（8.3%）となっていた。

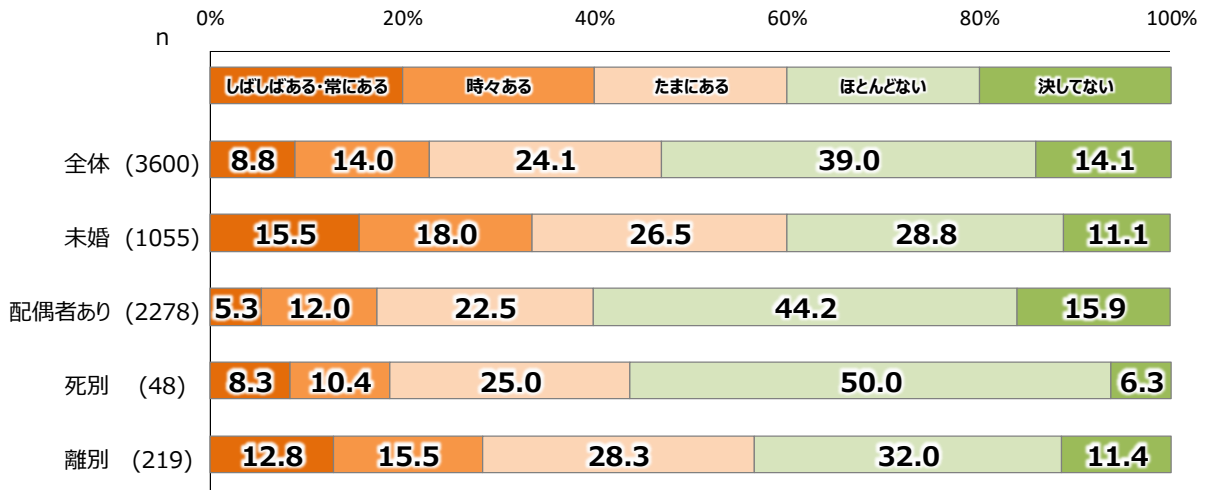
【図1-6】男女、年齢階級別孤独感（間接質問）



(8) 配偶者の有無別孤独感（直接質問）

配偶者の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、未婚者が15.5%、既婚者配偶者ありが5.3%となっている。なお、直接質問、間接質問ともに配偶者には事実上、夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合も含まれている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、未婚者が9.6%、配偶者あり既婚者が2.4%であった。

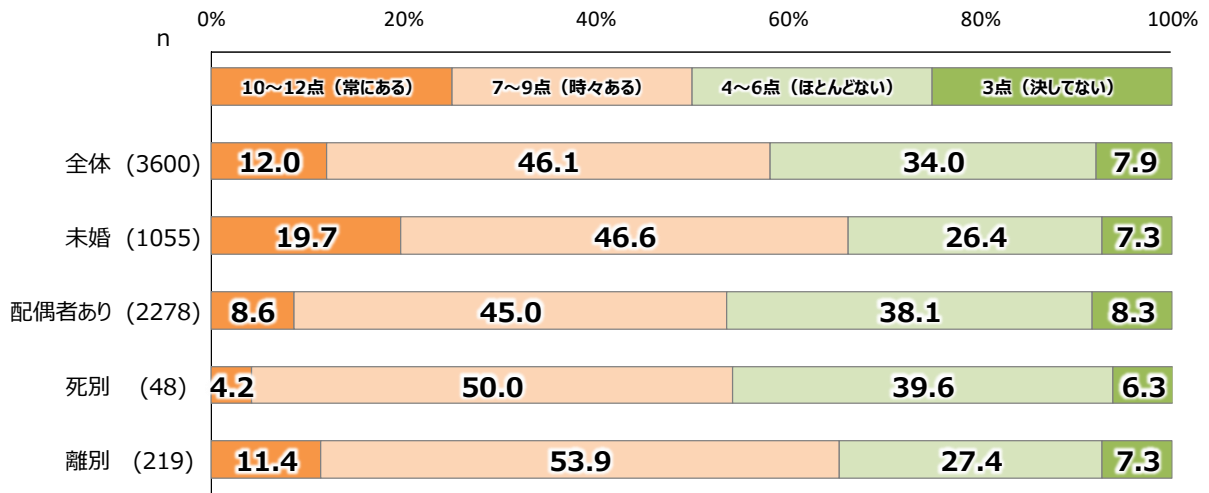
【図1-7】配偶者の有無別孤独感（直接質問）



(9) 配偶者の有無別孤独感（間接質問）

配偶者の有無別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、未婚者が19.7%、既婚者配偶者ありが8.6%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、未婚者が12.3%、既婚者配偶者ありが3.9%となっていた。

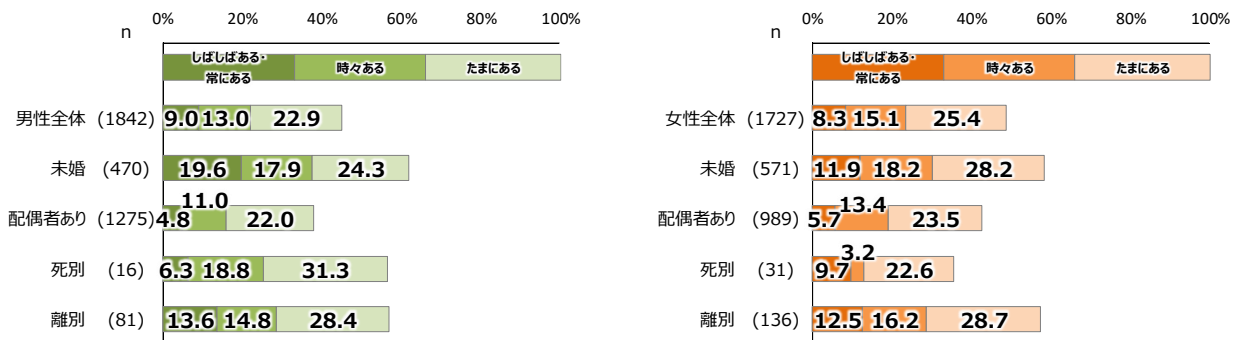
【図1-8】 配偶者の有無別孤独感（間接質問）



(10) 男女、配偶者の有無別孤独感（直接質問）

男女別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性では未婚者が19.6%で最も高く、女性では離別者（12.5%）が最も高くなっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性では未婚者が10.8%で最も高く、女性でも未婚者（7.7%）が最も高くなっていた。

【図1-9】 男女、配偶者の有無別孤独感（直接質問）

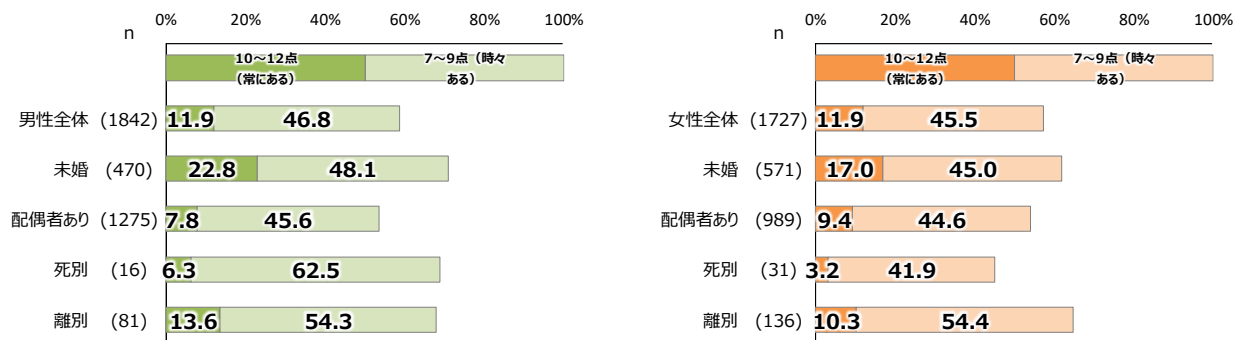




(1 1) 男女、配偶者の有無別孤独感（間接質問）

男女別にみると、孤独感が「10～12点」という人の割合は、男女ともに未婚者が最も高くなっている（男性22.8%、女性17.0%）。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、男女ともに未婚者が最も高くなっていた（男性15.0%、女性9.0%）。

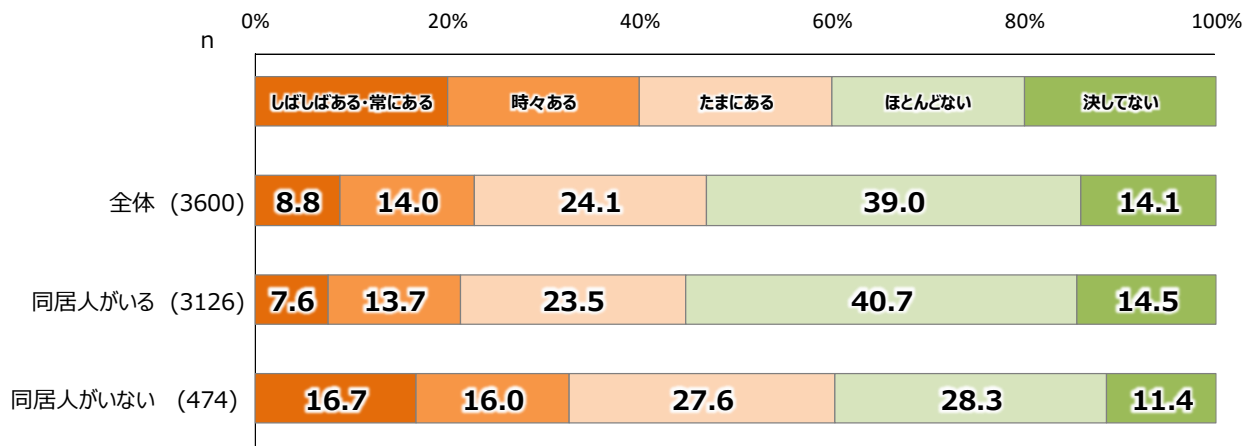
【図1-10】男女、配偶者の有無別孤独感（間接質問）



(1 2) 同居人の有無別孤独感（直接質問）

同居人の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、同居人がいる人が7.6%、同居人がいない人が16.7%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、同居人がいる人が3.7%、同居人がいない人が8.7%になっていた。

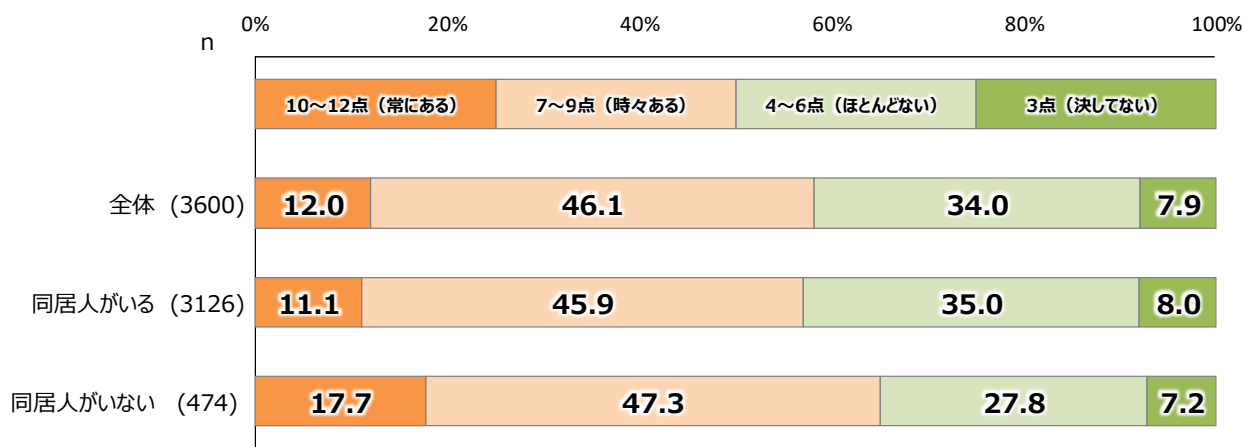
【図1-11】同居人の有無別孤独感（直接質問）



(13) 同居人の有無別孤独感（間接質問）

同居人の有無別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、同居人がいる人が11.1%、同居人がいない人が17.7%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、同居人がいる人が5.7%、同居人がいない人が9.5%となっていた。

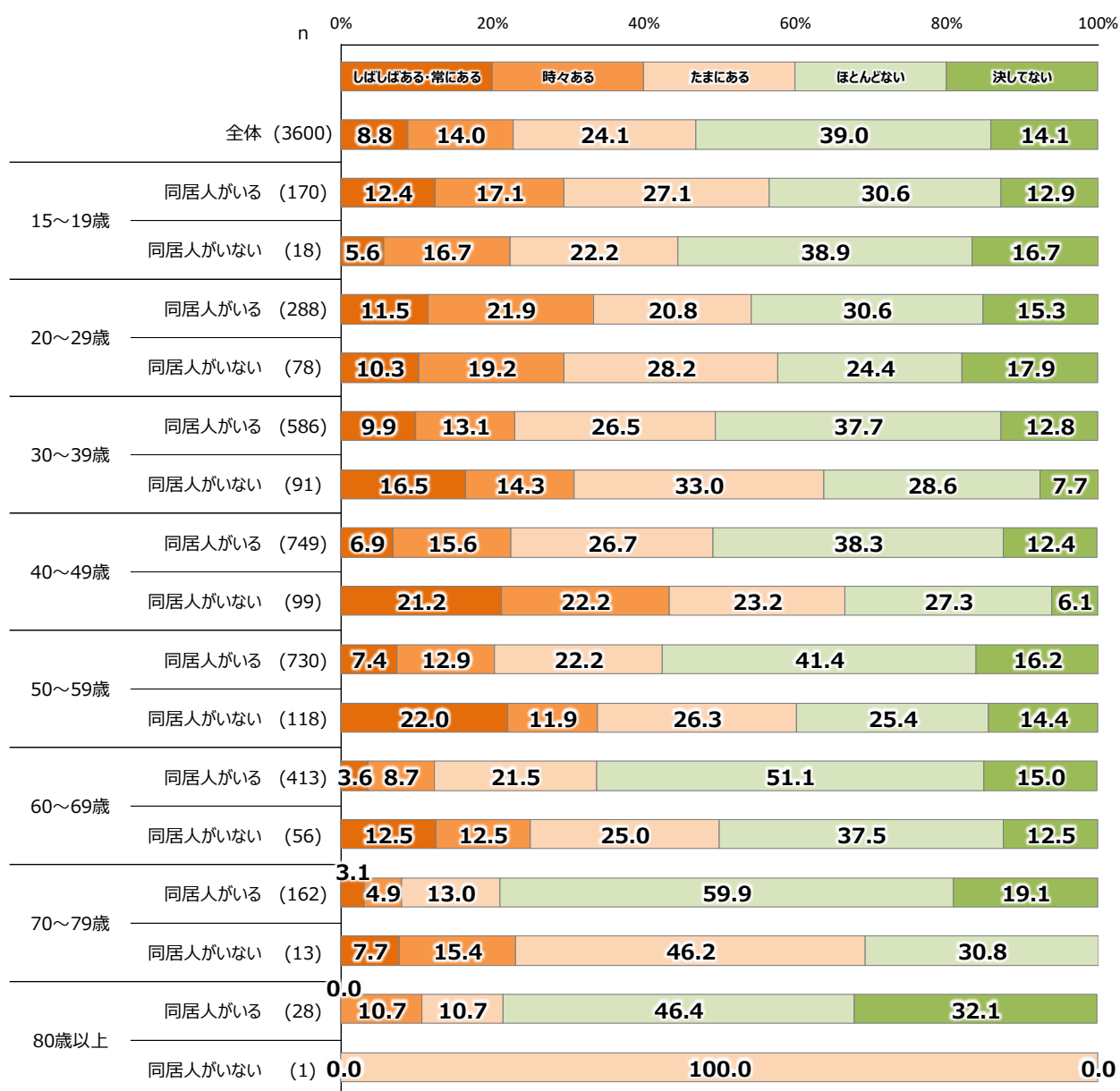
【図1-12】同居人の有無別孤独感（間接質問）



(14) 年齢階級、同居人の有無別孤独感（直接質問）

年齢階級、同居人の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、同居人がいない50歳代の人で22.0%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、同居人がいる70歳代の人で3.1%となっている（n数が30未満を除く）。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、同居人がいない50歳代の人で15.1%で最も高くなっていた。一方、その割合が最も低いのは、同居人がいる70歳代の人で1.4%となっていた。

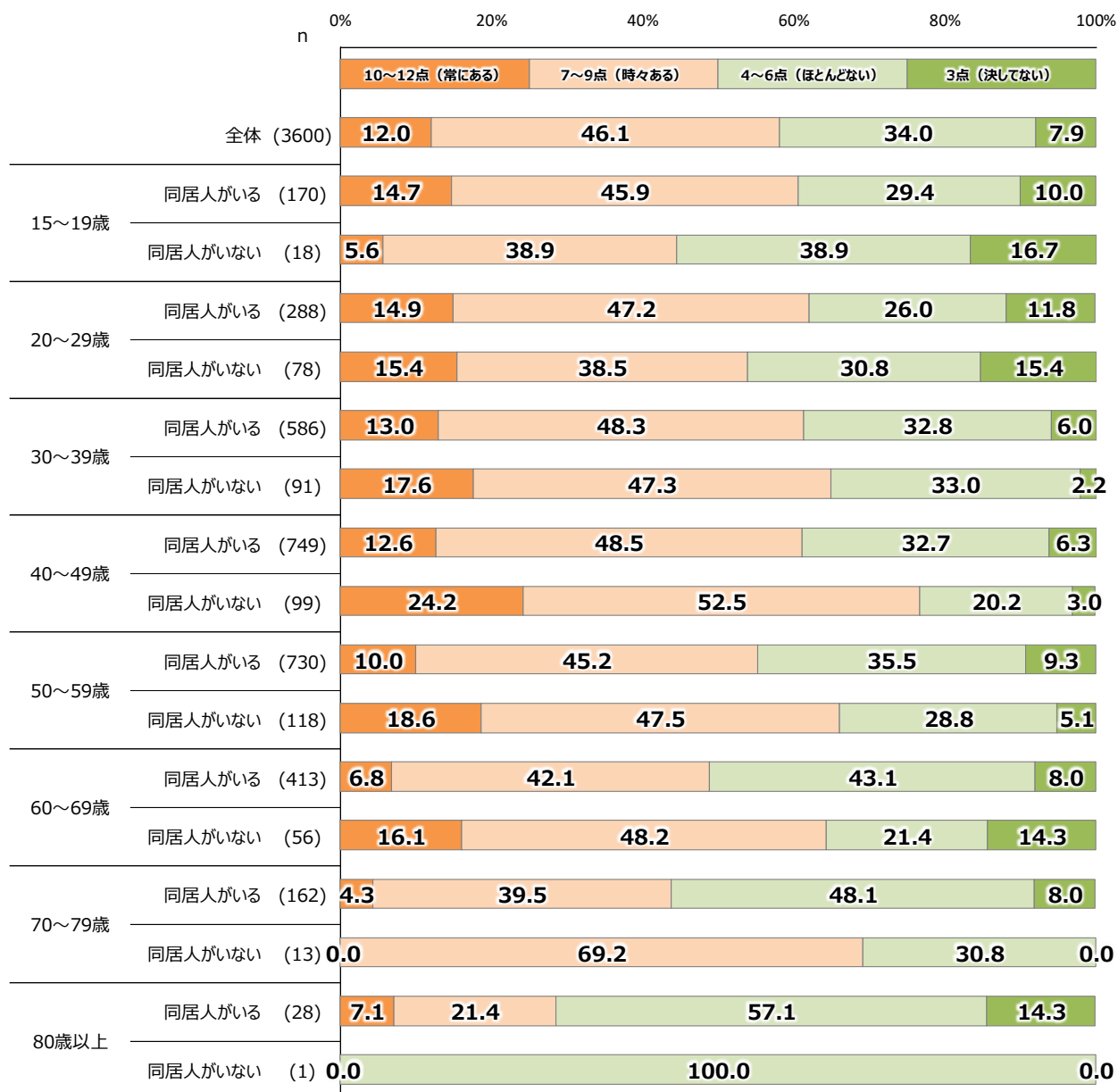
【図1-13】年齢階級、同居人の有無別孤独感（直接質問）



(15) 年齢階級、同居人の有無別孤独感（間接質問）

年齢階級、同居人の有無別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、同居人がいない40歳代の人で24.2%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、同居人がいる70歳代の人で4.3%となっている（n数が30未満を除く）。全国調査では、同居人がいない50歳代の人で15.5%で最も高くなっていた。一方、その割合が最も低いのは、同居人がいる70歳代の人で2.3%となっていた。

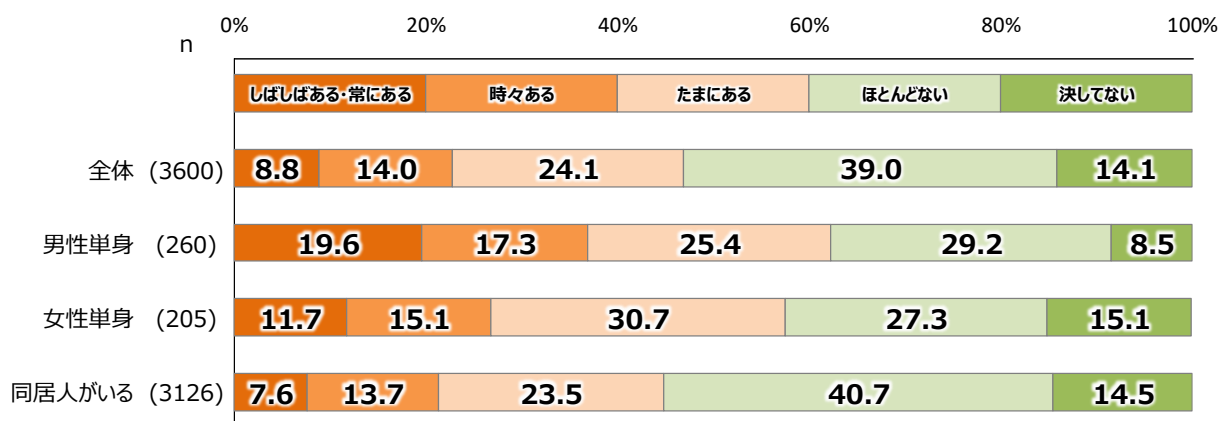
【図1-14】年齢階級、同居人の有無別孤独感（間接質問）



(16) 男女別単身者の孤独感（直接質問）

単身者を男女別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性が19.6%、女性が11.7%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性が10.9%、女性が6.5%となっていた。

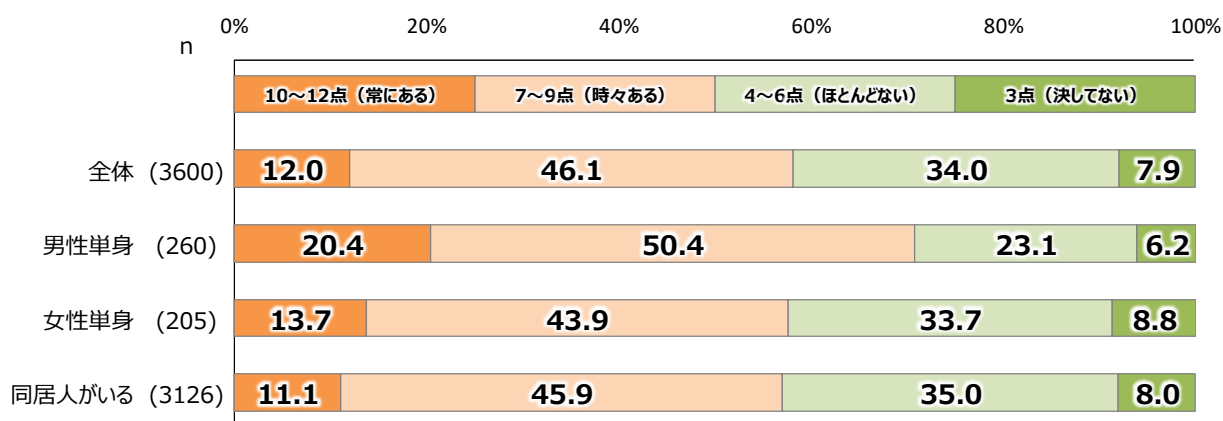
【図1-15】男女別単身者の孤独感（直接質問）



(17) 男女別単身者の孤独感（間接質問）

単身者を男女別にみると、孤独感スコアが「10~12点」という人の割合は、男性が20.4%、女性が13.7%となっている。全国調査では、「10~12点」という人の割合は、男性が12.5%、女性が6.8%となっていた。

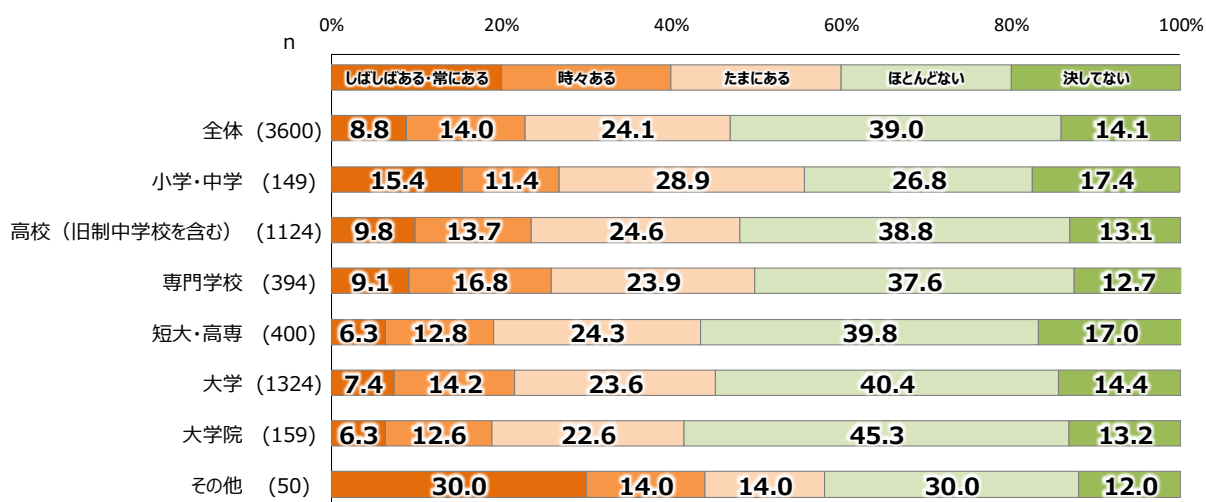
【図1-16】男女別単身者の孤独感（間接質問）



(18) 最終学歴別孤独感（直接質問）

最後に卒業した学校（または現在、在学している学校）の種類別に見ると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、小学・中学の人が15.4%で最も高くなっている（その他を除く）。一方、その割合が最も低いのは、短大・高専および大学院の人で6.3%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、専門学校の人が5.1%で最も高くなっていた（その他を除く）。一方、その割合が最も低いのは、短大・高専の人で3.9%となっていた。

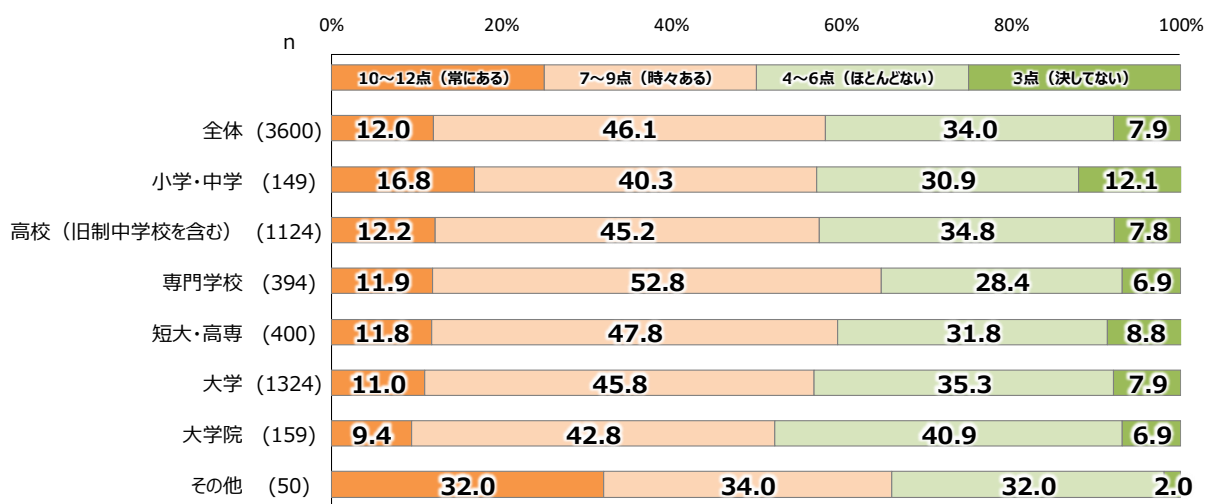
【図1-17】最終学歴別孤独感（直接質問）



(19) 最終学歴別孤独感（間接質問）

最後に卒業した学校（または現在、在学している学校）の種類別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、小学・中学の人が16.8%で最も高くなっている（その他を除く）。一方、その割合が最も低いのは、大学院の人で9.4%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、専門学校の人が7.4%で最も高くなっていた（その他を除く）。一方、その割合が最も低いのは、短大・高専の人で4.7%となっていた。

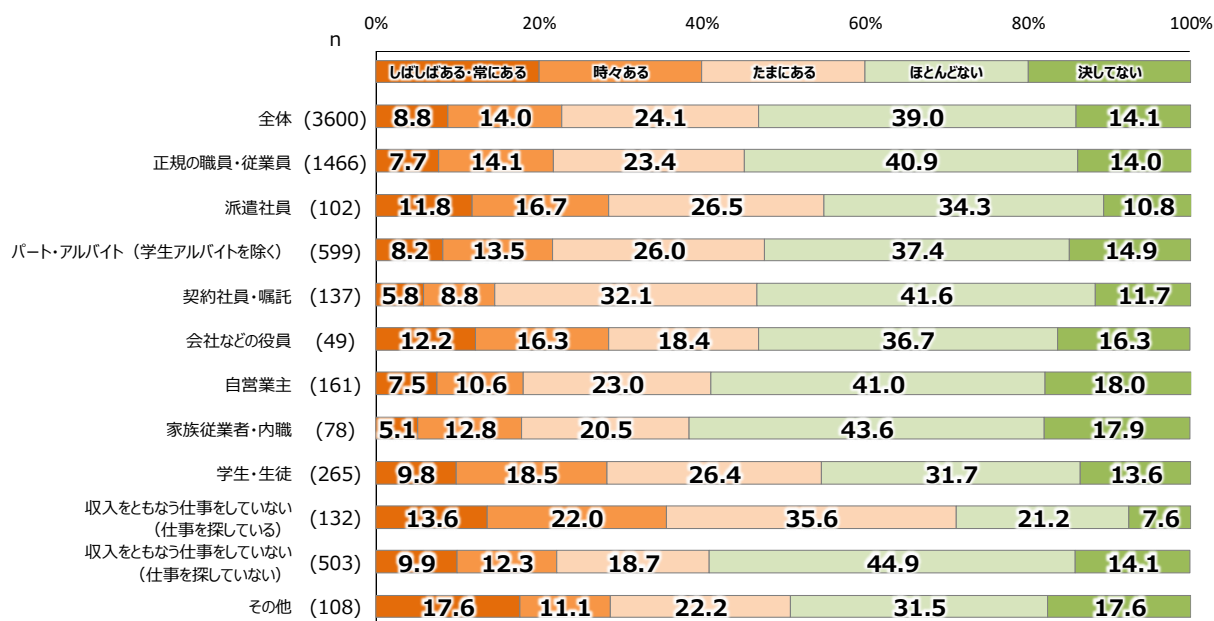
【図1-18】最終学歴別孤独感（間接質問）



(20) 現在の仕事の種類別孤独感（直接質問）

現在の仕事の種類別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、収入をともなう仕事をしていない（仕事を探している）人が13.6%で最も高くなっている（その他を除く）。一方、その割合が最も低いのは、家族従事者・内職で5.1%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、収入をともなう仕事をしていない（失業中）人が12.5%で最も高くなっていた（その他を除く）。一方、その割合が最も低いのは、会社役員で2.8%となっていた。

【図1-19】現在の仕事の種類別孤独感（直接質問）

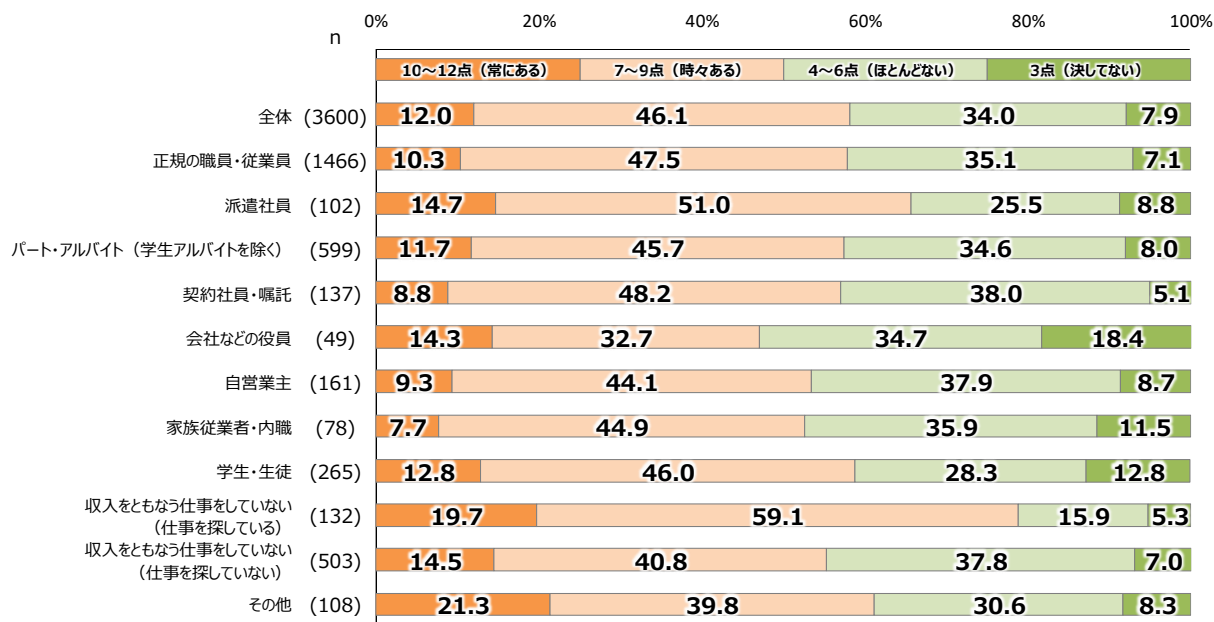




(2 1) 現在の仕事の種類別孤独感（間接質問）

現在の仕事の種類別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、収入をともなう仕事をしていない（仕事を探している）人が19.7%で最も高くなっている（その他を除く）。一方、その割合が最も低いのは、家族従事者・内職の人で7.7%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、収入をともなう仕事をしていない（失業中）人が15.7%で最も高くなっていた（その他を除く）。一方、その割合が最も低いのは、会社役員で3.4%となっていた。

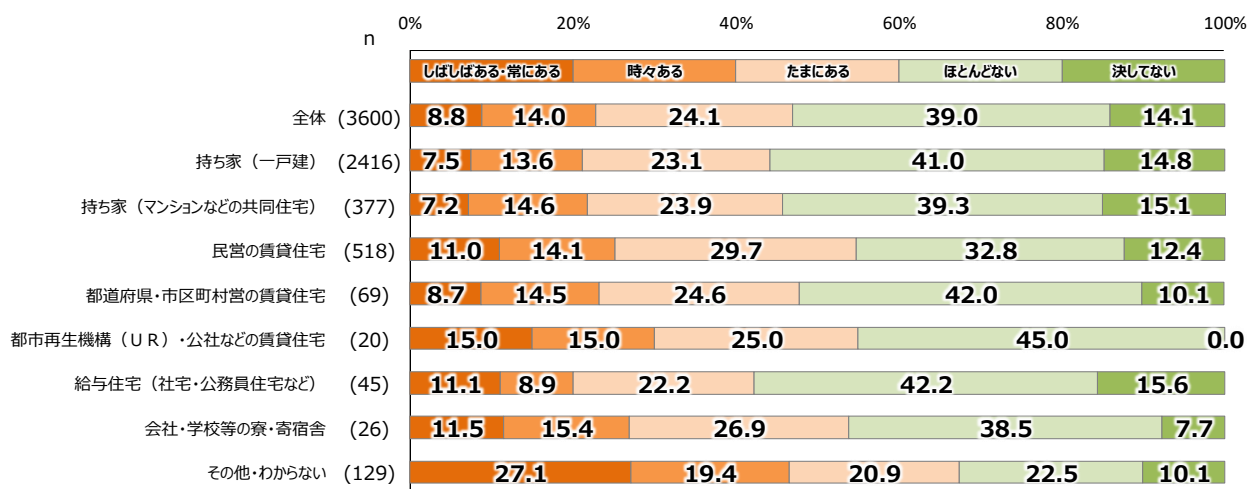
【図1-20】現在の仕事の種類別孤独感（間接質問）



(22) 現在の住まいの状況別孤独感（直接質問）

現在の住まいの状況別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、給与住宅（社宅・公務員住宅など）の人が11.1%で最も高くなっている（その他、n数が30未満を除く）。一方、その割合が最も低いのは、持ち家（マンションなどの共同住宅）の人で7.2%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、都道府県・市区町村営公営住宅の人が7.9%で最も高くなっていた（その他を除く）。一方、その割合が最も低いのは、持ち家（戸建て）の人で3.6%となっていた。

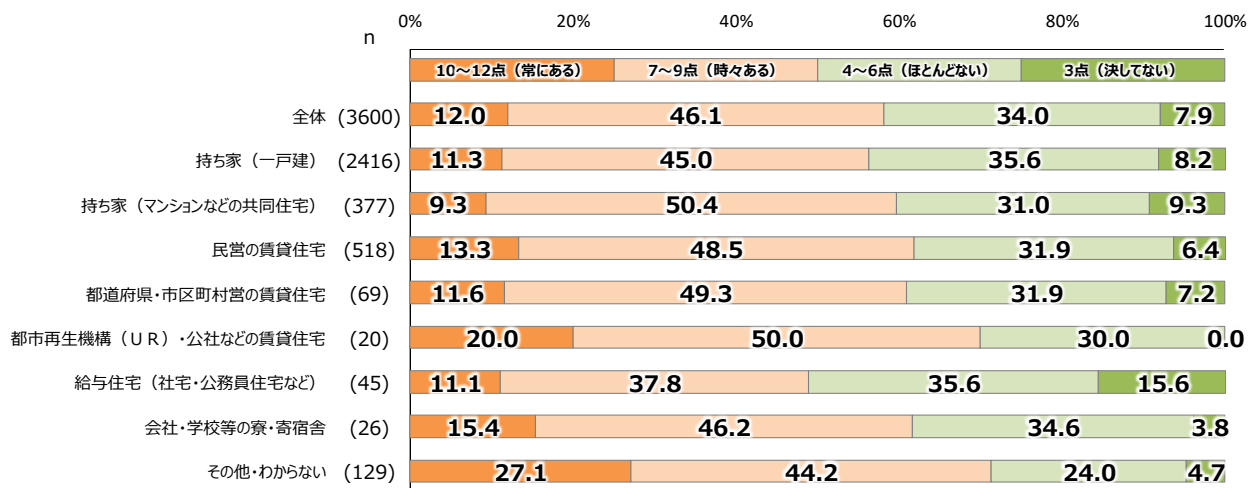
【図1-21】現在の住まいの状況別孤独感（直接質問）



### (23) 現在の住まいの状況別孤独感（間接質問）

現在の住まいの状況別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、民営の賃貸住宅の人が13.3%で最も高くなっている（その他、n数が30未満を除く）。一方、その割合が最も低いのは、持ち家（マンションなどの共同住宅）で9.3%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、都道府県・市区町村営公営住宅が10.1%で最も高くなっていた（その他を除く）。一方、その割合が最も低いのは、持ち家（マンション等）で4.8%となっていた。

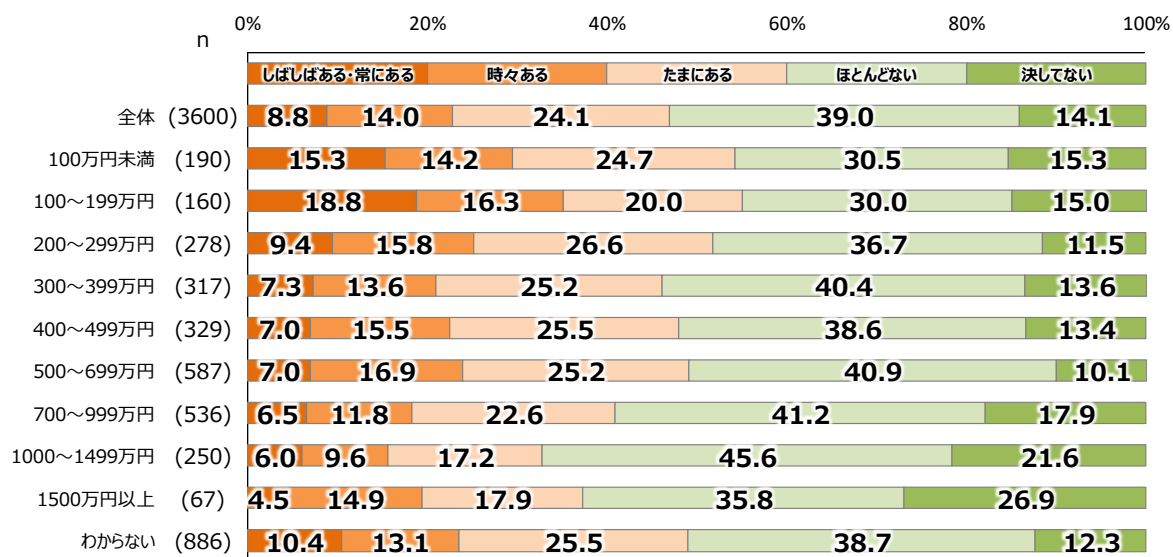
【図1-22】現在の住まいの状況別孤独感（間接質問）



(24) 世帯年収別孤独感（直接質問）

世帯年収（税・社会保険料込み）別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、100～199万円の人が18.8%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは1500万円以上の人で4.5%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、100万円未満の人が7.3%で最も高くなっていた。一方、その割合が最も低いのは1000～1499万円及び1500万円以上の人でそれぞれ3.7%となっていた。

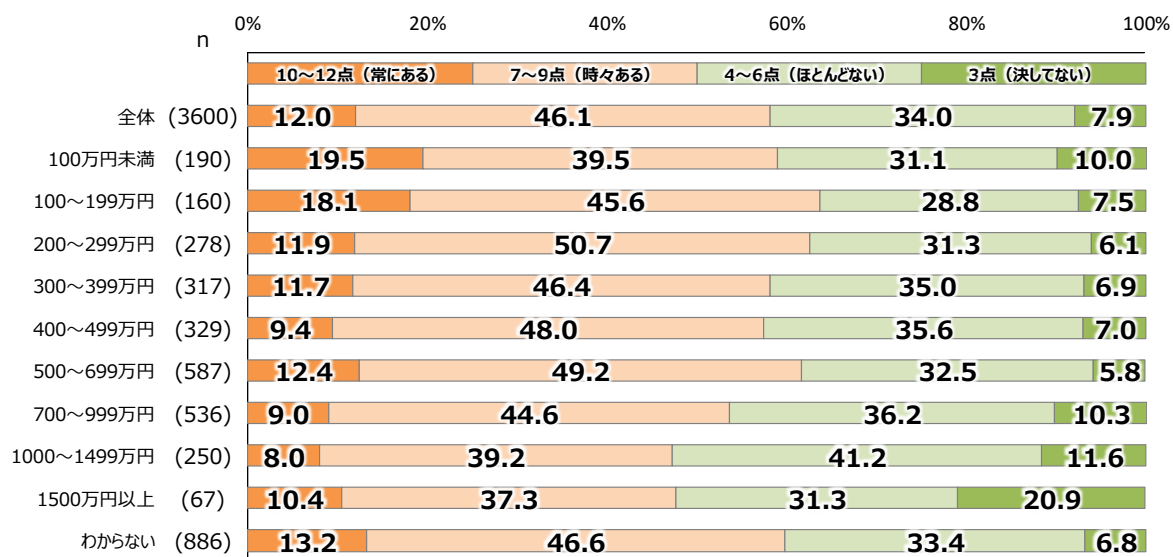
【図1-23】世帯年収別孤独感（直接質問）



(25) 世帯年収別孤独感（間接質問）

世帯年収（税・社会保険料込み）別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、100万円未満の人が19.5%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、1000～1499万円の人で8.0%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、100万円未満の人が9.2%で最も高くなっていた。一方、その割合が最も低いのは、700～999万円及び1000～1499万円の人でそれぞれ3.7%となっていた。

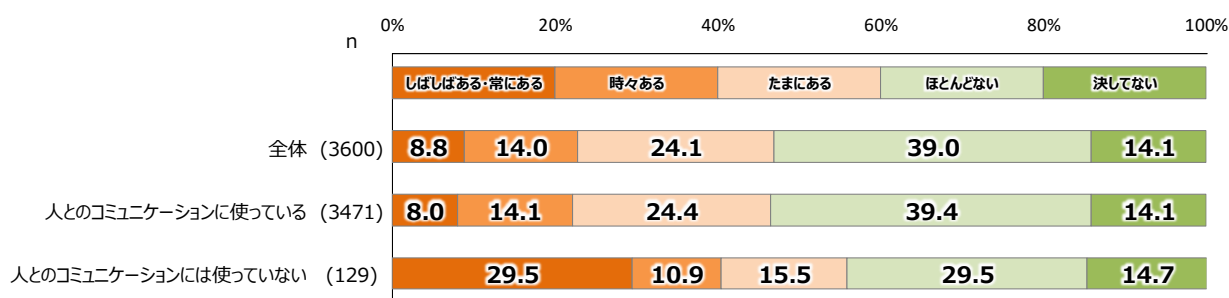
【図1-24】世帯年収別孤独感（間接質問）



(26) 普段のコミュニケーションツールの利用状況別孤独感（直接質問）

固定電話・FAX、携帯電話・スマートフォン、タブレット型端末、パソコン、その他の通信機器（インターネットに接続できるゲーム機器等）を人とのコミュニケーションに使っている人のうち、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は8.0%となっている。一方、人とのコミュニケーションに使っていない人のその割合は29.5%となっている。全国調査では、使っている人のうち「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は4.4%となっていた。一方、人とのコミュニケーションに使っていない人のその割合は12.4%となっていた。

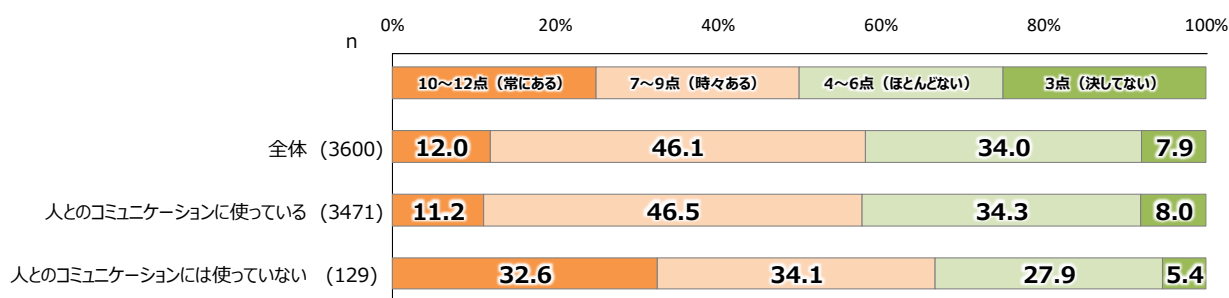
【図1-25】 普段のコミュニケーションツールの利用状況別孤独感（直接質問）



(27) 普段のコミュニケーションツールの利用状況別孤独感（間接質問）

固定電話・FAX、携帯電話・スマートフォン、タブレット型端末、パソコン、その他の通信機器（インターネットに接続できるゲーム機器等）を人とのコミュニケーションに使っている人のうち、孤独感が「10～12点」という人の割合は11.2%となっている。一方、人とのコミュニケーションに使っていない人のその割合は32.6%となっている。全国調査では、使っている人のうち、孤独感が「10～12点」という人の割合は6.0%となっていた。一方、人とのコミュニケーションに使っていない人のその割合は17.4%となっていた。

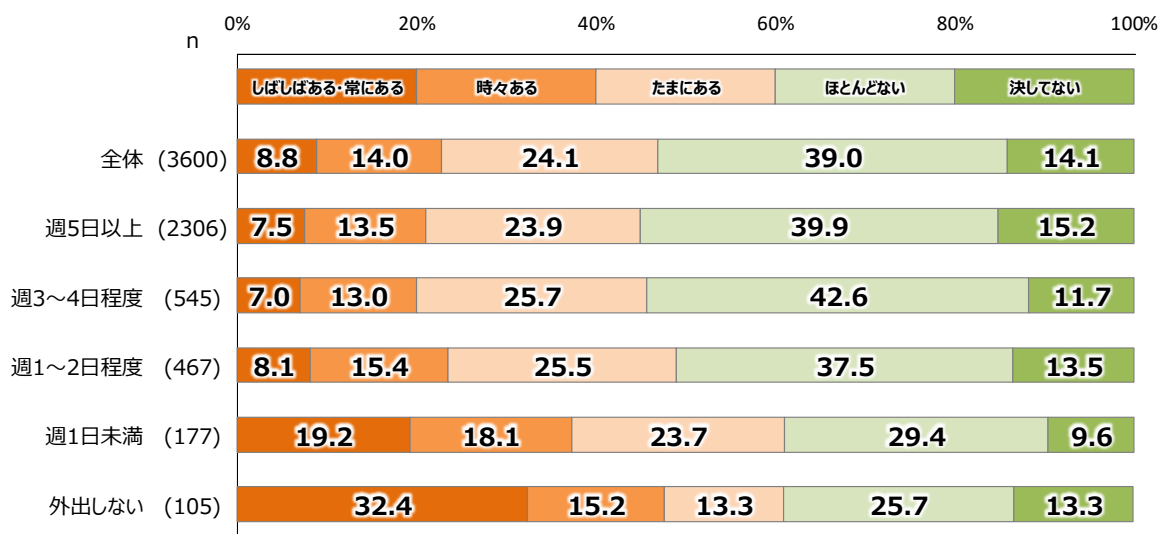
【図1-26】 普段のコミュニケーションツールの利用状況別孤独感（間接質問）



(28) 外出頻度別孤独感（直接質問）

1週間における外出頻度別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、外出しない人が32.4%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、週3～4日程度という人で7.0%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、外出しない人が14.5%で最も高くなっていた。一方、その割合が最も低いのは、週3～4日程度という人で3.0%となっていた。

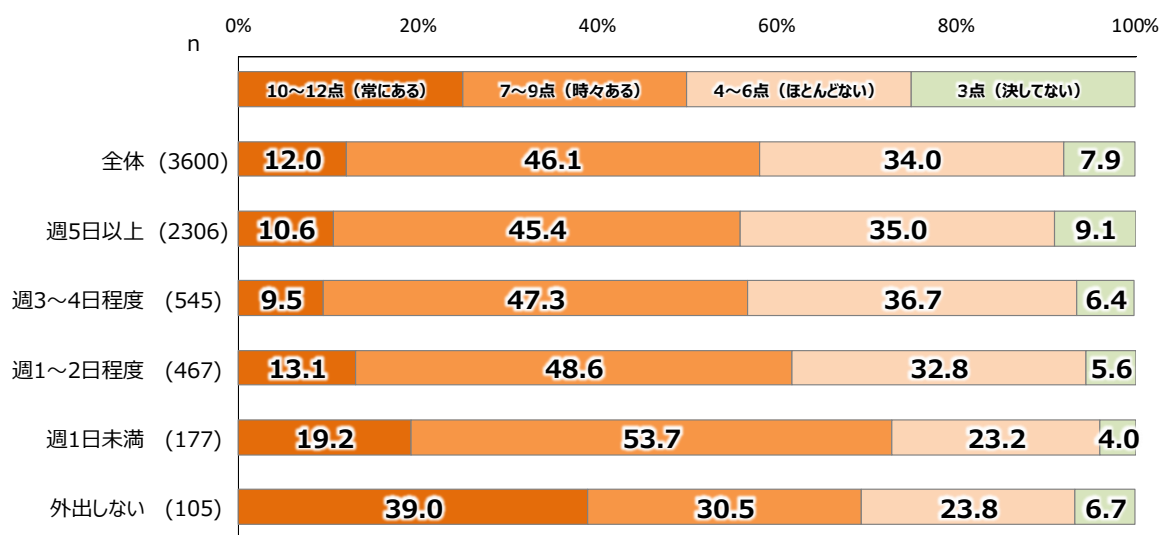
【図1-27】 外出頻度別孤独感（直接質問）



### (29) 外出頻度別孤独感（間接質問）

1週間における外出頻度別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、外出しない人が39.0%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、週3～4日程度という人で9.5%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、外出しない人が20.5%で最も高くなっていた。一方、その割合が最も低いのは、週3～4日程度という人で4.6%となっていた。

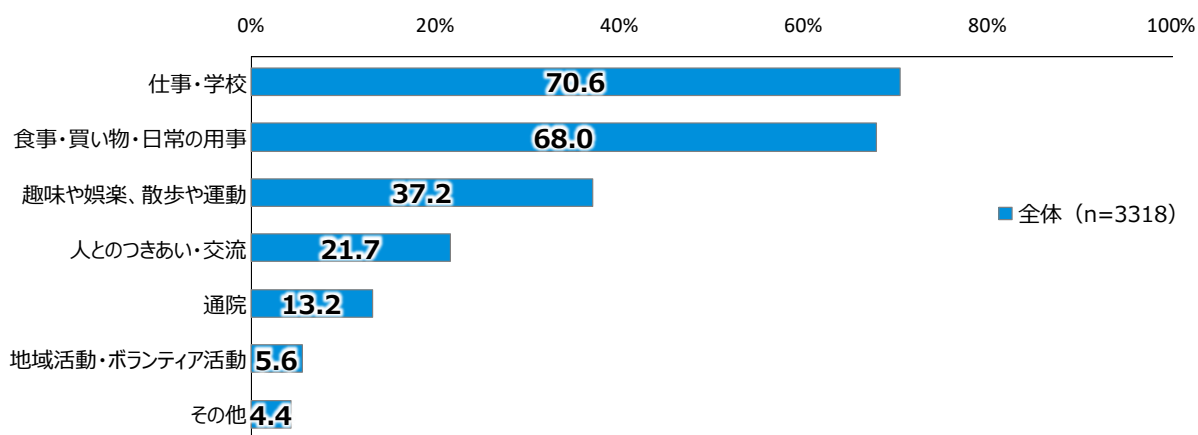
【図1-28】外出頻度別孤独感（間接質問）



### (30) 週1～2日以上外出する人の外出目的

週1～2日以上外出する人の最近1週間の外出目的は、「仕事・学校」(70.6%)、「食事・買い物・日常の用事」(68.0%)が多くなっている。全国調査では、「食事・買い物・日常の用事」(73.7%)、「仕事・学校」(60.2%)が多くなっていた。

【図1-29】週1～2日以上外出する人の外出目的【複数回答】

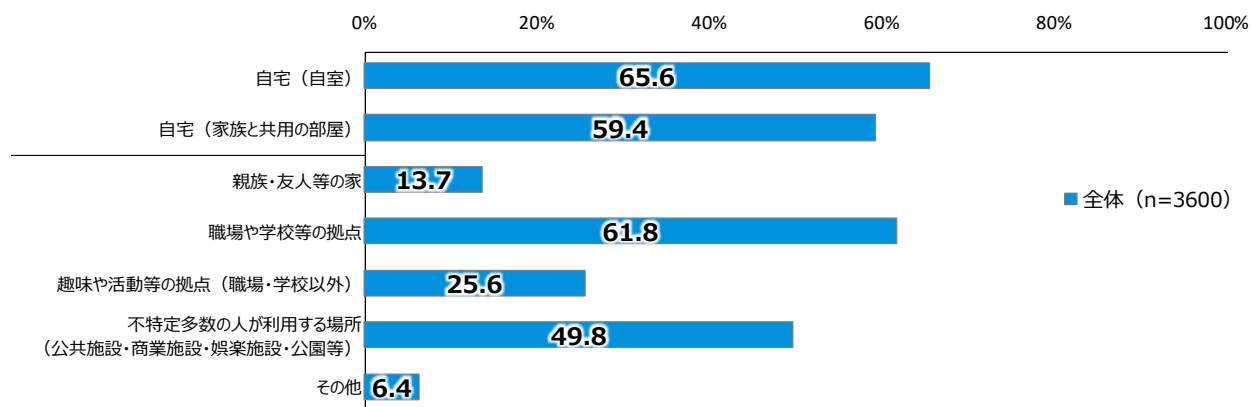




### (3 1) 最近1週間の行動範囲

最近1週間の行動範囲は、「自宅（自室）」(65.6%)のほか、「職場や学校等の拠点」(61.8%)、「自宅（家族と共用の部屋）」(59.4%)が多くなっている。全国調査では、「自宅（家族と共用の部屋）」(60.0%)のほか、「自宅（自室）」(55.9%)、「職場や学校等の拠点」(54.7%)が多くなっていた。

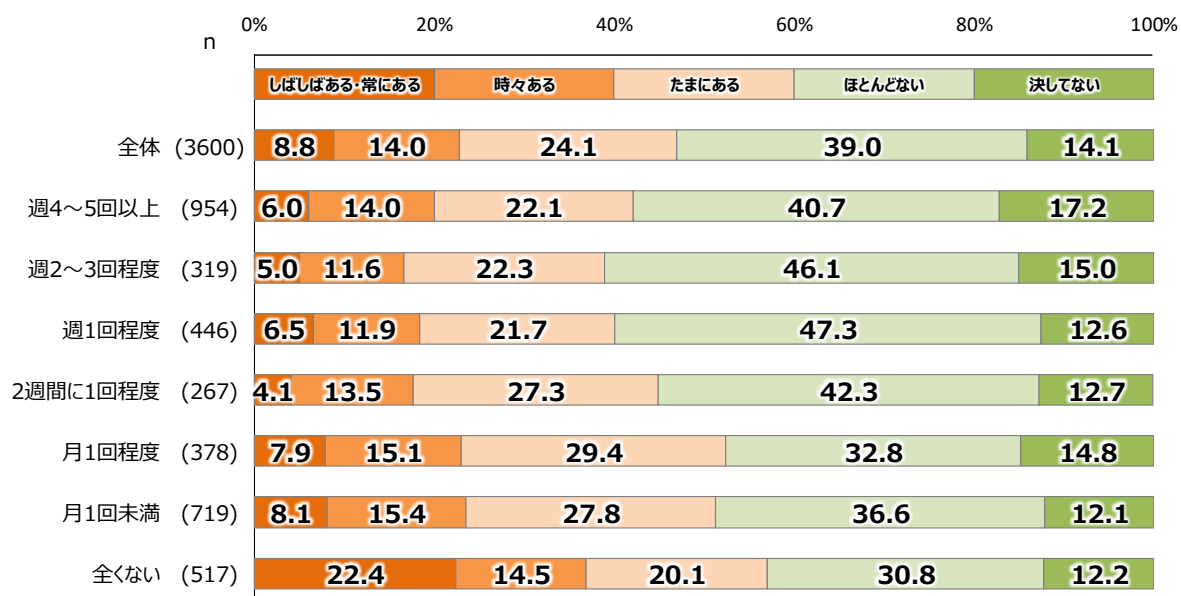
【図1-30】最近1週間の行動範囲【複数回答】



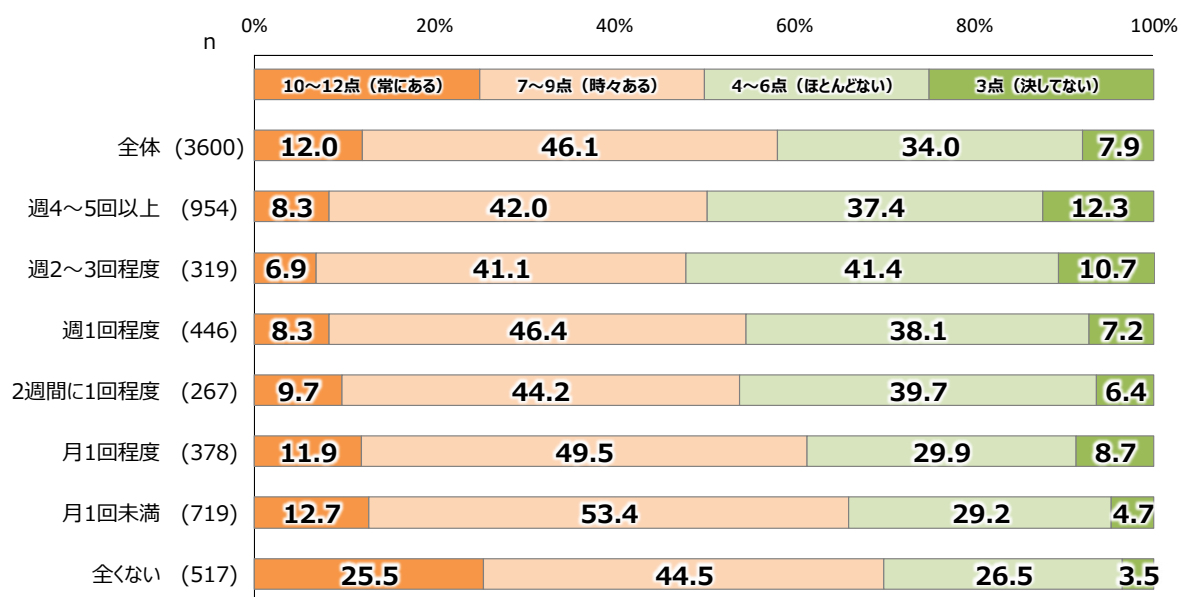
(32) 同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度別孤独感（直接質問・間接質問）

「図1-31」から「図-40」までは、同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション手段ごとに、その頻度別孤独感を示している。「図1-31」及び「図1-32」に示すとおり、直接会って話すことが全くない人の孤独感が高くなっている。全国調査においても、同じ傾向であった。

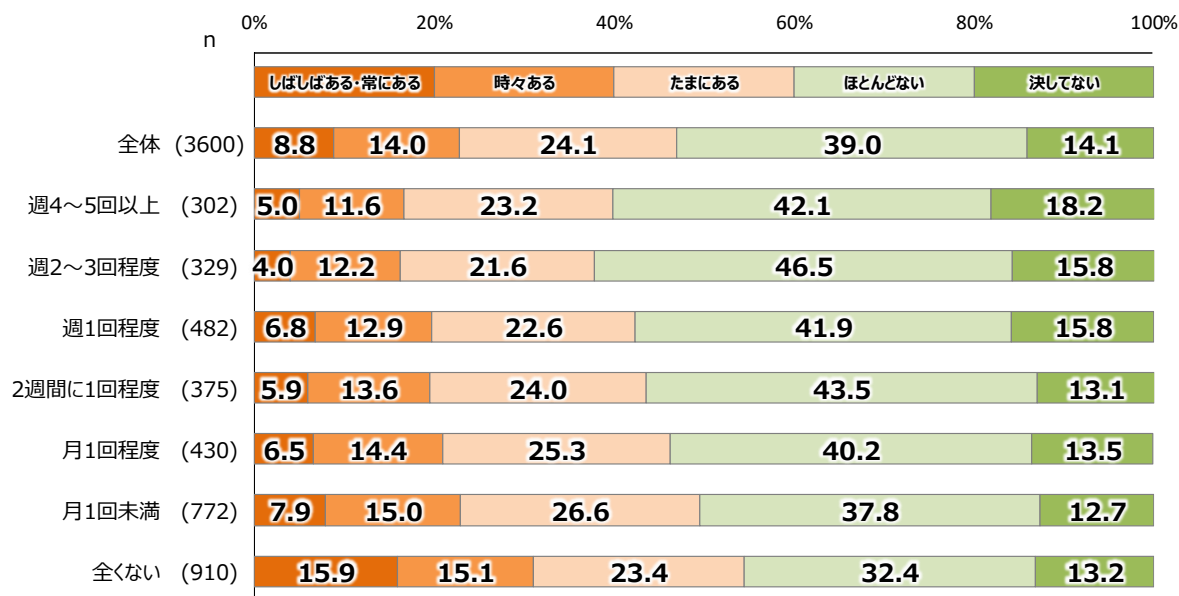
【図1-31】「直接会って話す」頻度別孤独感（直接質問）



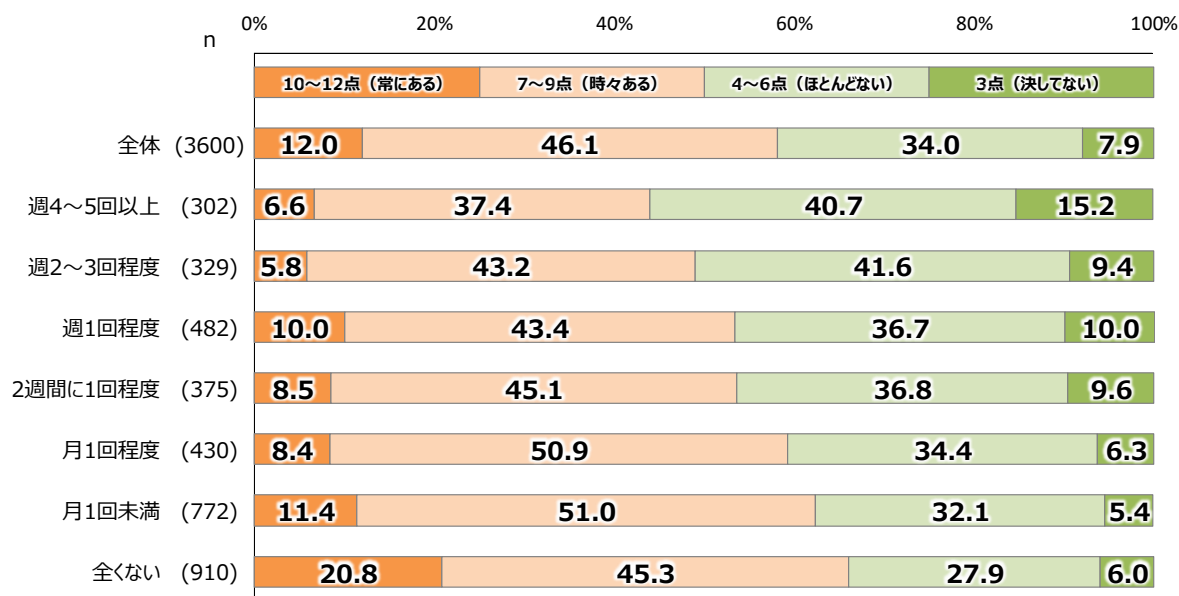
【図1-32】「直接会って話す」頻度別孤独感（間接質問）



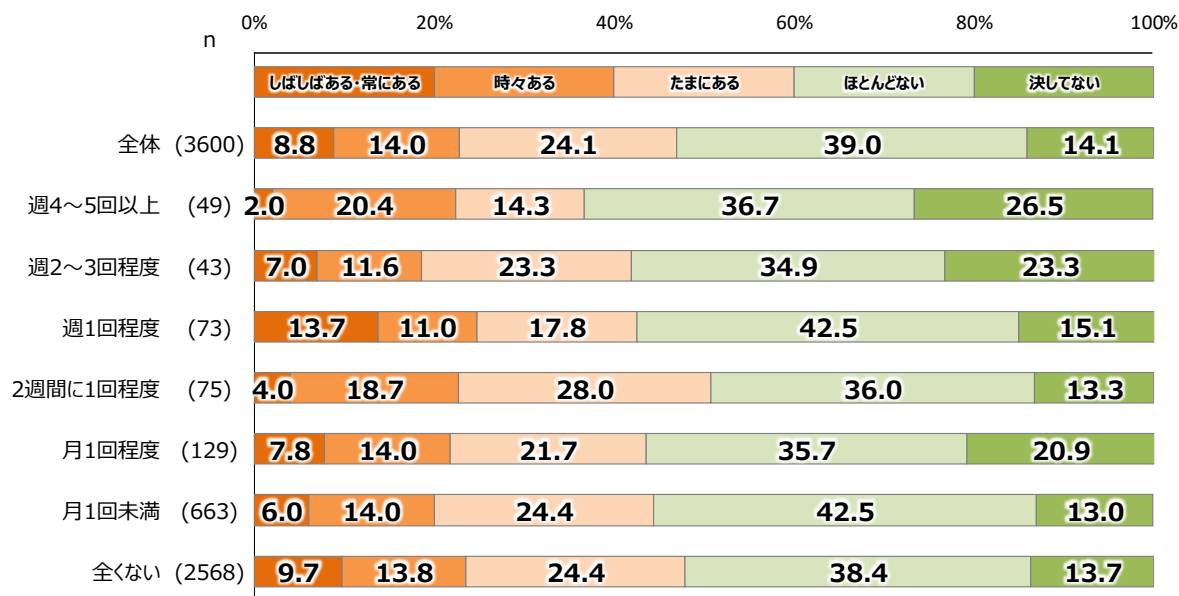
【図1-33】「電話（ビデオ通話含む）する」頻度別孤独感（直接質問）



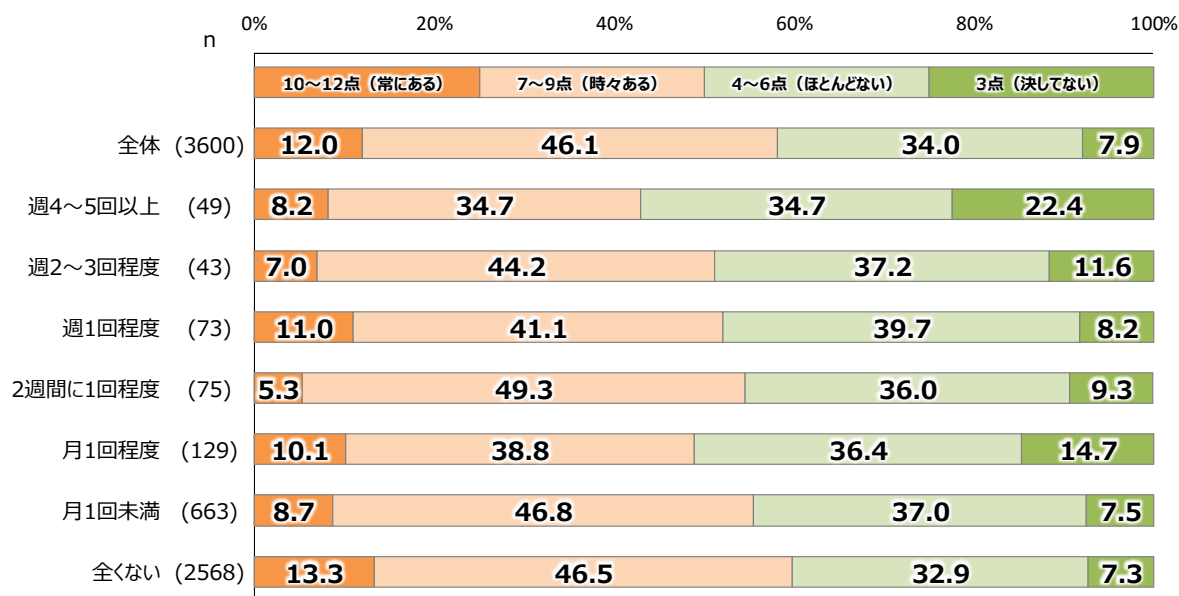
【図1-34】「電話（ビデオ通話含む）する」頻度別孤独感（間接質問）



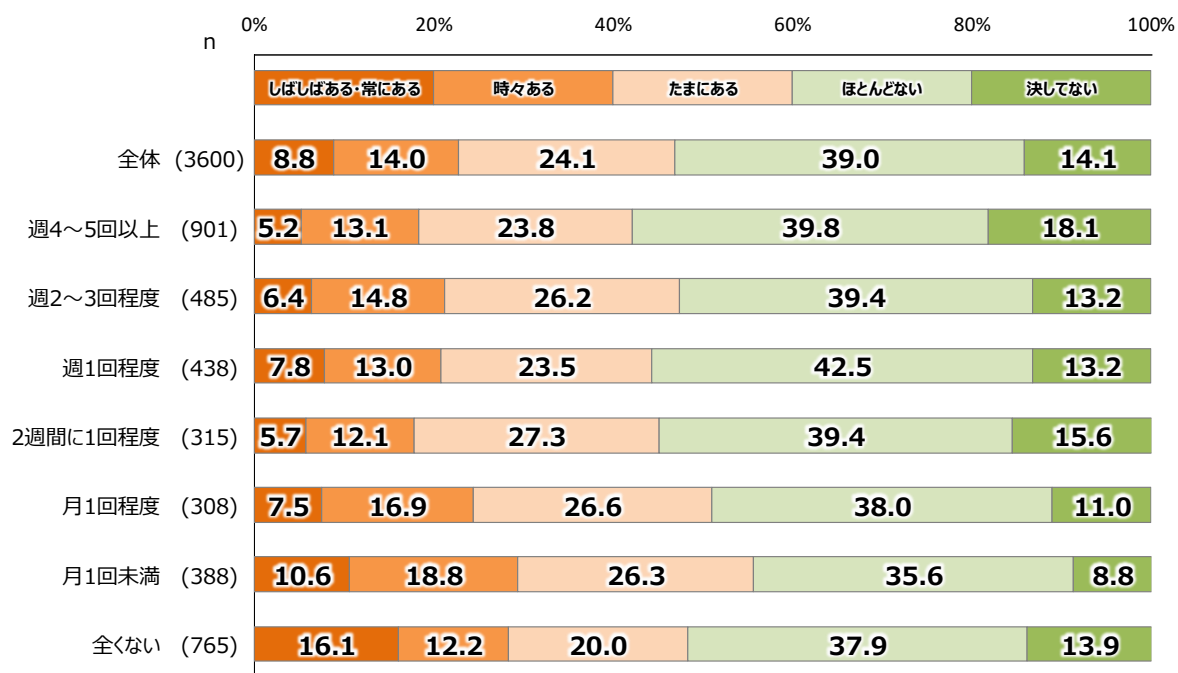
【図1-35】「郵便やFAXする」頻度別孤独感（直接質問）



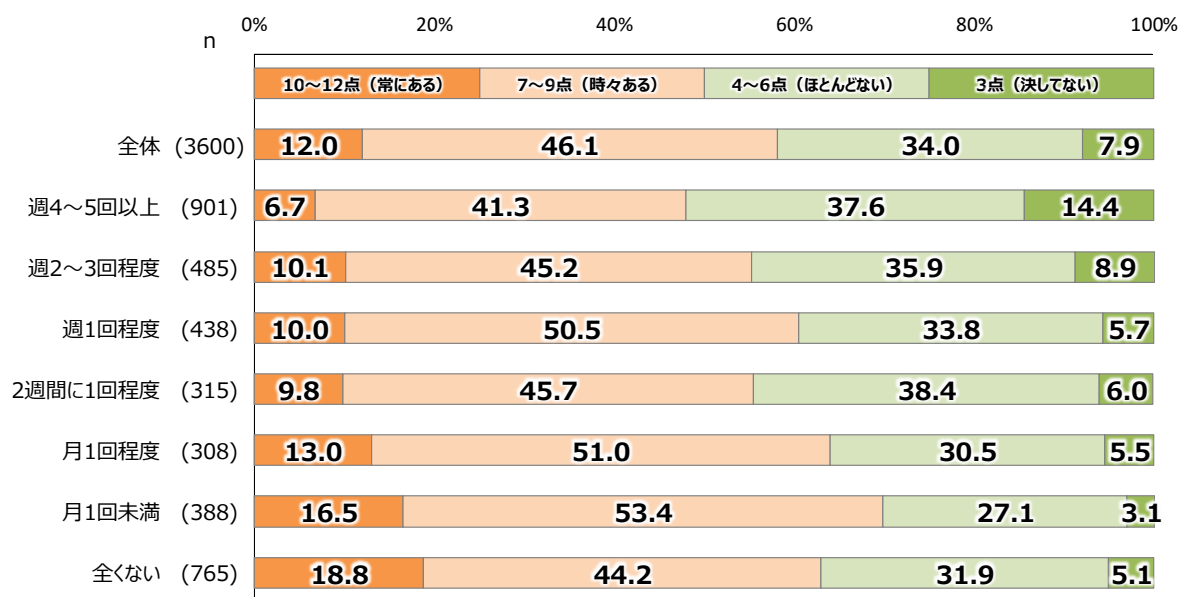
【図1-36】「郵便やFAXする」頻度別孤独感（間接質問）



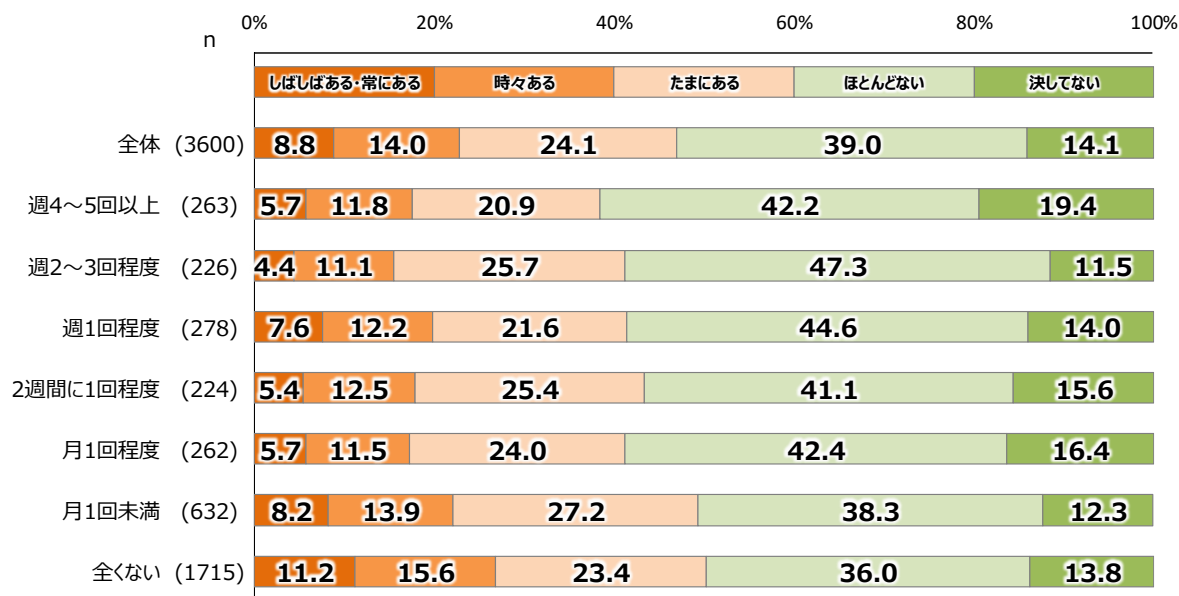
【1-37】「SNS（LINE等）をする」頻度別孤独感（直接質問）



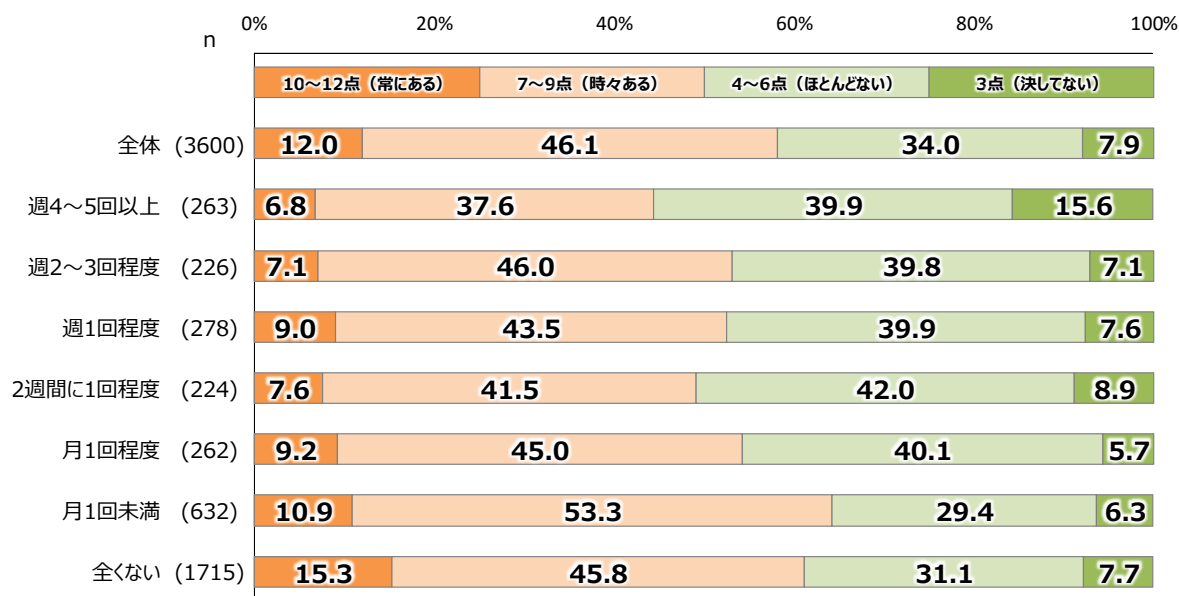
【図1-38】「SNS（LINE等）をする」頻度別孤独感（間接質問）



【図1-39】「電子メールやショートメールをする」頻度別孤独感（直接質問）



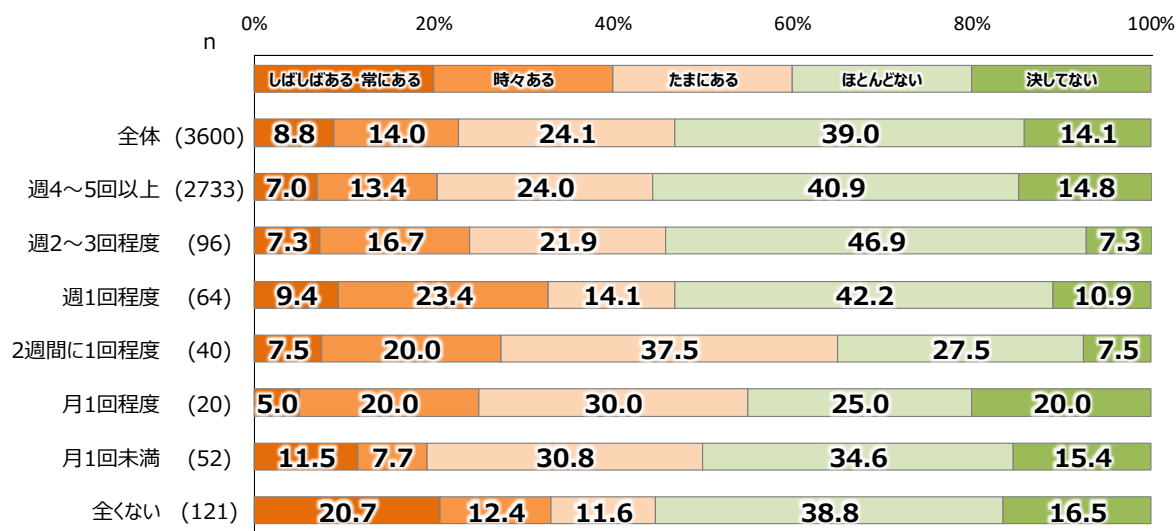
【図1-40】「電子メールやショートメールをする」頻度別孤独感（間接質問）



(33) 同居している人たちと直接会って話す頻度別孤独感（直接質問）

同居している人たちと直接会って話す頻度別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合が最も高いのは、全くないという人で20.7%となっている。一方、その割合が最も低いのは、週4～5回以上という人で7.0%となっている（n数が30未満を除く）。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合が最も高いのは、全くないという人で22.0%となっていた。一方、その割合が最も低いのは、週4～5回以上という人で5.2%となっている

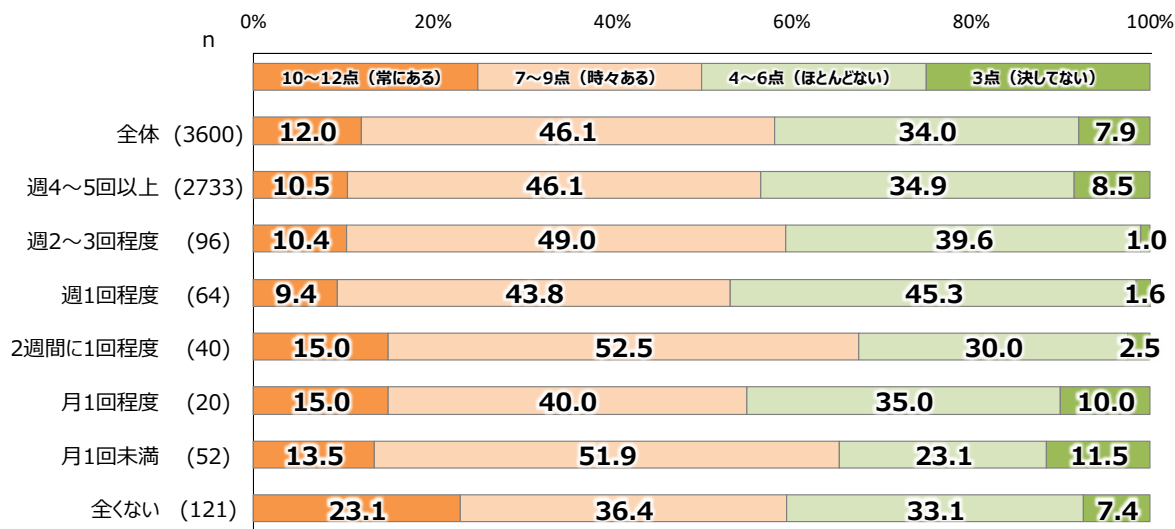
【図1-41】「直接会って話す」頻度別孤独感（直接質問）



(34) 同居している人たちと直接会って話す頻度別孤独感（間接質問）

同居している人たちと直接会って話す頻度別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合が最も高いのは、全くないという人で23.1%となっている。一方、その割合が最も低いのは、週1回程度という人で9.4%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合が最も高いのは、全くないという人で25.6%となっていた。一方、その割合が最も低いのは、週4～5回以上という人で5.2%となっていた。

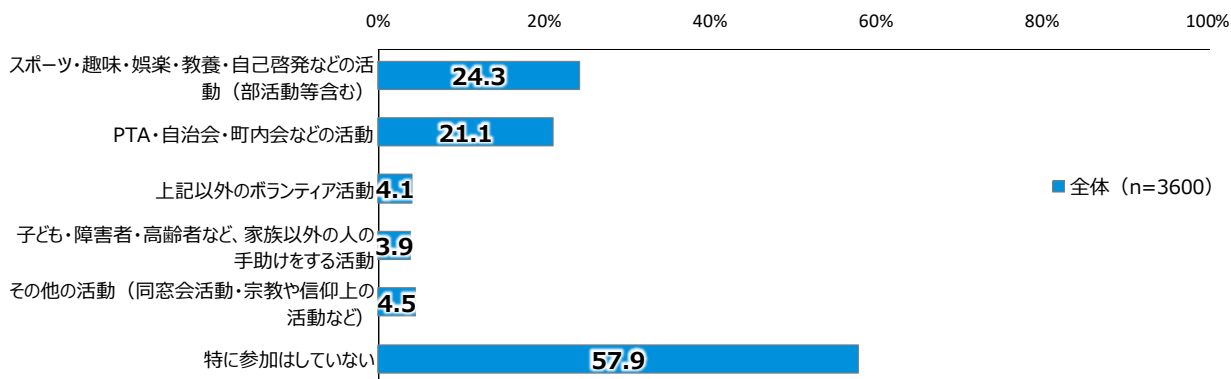
【図1-42】「直接会って話す」頻度別孤独感（間接質問）



(35) 社会活動への参加状況

現在の社会活動（人との交流する活動のみ）への参加状況では、「スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動」が24.3%で最も多くなっている。全国調査でも、「スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動」が29.6%で最も多くなっていた。

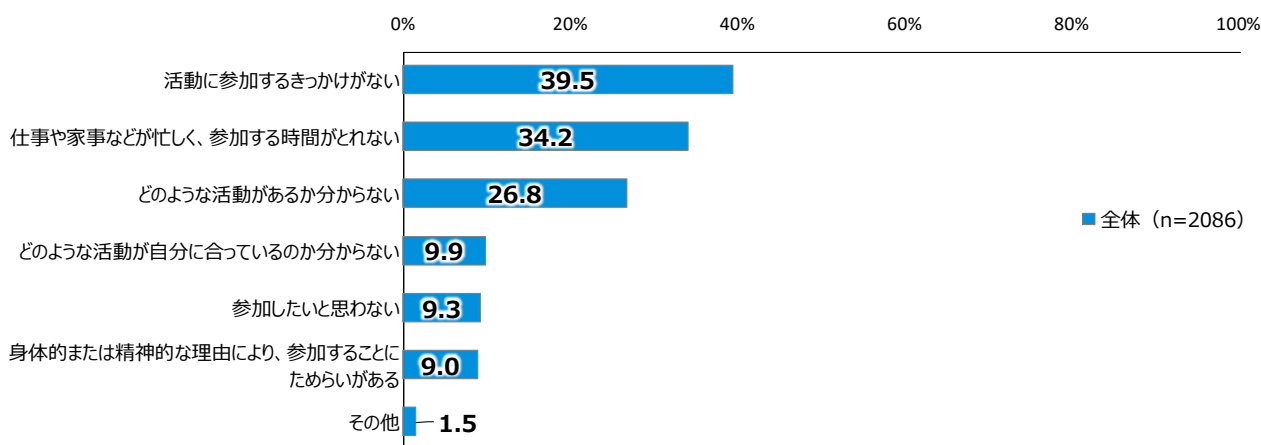
【図1-43】社会活動への参加状況【複数回答】





「特に参加していない」と回答した人の理由は、「活動するきっかけがない」が39.5%で最も多く、「仕事や家事などが忙しく、参加する時間がとれない」が34.2%、「どのような活動があるか分からない」が26.8%と続いた。（滋賀県独自設問につき、全国調査の結果はない）

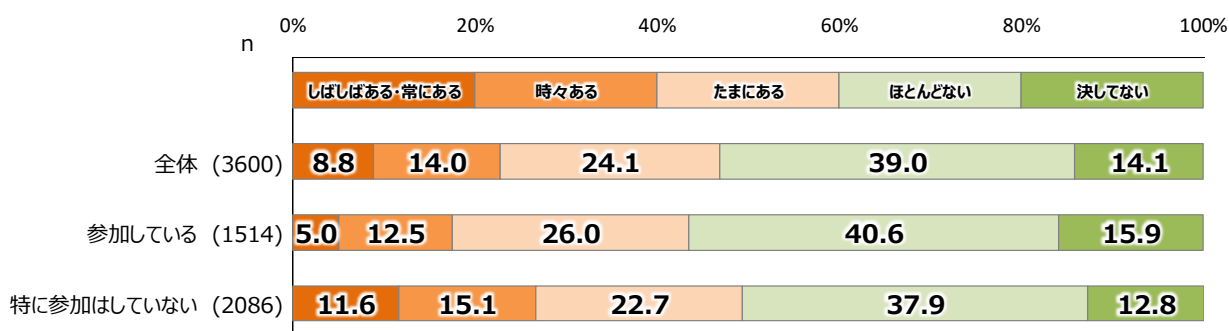
【図1-44】社会活動に参加していない理由【複数回答】



(36) 社会活動への参加状況別孤独感（直接質問）

現在の社会活動（人と交流する活動のみ）への参加状況別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は社会活動に参加している人が5.0%、特に参加していない人が11.6%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は社会活動に参加している人が5.0%、特に参加していない人が11.6%となっていた。

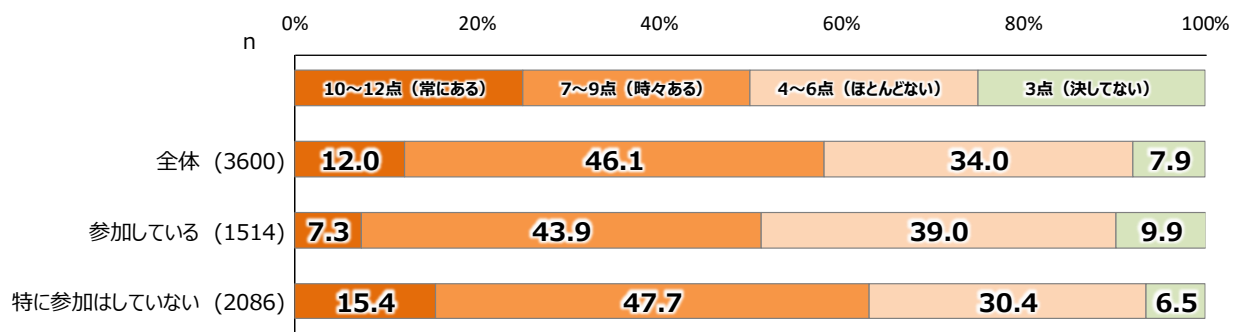
【図1-45】社会活動への参加状況別孤独感（直接質問）



(37) 社会活動への参加状況別孤独感（間接質問）

現在の社会活動（人と交流する活動のみ）への参加状況別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、社会活動に参加している人が7.3%、特に参加していない人が15.4%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、社会活動に参加している人が3.4%、特に参加していない人が8.7%となっていた。

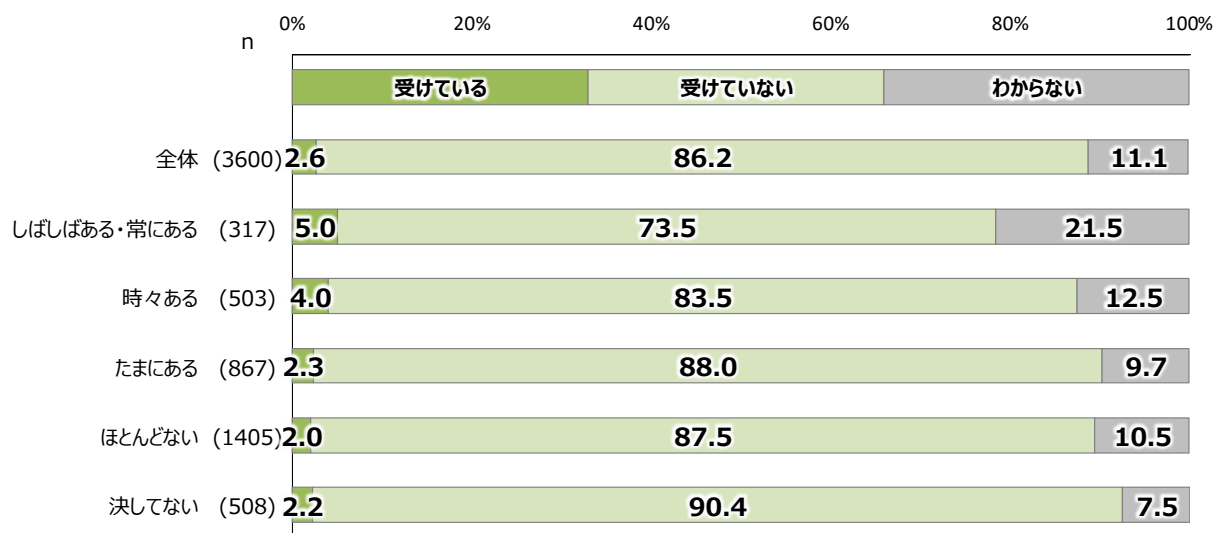
【図1-46】社会活動への参加状況別孤独感（間接質問）



(38) 孤独感（直接質問）別行政機関・NPO等からの支援の有無

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人のうち、5.0%の人が現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人のうち、8.2%の人が現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けていた。

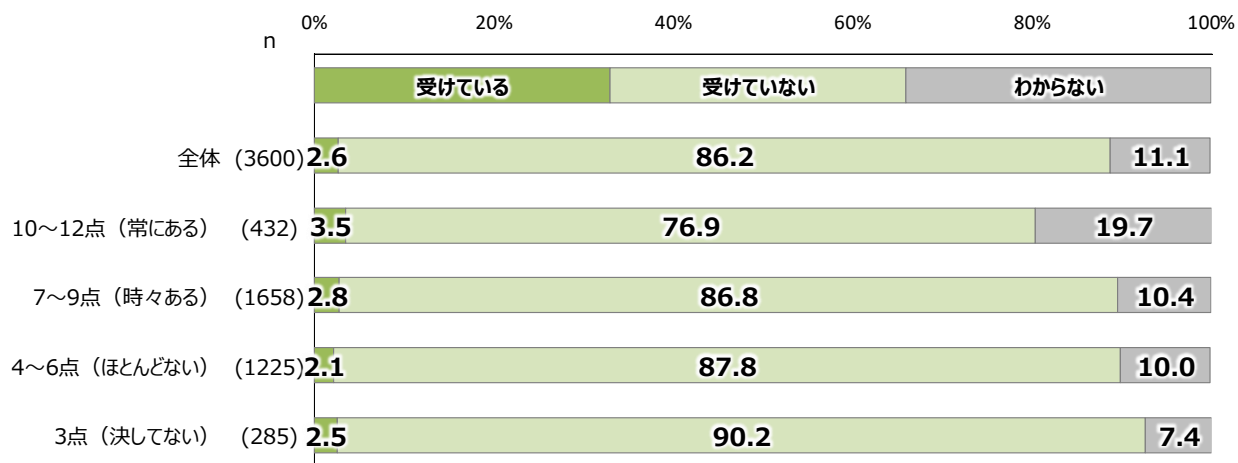
【図1-47】孤独感（直接質問）別行政機関・NPO等からの支援の有無



(39) 孤独感（間接質問）別行政機関・NPO等からの支援の有無

孤独感スコアが「10～12点」という人のうち、3.5%の人が現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けている。全国調査では、「10～12点」という人のうち、8.3%の人が現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けていた。

【図1-48】孤独感（間接質問）別行政機関・NPO等からの支援の有無



(40) 孤独感（直接質問）別支援を受けている人の支援主体

現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けている人のうち、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の現在受けている支援主体は、「行政機関（国や自治体）」が68.8%で最も高くなっている（但し、n数が30未満のため参考値扱い）。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の現在受けている支援主体は、「行政機関（国や自治体）」が68.2%で最も高くなっていた。

【図1-49】孤独感（直接質問）別支援を受けている人の支援主体【複数回答】（%）

	n	（行政 機関 自治 体）	社会 福祉 協 議 会	テ ィ ア 団 体 ラ ン 民 間	団 体 P O 等 の 民 間	自 治 体 ・ 町 内 会	そ の 他
<b>全体</b>	95	56.8	33.7	24.2	14.7	13.7	
しばしばある・常にある	16	68.8	43.8	43.8	18.8	6.3	
時々ある	20	75.0	15.0	15.0	5.0	15.0	
たまにある	20	40.0	50.0	30.0	10.0	10.0	
ほとんどない	28	57.1	39.3	21.4	14.3	14.3	
決してない	11	36.4	9.1	9.1	36.4	27.3	

(4 1) 孤独感（間接質問）別支援を受けている人の支援主体

現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けている人のうち、孤独感スコアが「10～12点」という人の現在受けている支援主体は「行政機関（国や自治体）」が73.3%で最も高くなっている（但し、n数が30未満のため参考値扱い）。全国調査では、「10～12点」という人の現在受けている支援主体は「行政機関（国や自治体）」が54.8%で最も高くなっていた。

【図1－50】孤独感（間接質問）別支援を受けている人の支援主体【複数回答】（%）

	n	行政機関 （国や自治体）	社会福祉協議会	NPO等の 民間団体	自治体・町内会	その他
<b>全体</b>	95	56.8	33.7	24.2	14.7	13.7
10～12点（常にある）	15	73.3	26.7	26.7	6.7	20.0
7～9点（時々ある）	47	59.6	36.2	21.3	17.0	10.6
4～6点（ほとんどない）	26	46.2	38.5	30.8	11.5	11.5
3点（決してない）	7	42.9	14.3	14.3	28.6	28.6

(42) 孤独感(直接質問)別支援を受けている人の支援内容

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の現在受けている支援の内容は、「経済的な支援(給付や貸付等)」が43.8%で最も高くなっている(但し、n数が30未満のため参考値扱い)。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の現在受けている支援の内容は、「経済的な支援(給付や貸付等)」が56.8%で最も高くなっていた。

【図1-51】孤独感(直接質問)別支援を受けている人の支援内容【複数回答】(%)

	n	等(経 給濟 付的 やな 貸支 付援	用援現 品(物 の食提 供品等 ・の 日支	(人 世 話 な 支 援 介 護 )	や相 情談 報支 援 供(助 言 )	そ の 他
全体	95	35.8	21.1	25.3	42.1	12.6
しばしばある・常にある	16	43.8	25.0	31.3	62.5	18.8
時々ある	20	40.0	30.0	15.0	40.0	15.0
たまにある	20	40.0	15.0	20.0	30.0	5.0
ほとんどない	28	32.1	25.0	25.0	42.9	10.7
決してない	11	18.2	0.0	45.5	36.4	18.2

(4 3) 孤独感（間接質問）別支援を受けている人の支援内容【複数回答】（%）

孤独感スコアが「10～12点」という人の現在受けている支援の内容は、「経済的な支援（給付や貸付等）」が40.0%で最も高くなっている（但し、n数が30未満のため参考値扱い）。全国調査では、「10～12点」という人の現在受けている支援の内容は、「経済的な支援（給付や貸付等）」が50.0%で最も高くなっていた。

【図1-52】孤独感（間接質問）別支援を受けている人の支援内容【複数回答】（%）

	n	等（経済的 給付的な 貸付支援	用援現 品物 の食提 提供品 等の 日支	（人的 話な や支 介護	や相 情談 報支 援提 供（助 言	そ の 他
全体	95	35.8	21.1	25.3	42.1	12.6
10～12点（常にある）	15	40.0	20.0	6.7	66.7	26.7
7～9点（時々ある）	47	42.6	23.4	25.5	36.2	6.4
4～6点（ほとんどない）	26	26.9	23.1	34.6	38.5	11.5
3点（決してない）	7	14.3	0.0	28.6	42.9	28.6

(4 4) 孤独感（直接質問）別支援を受けていない人の理由

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人のうち、現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けていない人のその理由は、「支援が必要ではないため」が63.5%で最も高くなっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人のうち、現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けていない人のその理由は、「支援が必要ではないため」が60.5%で最も高くなっていた。

【図1-53】孤独感（直接質問）別支援を受けていない人の理由【複数回答】（%）

	n	い支 た援 めが 必要 では な	あ我支 る慢援 たでが めき必 る要 程だ 度が で、	わ支 か援 らの な受 いた 方が	るの支 た手援 め続 が受 面 倒 れた ため	る恥支 たず援 めか をし 受 ける 感 じが	る相支 た手援 めに 負 担 を か と け	合（支 断援 を援 らを 申 す） 象 た し 外 た だ の め ん だ	そ の 他
全体	3104	83.3	4.6	8.3	3.2	1.6	1.3	0.4	5.0
しばしばある・常にある	233	63.5	7.3	21.0	9.4	8.6	3.4	0.4	7.7
時々ある	420	76.4	6.9	12.4	4.8	2.4	2.4	1.0	6.2
たまにある	763	81.4	5.2	9.3	4.2	1.2	2.0	0.4	5.4
ほとんどない	1229	87.2	3.7	5.9	1.8	0.9	0.6	0.2	4.6
決してない	459	92.4	2.2	2.8	0.7	0.2	0.2	0.2	2.8



(45) 孤独感（間接質問）別支援を受けていない人の理由

孤独感スコアが「10～12点」という人のうち、現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けていない人のその理由は「支援が必要ではないため」が68.7%で最も高くなっている。全国調査では、「10～12点」という人のうち、現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けていない人のその理由は「支援が必要ではないため」が60.4%で最も高くなっていた。

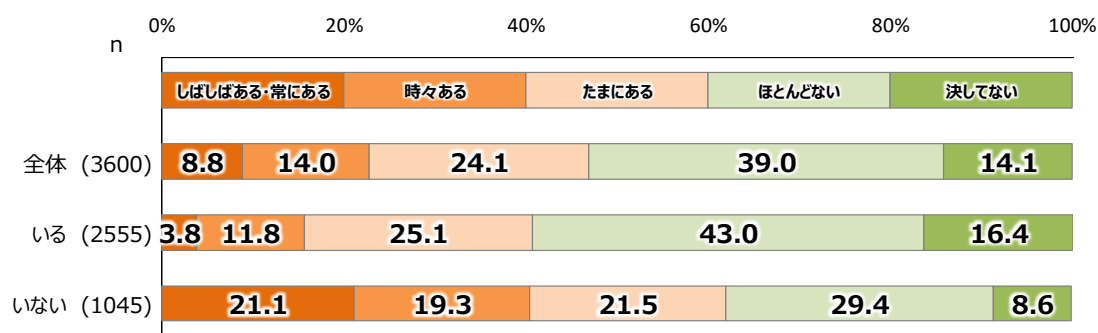
【図1-54】孤独感（間接質問）別支援を受けていない人の理由【複数回答】（%）

	n	い支援が必要ではない	あ我々の支援が必要だ	わ支援の受け方が	るの支援が受けてあ	る支たず支援を感	る相支たず支援に負担	合（含）が支断援を申す対象外のため	その他
全体	3104	83.3	4.6	8.3	3.2	1.6	1.3	0.4	5.0
10～12点（常にある）	332	68.7	7.5	19.0	9.3	6.3	3.6	0.9	6.3
7～9点（時々ある）	1439	81.9	5.2	9.2	4.0	1.3	1.2	0.3	4.9
4～6点（ほとんどない）	1076	87.5	3.6	4.9	0.7	1.0	1.0	0.4	5.1
3点（決してない）	257	92.2	1.2	3.5	0.8	0.0	0.4	0.0	3.5

(46) 不安や悩みの相談相手の有無別孤独感（直接質問）

不安や悩みの相談相手の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、相談相手がいる人が3.8%、相談相手がいない人が21.1%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、相談相手がいる人が2.9%、相談相手がいない人が23.6%となっていた。

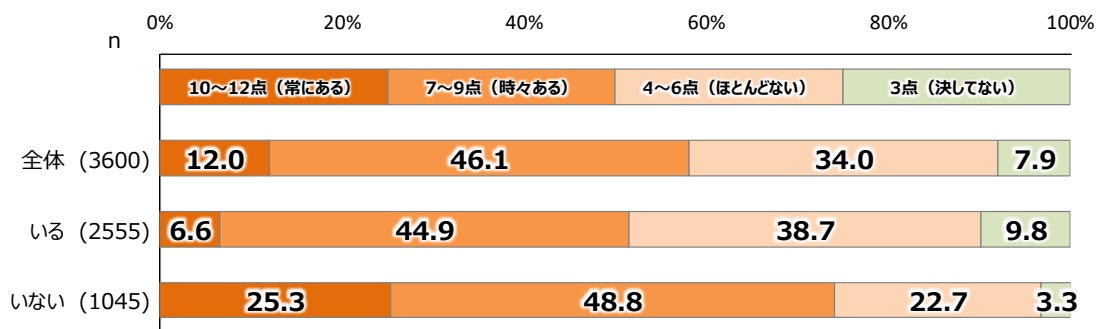
【図1-55】不安や悩みの相談相手の有無別孤独感（直接質問）



(47) 不安や悩みの相談相手の有無別孤独感（間接質問）

不安や悩みの相談相手の有無別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、相談相手がいる人が6.6%、相談相手がいない人が25.3%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、相談相手がいる人が4.3%、相談相手がいない人が28.8%となっていた。

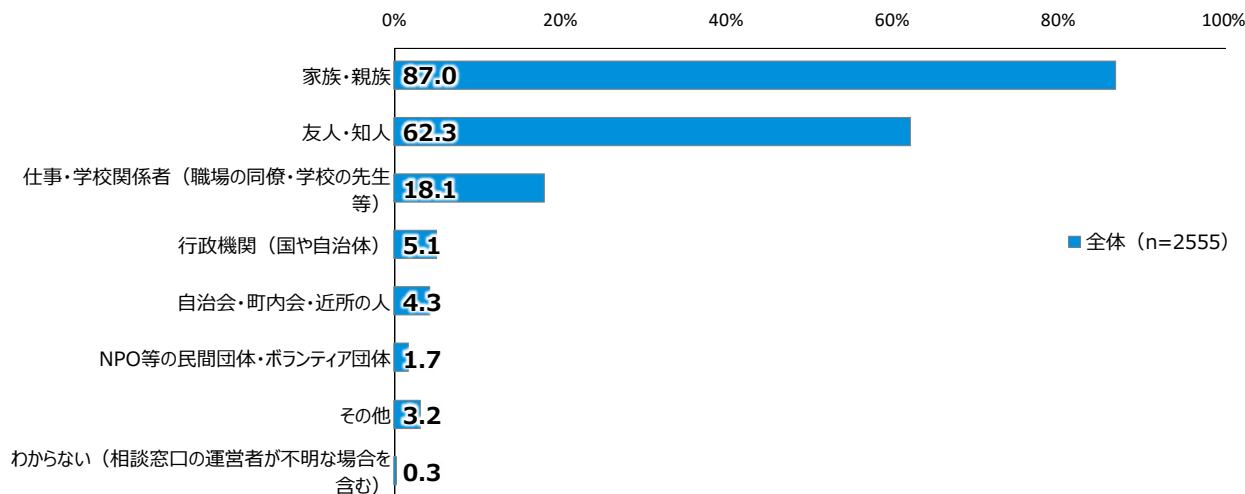
【図1-56】 不安や悩みの相談相手の有無別孤独感（間接質問）



(48) 不安や悩みの相談相手の種類

不安や悩みが生じた場合の相談相手は「家族・親族」(87.0%)や「友人・知人」(62.3%)が多くなっている。全国調査では、「家族・親族」(93.0%)や「友人・知人」(63.2%)が多くなっていた。

【図1-57】 不安や悩みの相談相手の種類【複数回答】



(49) 孤独感（直接質問）別不安や悩みを相談する際の感情

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の不安や悩みを相談する際の感情は、「相談しても無駄である。（相談しても解決しない）」が43.5%で最も高くなっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の不安や悩みを相談する際の感情は、「相談することで解決しなくてとも気持ち楽になる」が49.0%で最も高くなっていた。

【図1-58】孤独感（直接質問）別不安や悩みを相談する際の感情【複数回答】（%）

	n	ら決決相 れので談 る手きす 掛るる かまこ りたと がはで 得解解	ち決相 がし談 楽なす にくる なとこ るもと 気 持解	面みこ相 倒をと手 で説やに あ明、連 るす不絡 る安を のや取 が悩る	ず相 か談 しす いる こ と が 恥	負相 担談 にす なると 相手の	解あ相 決る談 し（し ない相 ）も し無 駄も で	そ の 他
全体	3600	48.0	55.4	8.1	7.1	10.6	15.0	5.7
しばしばある・常にある	317	21.1	30.6	13.9	12.3	25.2	43.5	9.5
時々ある	503	38.0	51.9	13.7	11.3	12.7	20.9	5.6
たまにある	867	45.4	61.5	9.2	10.5	14.1	12.8	4.4
ほとんどない	1405	54.4	58.0	5.8	4.2	6.2	9.3	6.0
決してない	508	61.4	56.7	3.7	1.6	5.5	11.2	4.9

(50) 孤独感（間接質問）別不安や悩みを相談する際の感情

孤独感スコアが「10～12点」という人の不安や悩みを相談する際の感情は、「相談しても無駄である（相談しても解決しない）」が37.0%で最も高くなっている。全国調査では、「10～12点」という人の不安や悩みを相談する際の感情は、「相談しても無駄である（相談しても解決しない）」が52.1%で最も高くなっていた。

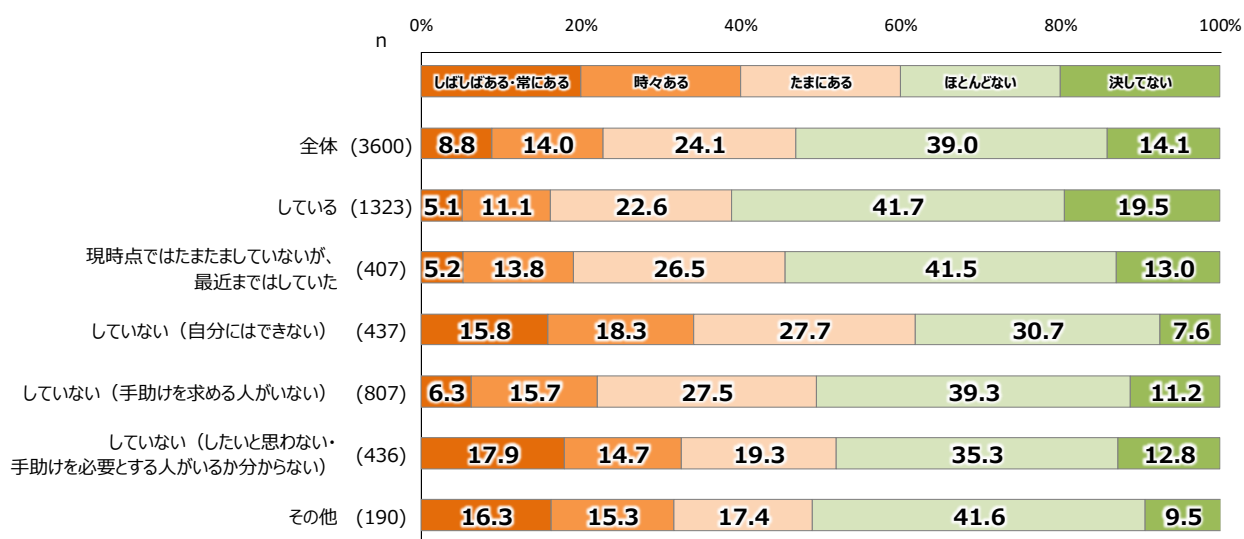
【図1-59】孤独感（間接質問）別不安や悩みを相談する際の感情【複数回答】（%）

	n	ら決決相 れので談 る手きす 掛るる かまこ りたと がはで 得解解	ち決相 がし談 楽なす にくる なとこ るもと 気 持解	面みこ相 倒をと手 で説やに あ明、連 るす不絡 る安を のや取 が悩る	ず相 か談 しす いる こ と が 恥	負相 担談 にす なると 相手の	解あ相 決る談 し（し ない相 ）も し無 駄も で	そ の 他
全体	3600	48.0	55.4	8.1	7.1	10.6	15.0	5.7
10～12点（常にある）	432	24.3	36.6	16.2	13.4	22.0	37.0	9.3
7～9点（時々ある）	1658	43.4	57.2	9.7	9.2	11.9	15.0	5.1
4～6点（ほとんどない）	1225	57.3	59.2	4.4	3.3	6.3	9.5	5.4
3点（決してない）	285	70.9	56.8	2.8	1.4	3.9	6.0	4.9

(5 1) 他者への手助けの状況別孤独感（直接質問）

他者への手助けの状況別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、手助けをしていない（したいと思わない・手助けを必要とする人がいるか分からない）という人が 17.9%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、手助けをしている人で5.1%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、手助けをしていない（自分にはできない）という人が 9.5%で最も高くなっていた。一方、その割合が最も低いのは、手助けをしている人で 3.2%となっていた。

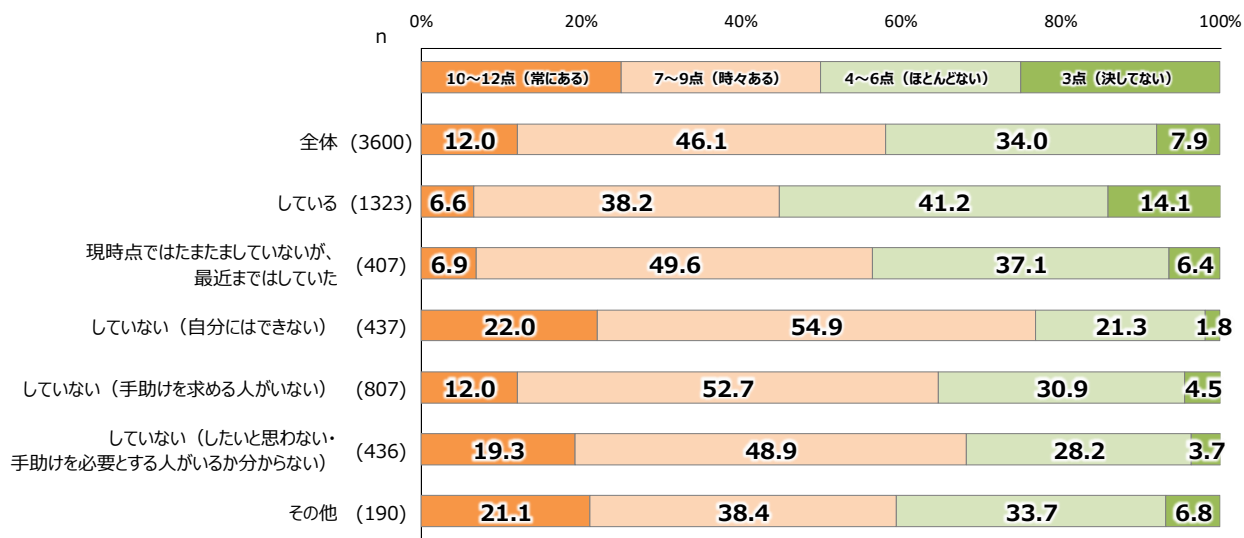
【図1－60】他者への手助けの状況別孤独感（直接質問）



(5 2) 他者への手助けの状況別孤独感（間接質問）

他者への手助けの状況別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、手助けをしていない（自分にはできない）という人が22.0%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、手助けをしている人で6.6%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、手助けをしていない（自分にはできない）という人が14.4%で最も高くなっていた。一方、その割合が最も低いのは、手助けをしている人で3.6%となっていた。

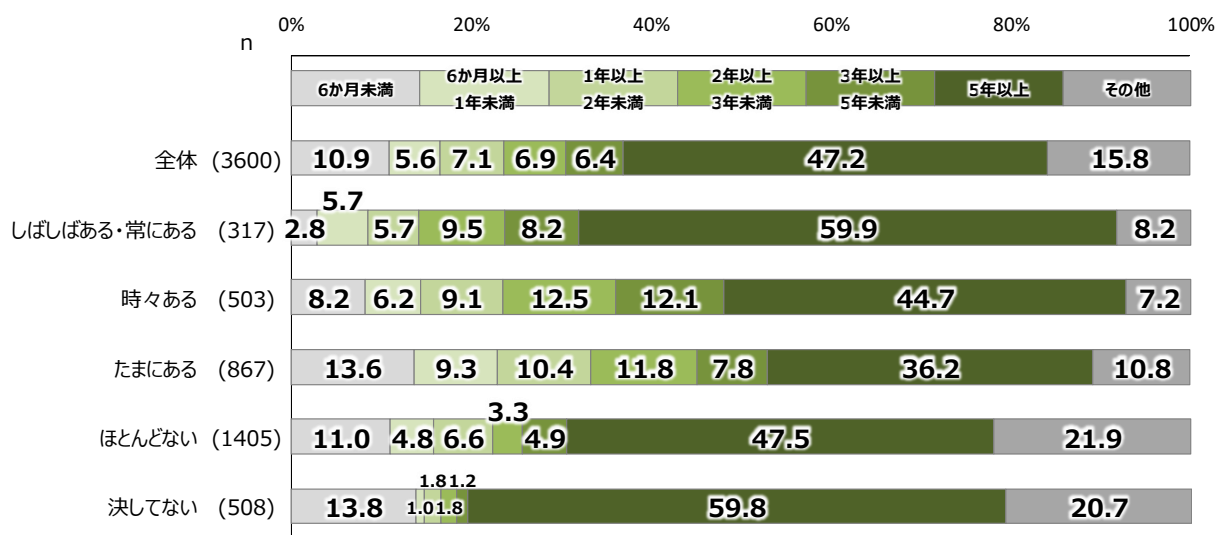
【図1-61】 他者への手助けの状況別孤独感（間接質問）



(5 3) 現在の孤独感の継続期間（直接質問）

現在の孤独感の継続期間をみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の59.9%が5年以上、その期間が継続していると回答している。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の54.4%が5年以上、その期間が継続していると回答していた。

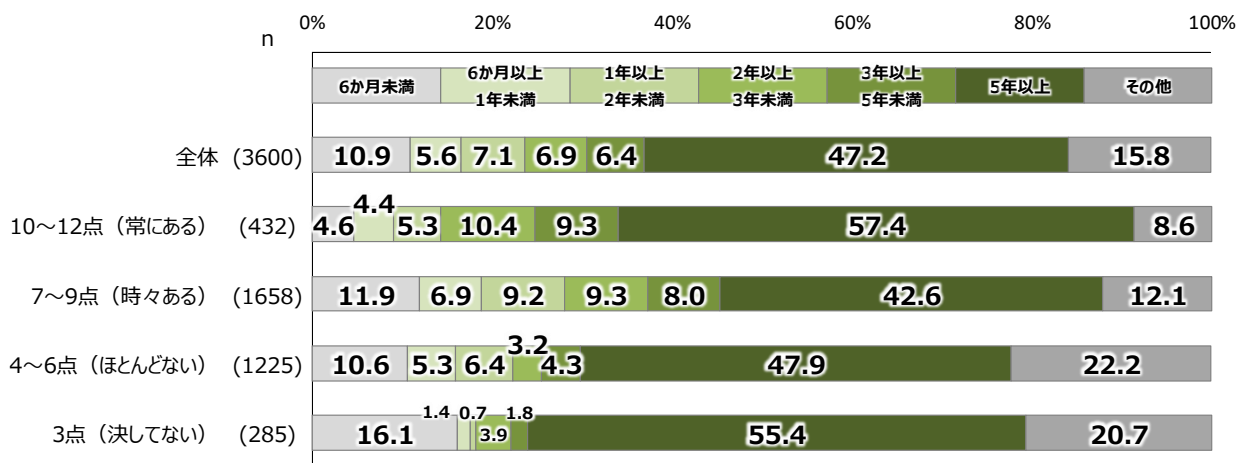
【図1-62】現在の孤独感の継続期間（直接質問）



(5 4) 現在の孤独感の継続期間（間接質問）

現在の孤独感の継続期間をみると、孤独感スコアが「10~12点」という人の57.4%が5年以上、その期間が継続していると回答している。全国調査では、「10~12点」という人の52.5%が5年以上、その期間が継続していると回答していた。

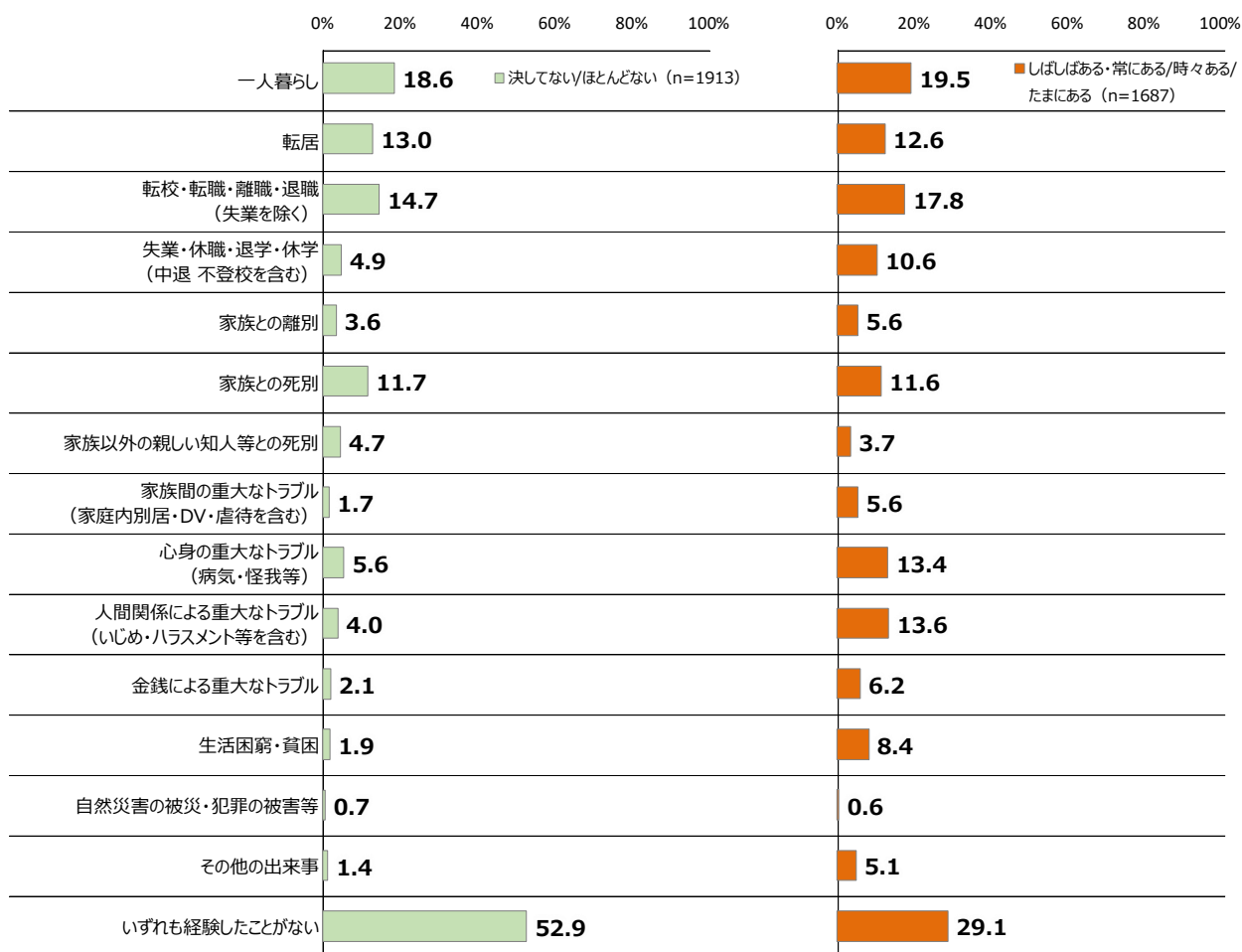
【図1-63】現在の孤独感の継続期間（間接質問）



(55) 現在の孤独感に至る前に経験した出来事（直接質問）

「図1-64」の右側のグラフは、孤独感が「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」と回答した人がその状況に至る前に経験した出来事を示している。また、左側のグラフは孤独であると感じることが「決してない」、「ほとんどない」と回答した人がその状況に至る前に経験した出来事を示している。

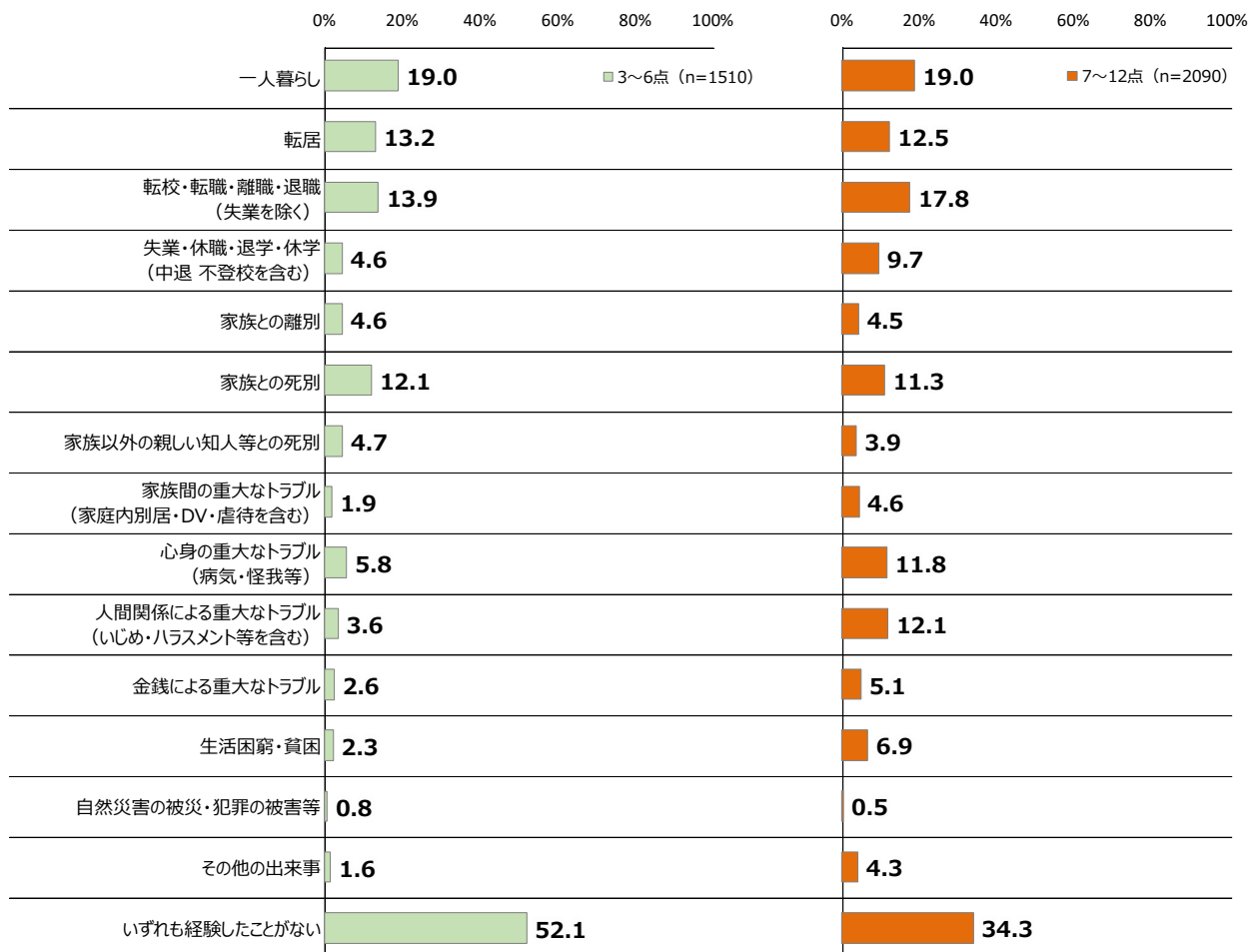
【図1-64】現在の孤独感に至る前に経験した出来事（直接質問）【複数回答】



(56) 現在の孤独感に至る前に経験した出来事（間接質問）

「図1-65」の右側のグラフは、孤独感スコアが「7~12点」という人がその状況に至る前に経験した出来事を示している。また、左側のグラフは孤独感スコアが「3~6点」という人がその状況に至る前に経験した出来事を示している。

【図1-65】現在の孤独感に至る前に経験した出来事（間接質問）【複数回答】

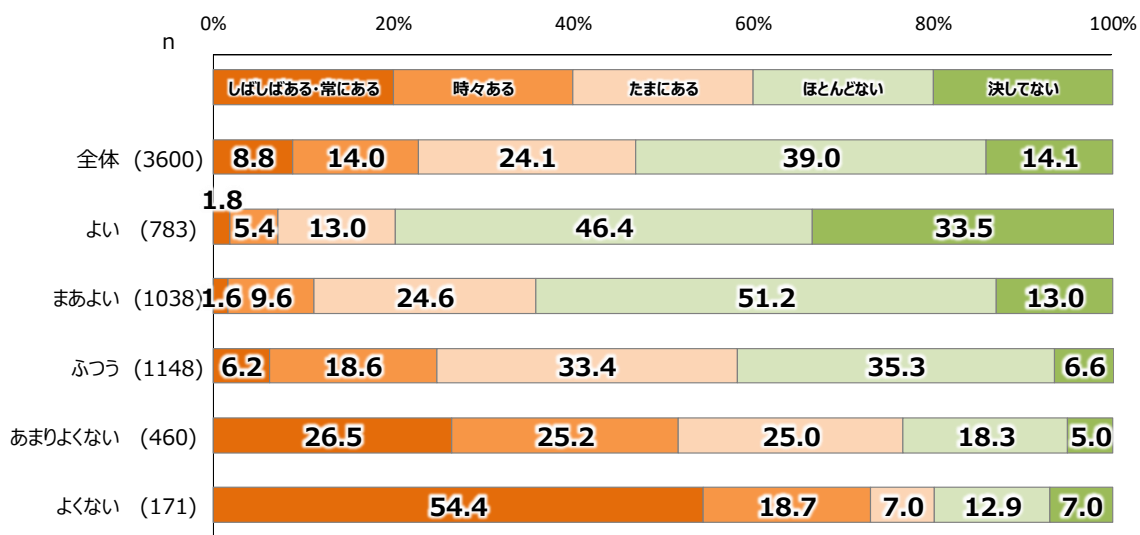




(57) 心身の健康状態別孤独感（直接質問）

現在の心身の健康状態別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、よくないという人が54.4%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、まあよいという人で1.6%となっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、よくないという人が36.9%で最も高くなっていた。一方、その割合が最も低いのは、まあよいという人で1.5%となっていた。

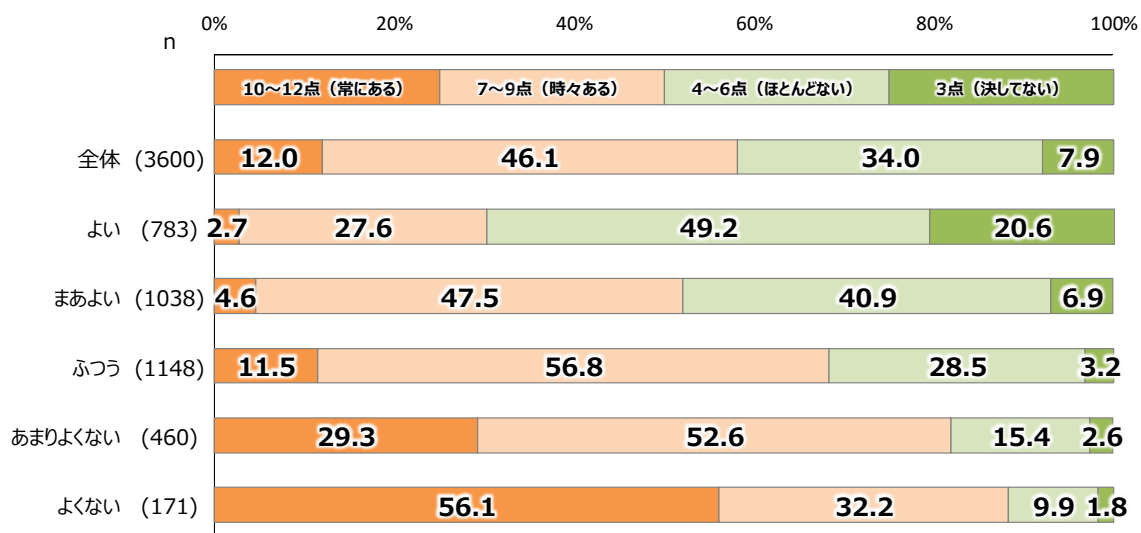
【図1-66】心身の健康状態別孤独感（直接質問）



(58) 心身の健康状態別孤独感（間接質問）

現在の心身の健康状態別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、よくないという人が56.1%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、よいという人で2.7%となっている。全国調査では、「10～12点」という人の割合は、よくないという人が38.9%で最も高くなっていた。一方、その割合が最も低いのは、よいという人で1.2%となっていた。

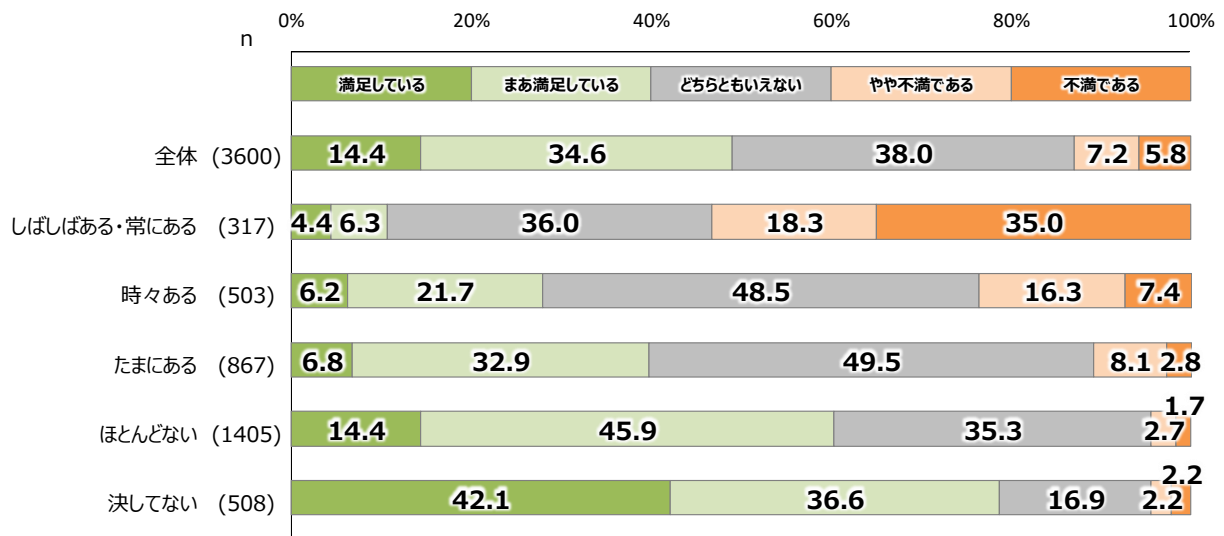
【図1-67】心身の健康状態別孤独感（間接質問）



(59) 孤独感（直接質問）別社会とのかかわり方の満足度

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の社会とのかかわり方の満足度は、どちらともいえないという人が36.0%で最も高くなっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の社会とのかかわり方の満足度は、どちらともいえないという人が40.8%で最も高くなっていた。

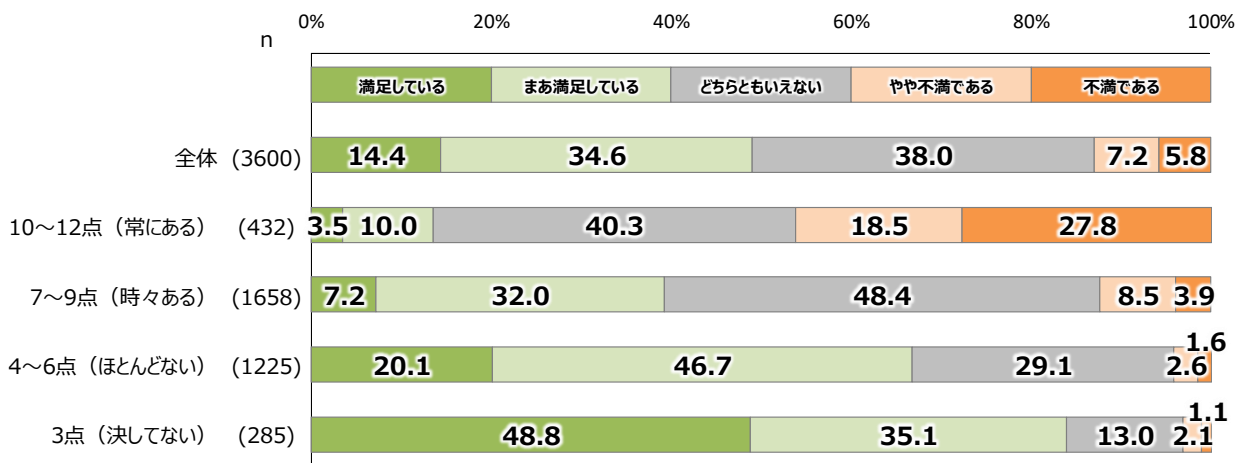
【図1-68】孤独感（直接質問）別社会とのかかわり方の満足度



(60) 孤独感（間接質問）別社会とのかかわり方の満足度

孤独感スコアが「10~12点」という人の社会とのかかわり方の満足度は、どちらともいえないという人が40.3%で最も高くなっている。全国調査では、「10~12点」という人の社会とのかかわり方の満足度は、どちらともいえないという人が48.0%で最も高くなっていた。

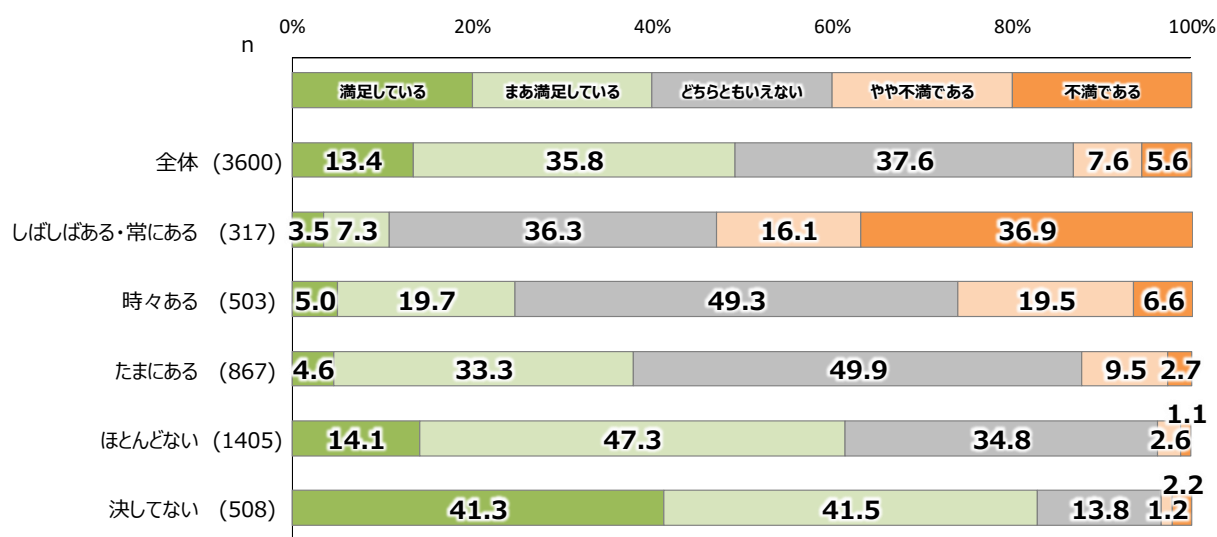
【図1-69】孤独感（間接質問）別社会とのかかわり方の満足度



(6 1) 孤独感（直接質問）別他人とのかかわり方の満足度

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の他人とのかかわり方の満足度は、不満であるという人が 36.9%で最も高くなっている。全国調査では、「しばしばある・常にある」と回答した人の他人とのかかわり方の満足度は、どちらともいえないという人が 41.2%で最も高くなっていた。

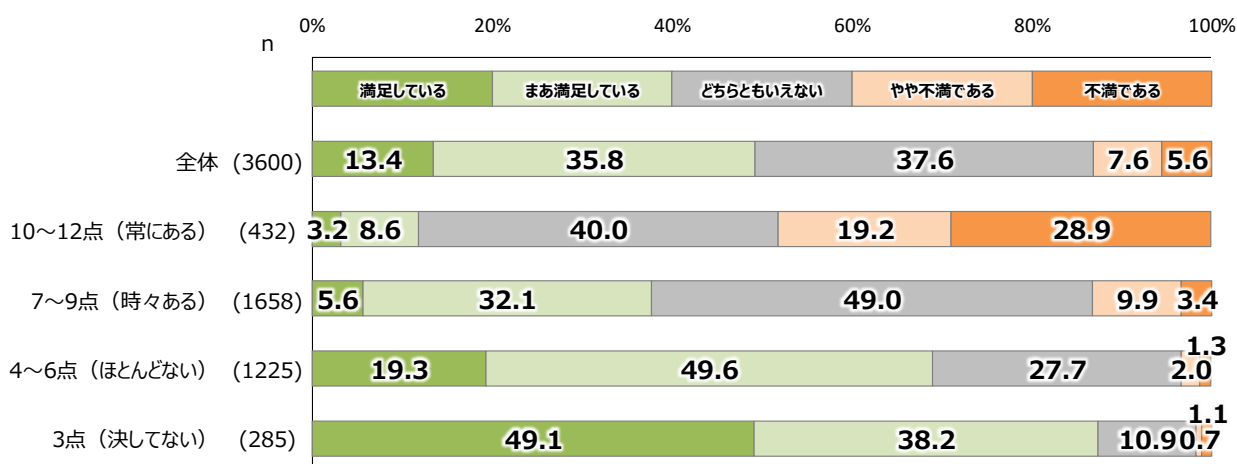
【図 1 - 7 0】 孤独感（直接質問）別他人とのかかわり方の満足度



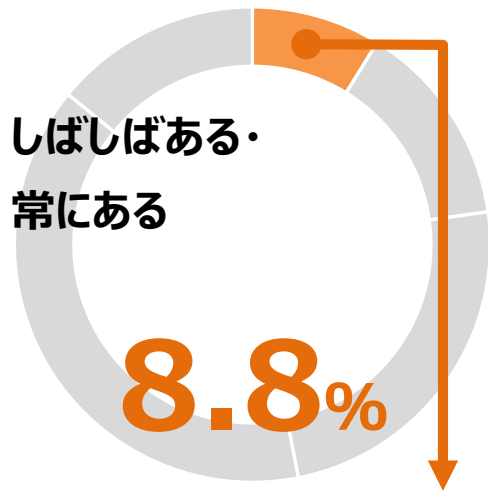
(6 2) 孤独感（間接質問）別他人とのかかわり方の満足度

孤独感スコアが「10～12点」という人の他人とのかかわり方の満足度は、どちらともいえないという人が 40.0%で最も高くなっている。全国調査では、「10～12点」という人の他人とのかかわり方の満足度は、どちらともいえないという人が 48.3%で最も高くなっていた。

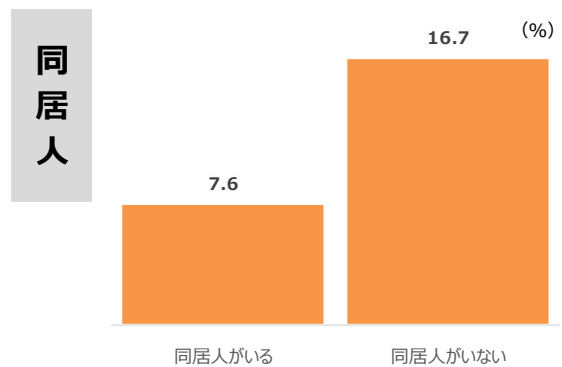
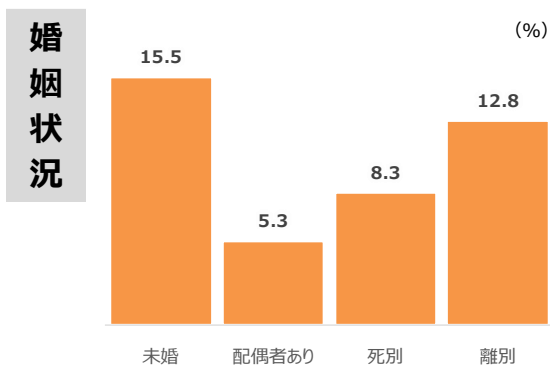
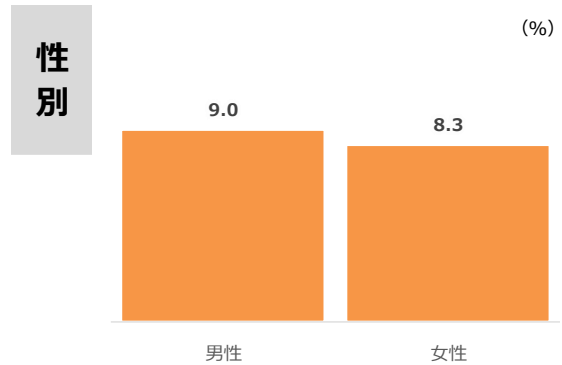
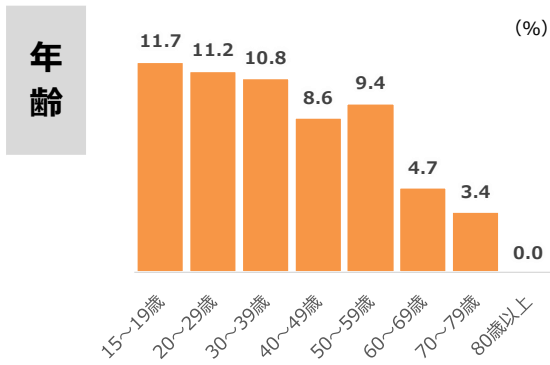
【図 1 - 7 1】 孤独感（間接質問）別他人とのかかわり方の満足度



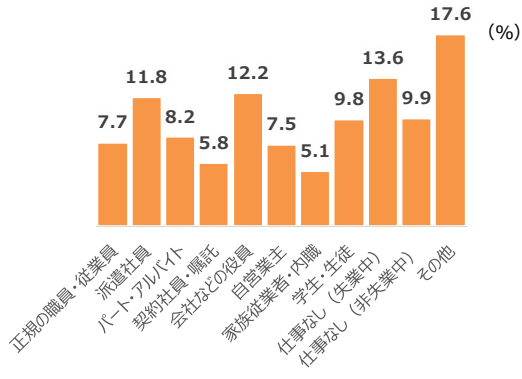
あなたはどの程度、孤独であることを感じることがありますか。



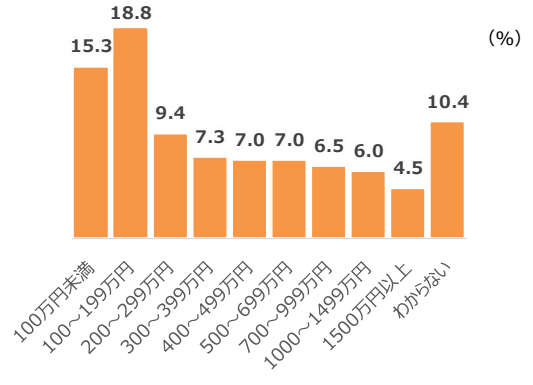
しばしばある・常にある	8.8%
時々ある	14.0%
たまにある	24.1%
ほとんどない	39.0%
決してない	14.1%



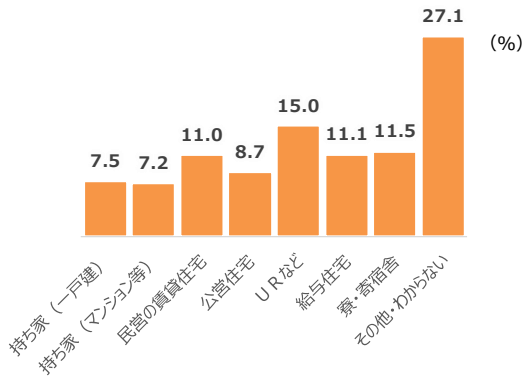
## 仕事



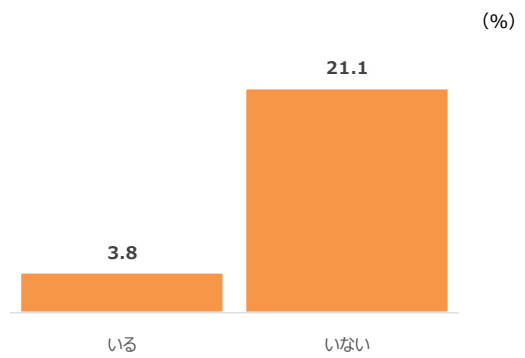
## 世帯年収



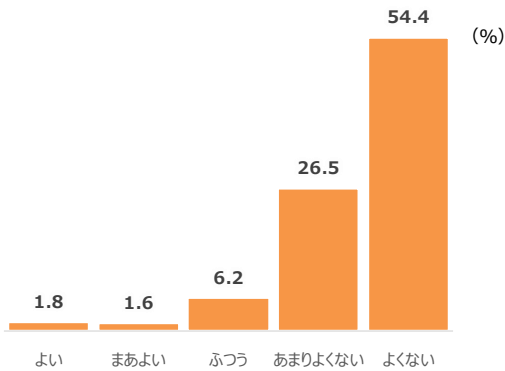
## 住居



## 相談相手の有無



## 健康状態の心身の



## 2 孤立の状況

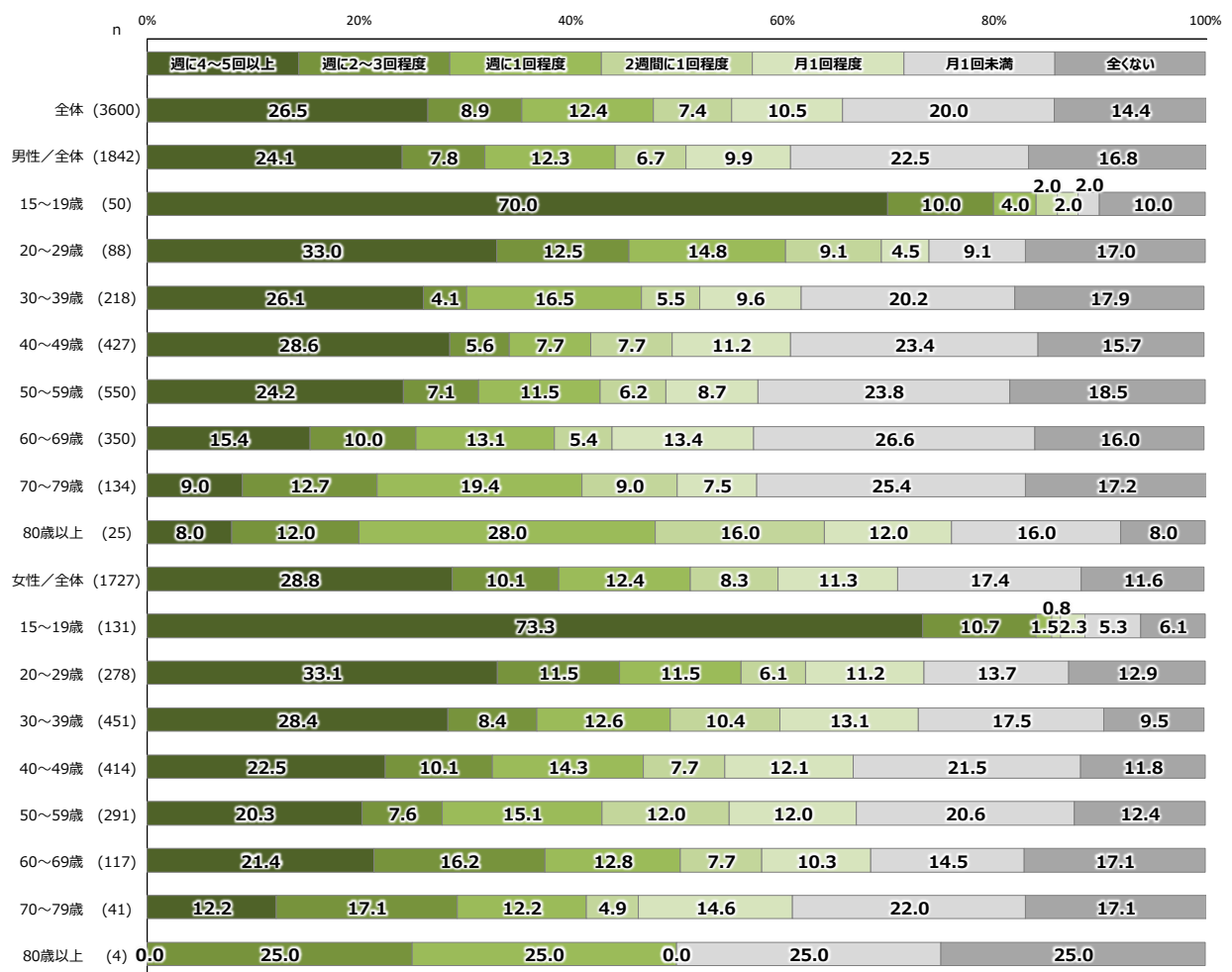
### (1) 本調査における孤立の状況の把握

本調査では、社会的交流（家族・友人等との接触状況等）、社会参加、社会的サポート（他者からの支援／他者への手助け）の状況から孤立の状態を把握した。

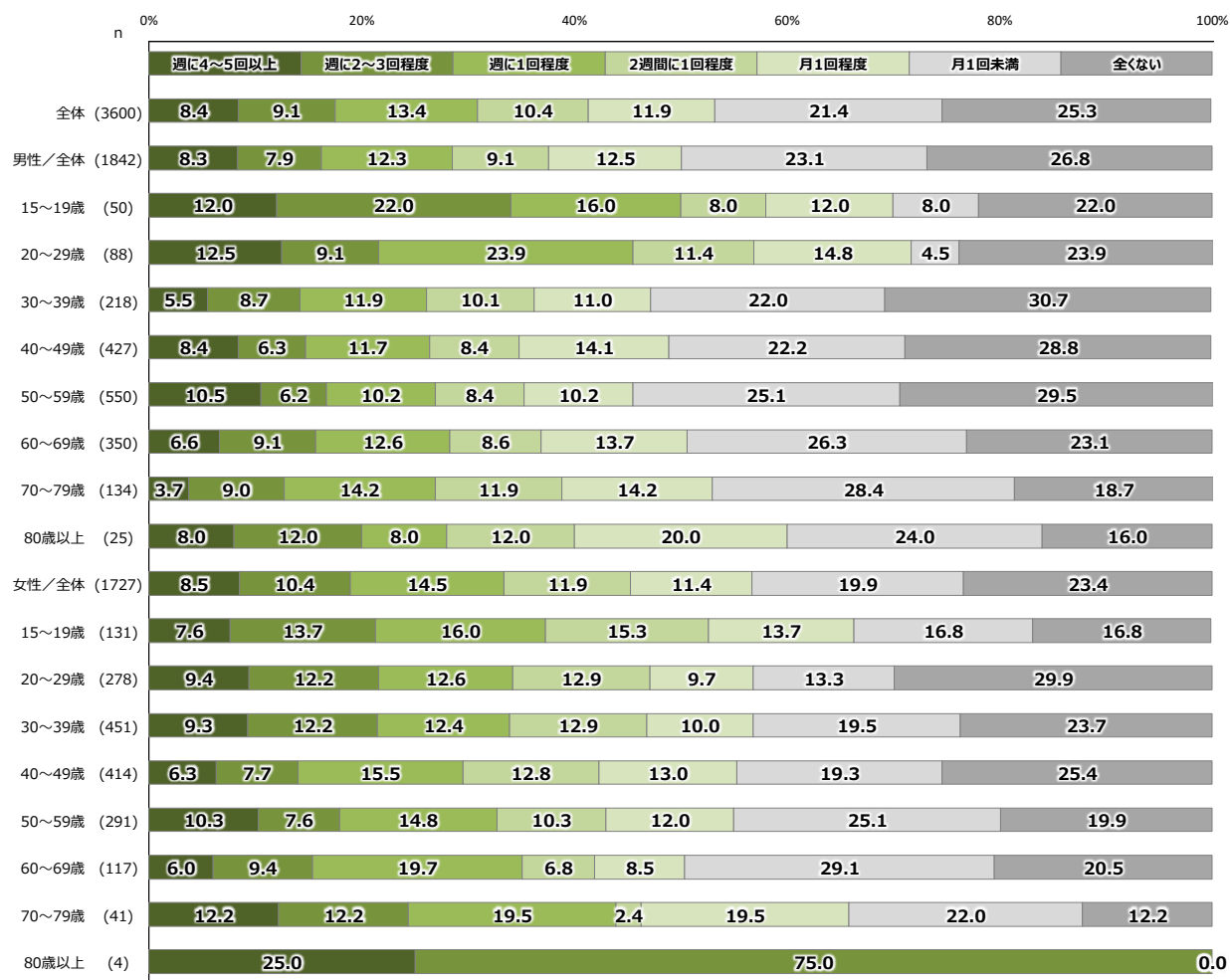
### (2) 男女、年齢階級別同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度（社会的交流）

「図2-1」から「図2-5」までは、男女、年齢階級別に同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度を、そのコミュニケーション手段別に示している。「図2-1」に示すとおり、同居していない家族や友人たちと直接会って話すことが全くない人の割合は14.4%となっている。男女別では男性が16.8%、女性が11.6%となっている。全国調査では、同居していない家族や友人たちと直接会って話すことが全くない人の割合は11.2%となっていた。男女別では男性が13.0%、女性が9.5%となっていた。

【図2-1】男女、年齢階級別「直接会って話す」頻度

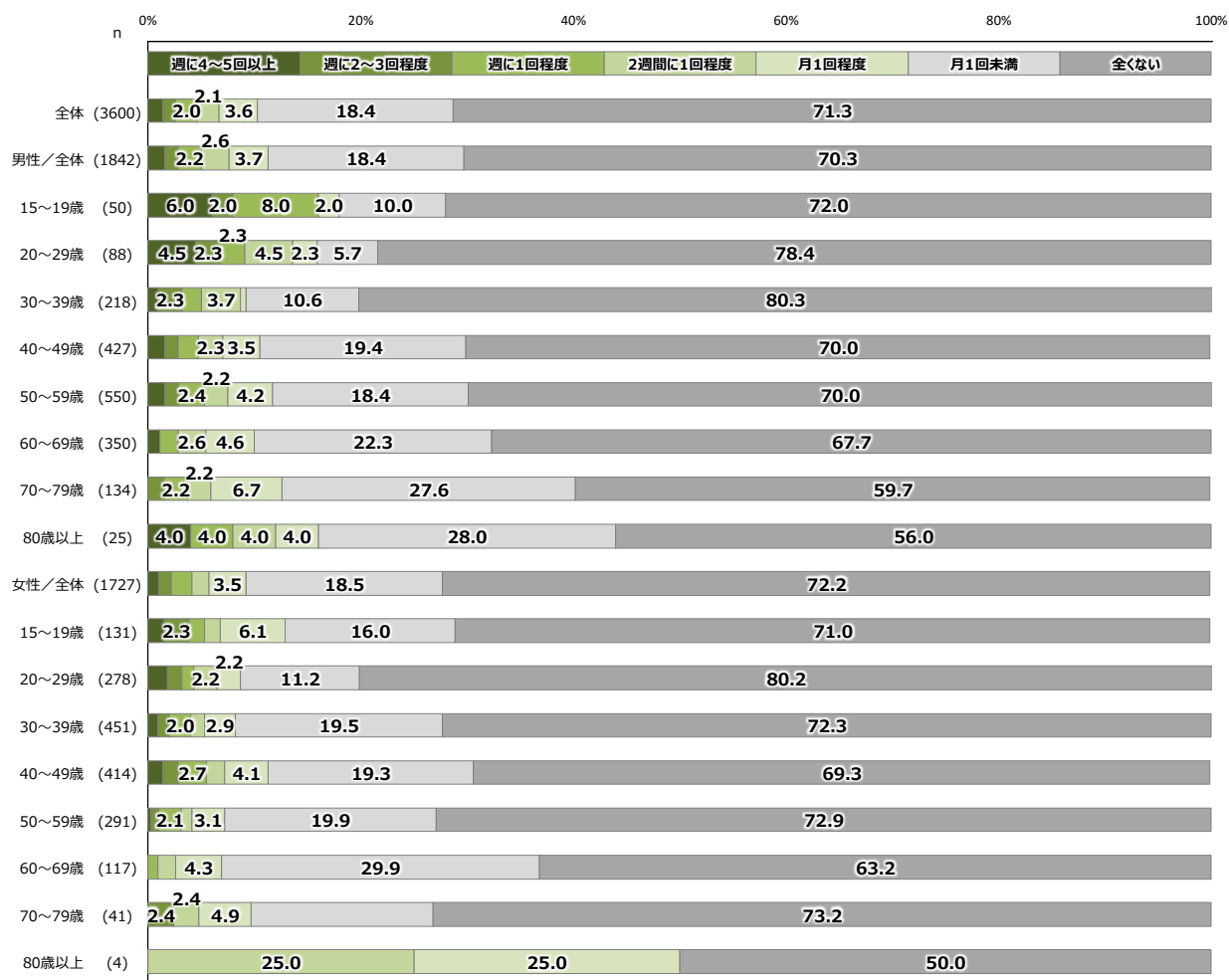


【図2-2】男女、年齢階級別「電話（ビデオ通話含む）する」頻度



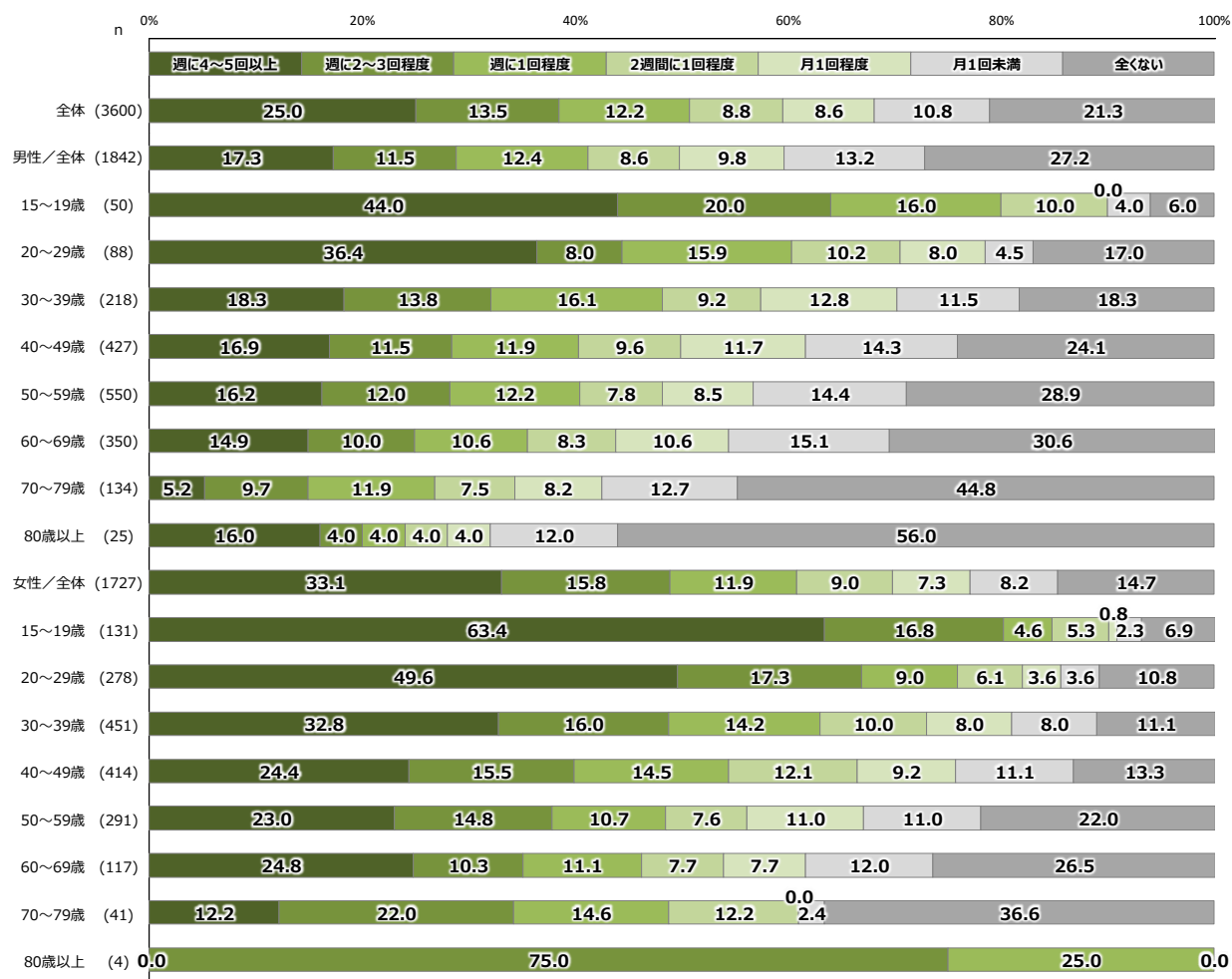


【図2-3】男女、年齢階級別「郵便やFAXする」頻度

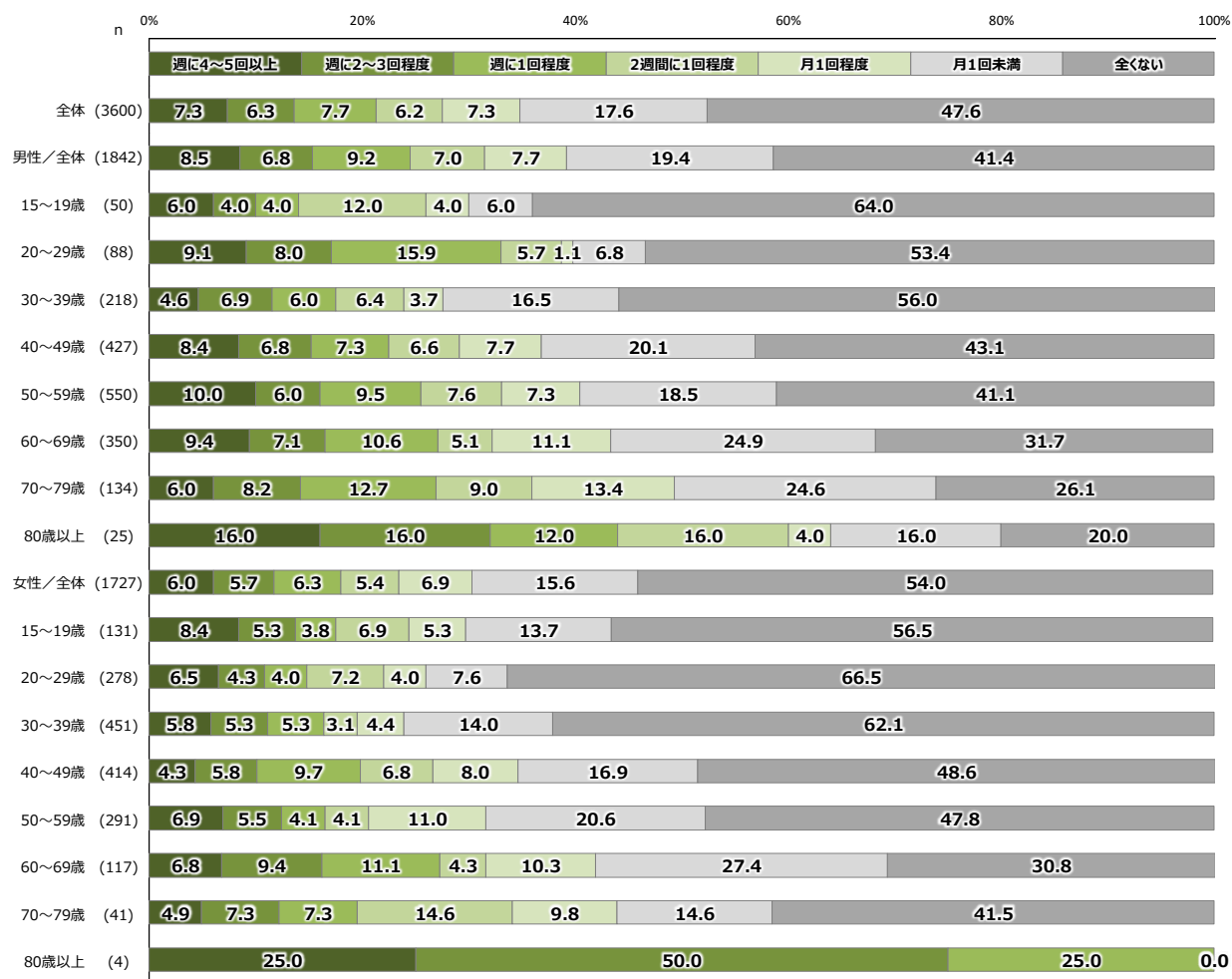


※2.0%以上のデータラベルのみ記載している。

【図2-4】男女、年齢階級別「SNS（LINE等）をする」頻度



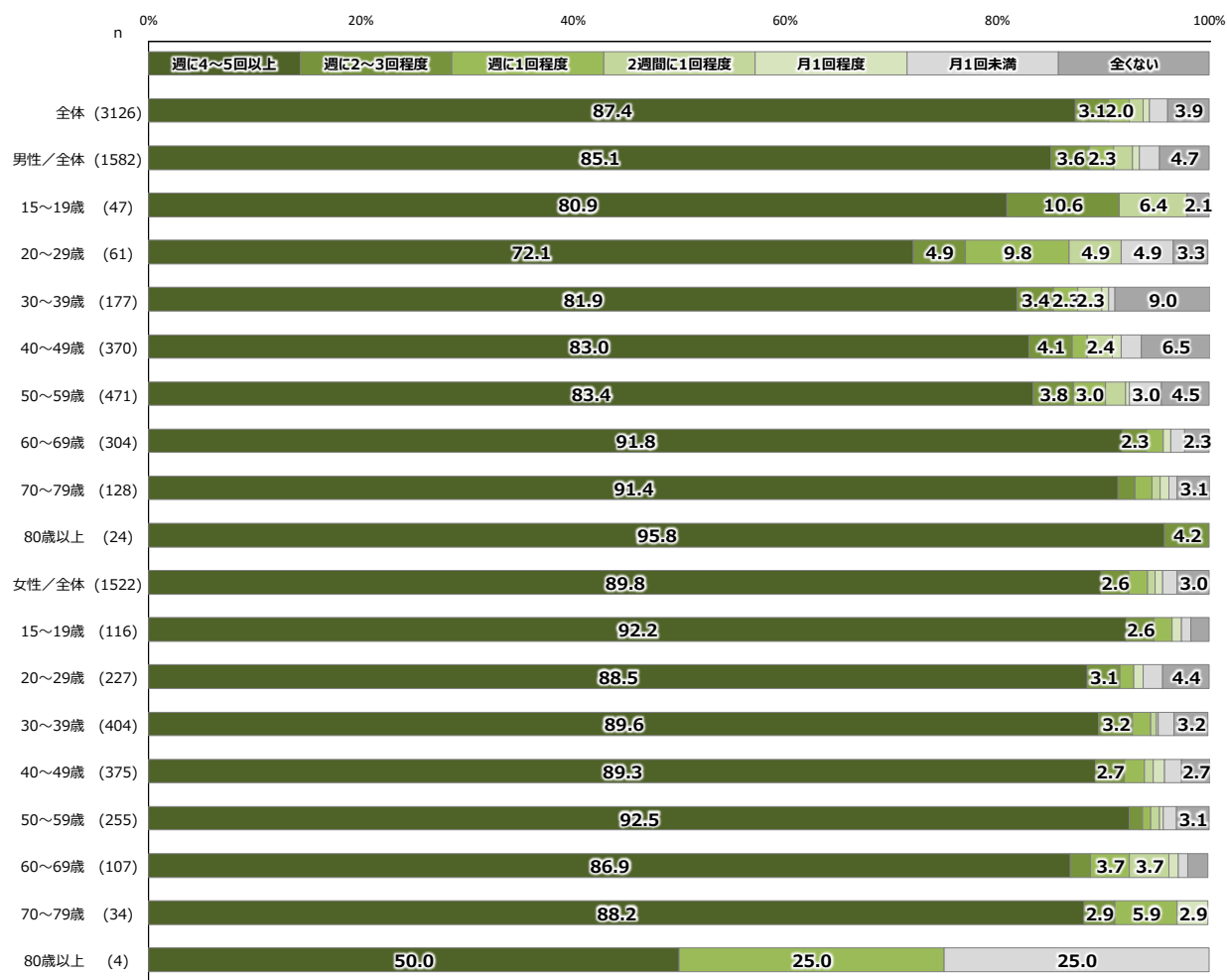
【図2-5】男女、年齢階級別「電子メールやショートメールをする」頻度



(3) 男女、年齢階級別同居している人たちとのコミュニケーション頻度（社会的交流）

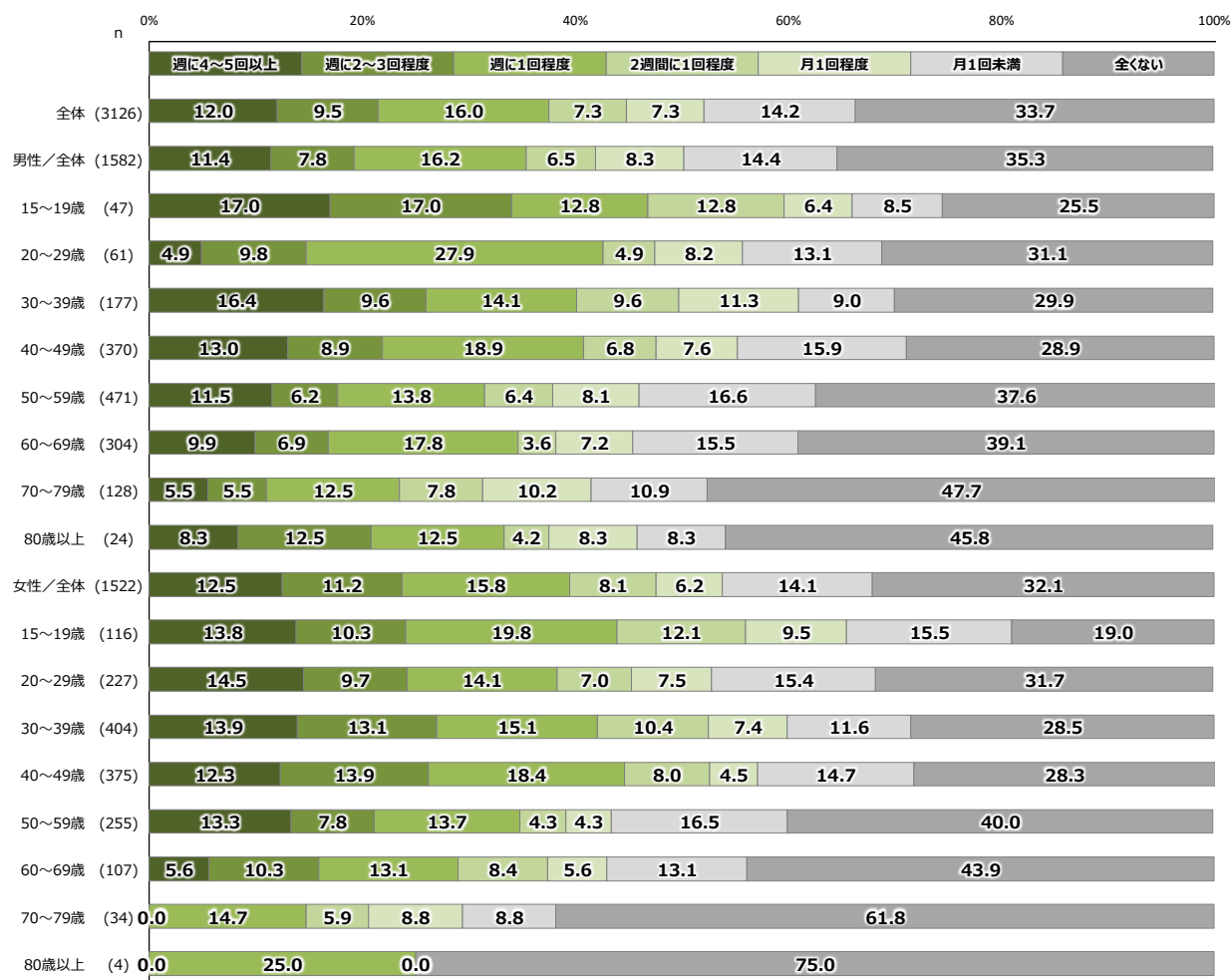
「図2-6」から「図2-10」までは、男女、年齢階級別に同居している人たちとのコミュニケーション頻度を、そのコミュニケーション手段別に示している。同居している人たちと週に4~5回以上、直接会って話す人の割合は87.4%となっている。全国調査では、同居している人たちと週に4~5回以上、直接会って話す人の割合は88.4%となっていた。

【図2-6】男女、年齢階級別「直接会って話す」頻度

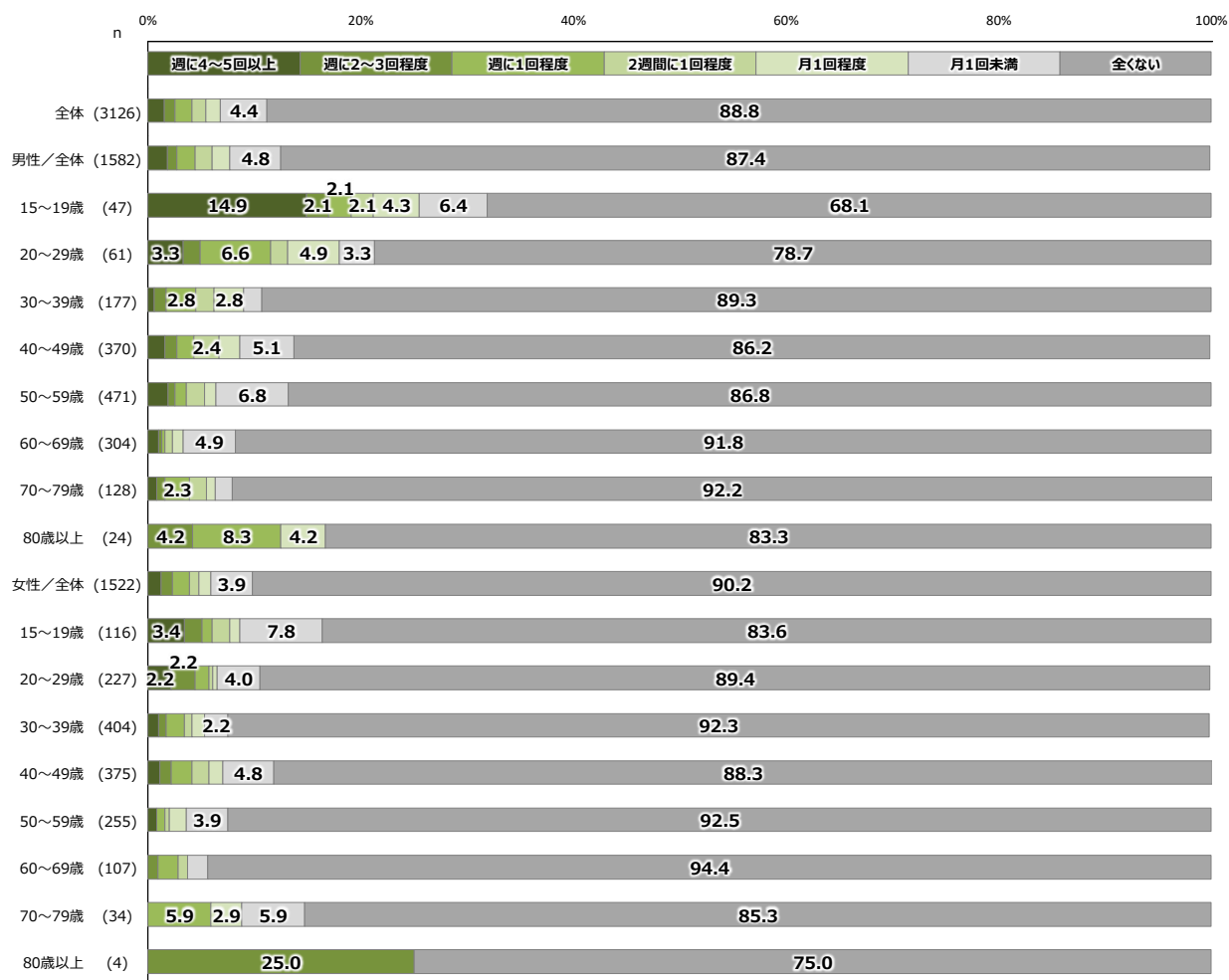


※2.0%以上のデータラベルのみ記載している

【図2-7】男女、年齢階級別「電話（ビデオ通話含む）する」頻度

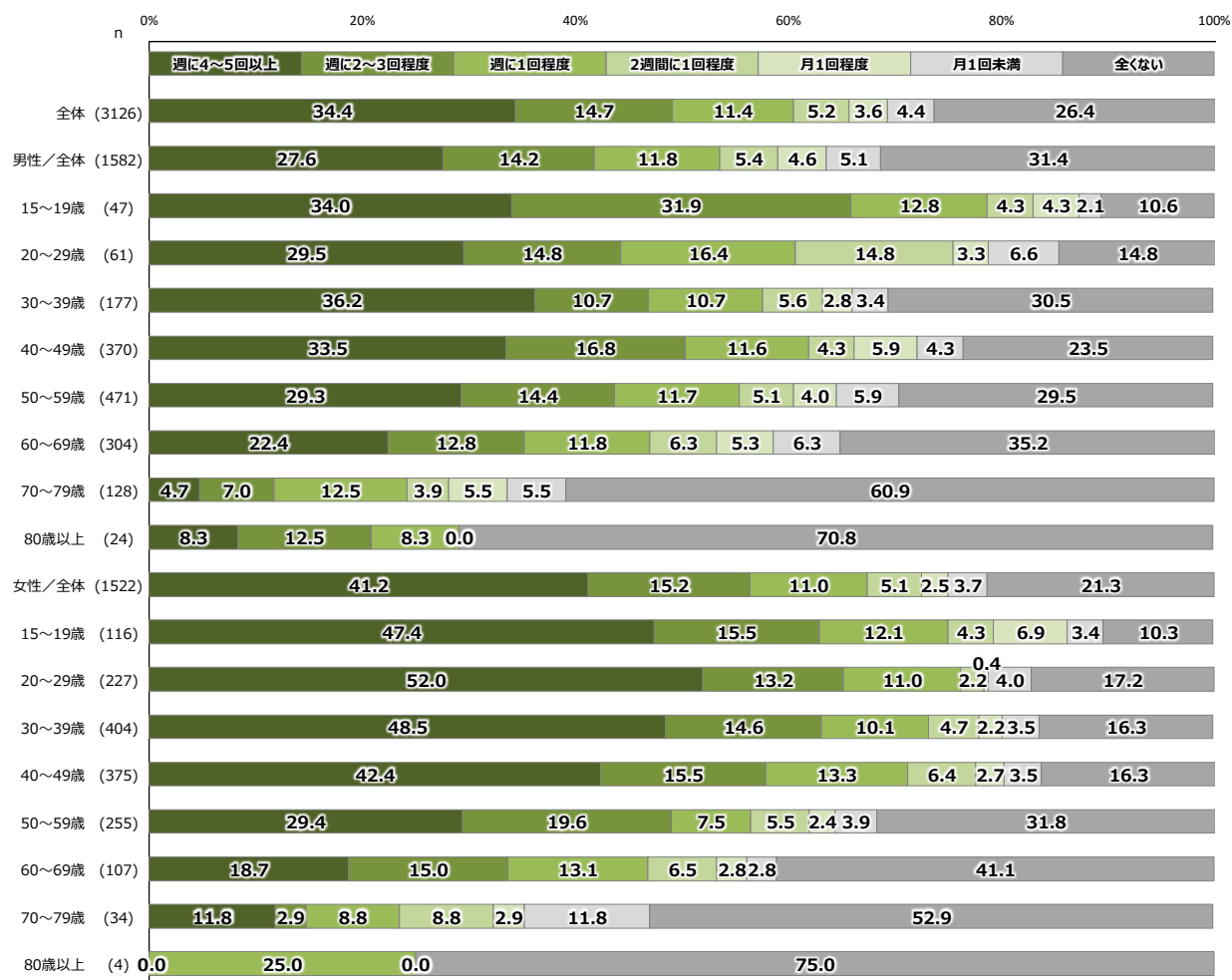


【図2-8】男女、年齢階級別「郵便やFAXする」頻度

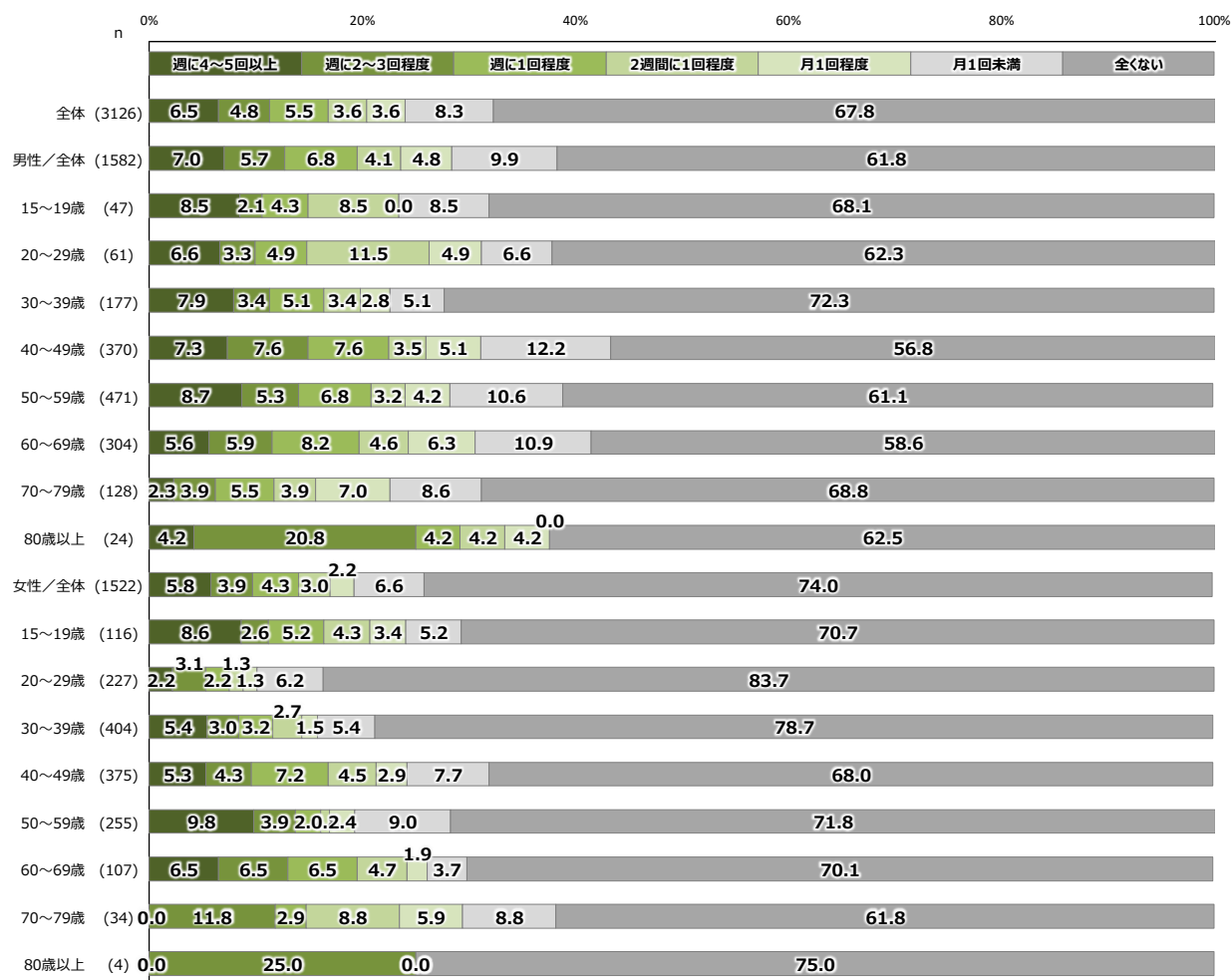


※2.0%以上のデータラベルのみ記載している

【図2-9】男女、年齢階級別「SNS（LINE等）をする」頻度



【図2-10】男女、年齢階級別「電子メールやショートメールをする」頻度





(4) 男女、年齢階級別社会参加の状況（社会参加）

「図2-11」は、男女、年齢階級別に社会参加（人と交流する活動に限る）の状況を示している。全体では、特に参加はしていない人が57.9%で最も多く、次いでスポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動（部活動等含む）に参加している人が24.3%となっている。特に参加はしていない人の割合は、20歳代女性が最も高く71.6%となっている。一方、その割合が最も低いのは、10歳代男性で36.0%となっている（n数が30未満を除く）。全国調査では、全体では、特に参加はしていない人が53.2%で最も多く、次いでスポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動（部活動等含む）に参加している人が29.6%となっていた。特に参加はしていない人の割合は、20歳代女性が最も高く71.7%となっていた。一方、その割合が最も低いのは、70歳代男性で43.6%となっていた。

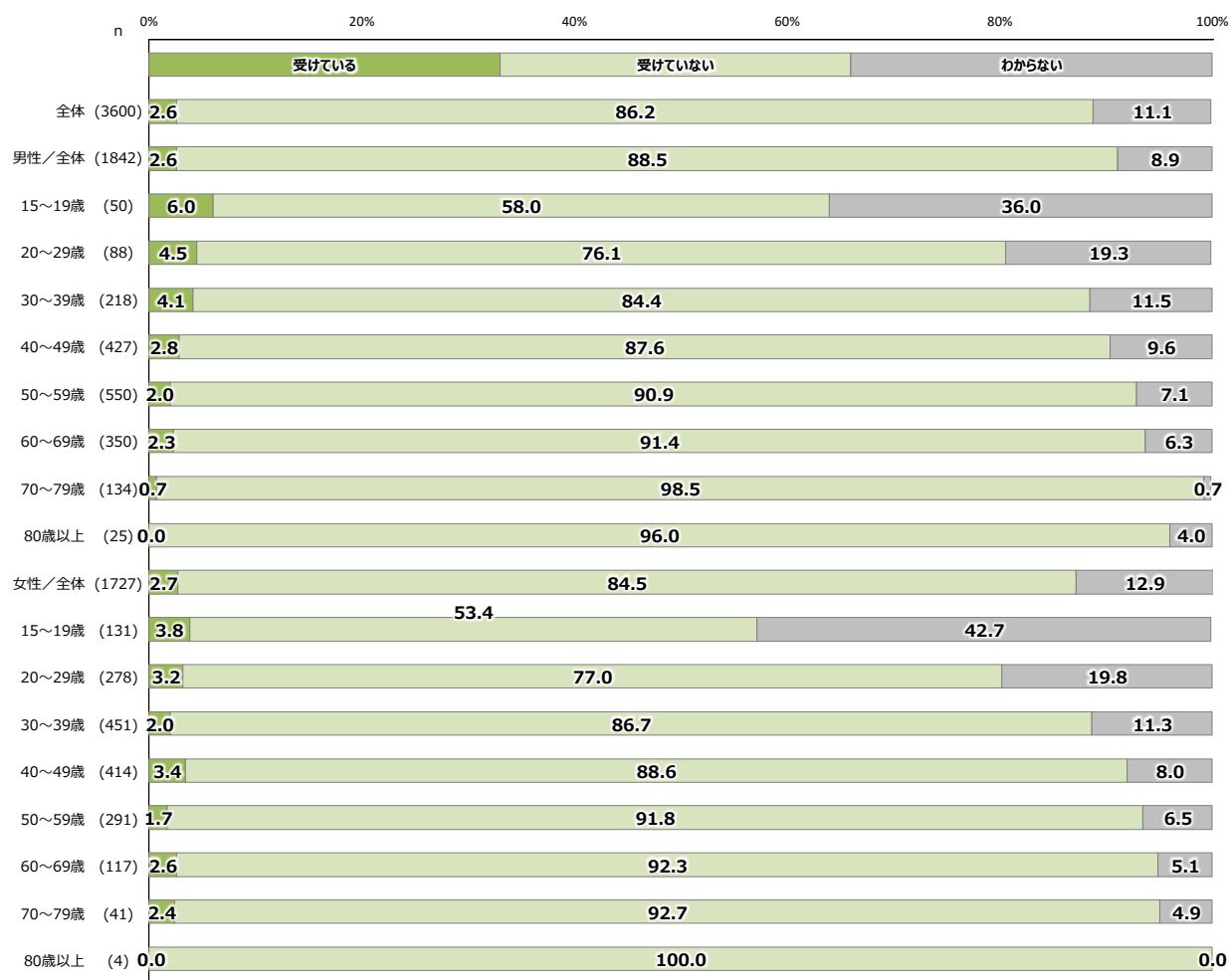
【図2-11】男女、年齢階級別社会参加の状況【複数回答】（%）

	n	等 含 む ） の 活 動 ・ （ 部 活 動 等 含 む ）	な の 教 養 ・ 自 己 啓 発 ・ 娯 楽	ス ポ ー ツ ・ 自 己 啓 発 ・ 娯 楽	内 部 活 動 ・ 自 治 会 ・ 町	P な の 自 治 会 ・ 町	上 の 活 動 ・ 宗 教 や 信 仰	会 の 活 動 ・ 宗 教 や 信 仰	そ の 他 の 活 動 （ 同 窓 等 ）	テ レ ビ ・ 記 録 機 器 ・ 以 外 の ポ ラ ン	活 動 の 手 助 け を 受 け る 外	の な ら ず 、 障 害 者 以 外	子 ど ろ も の 家 族 を 以 て 高	い 特 に 参 加 し て い な
全体	3600	24.3	21.1	4.5	4.1	3.9	57.9							
男性/全体	1842	27.0	23.8	6.1	4.6	4.1	53.6							
15～19歳	50	48.0	4.0	2.0	8.0	8.0	36.0							
20～29歳	88	25.0	5.7	2.3	4.5	5.7	64.8							
30～39歳	218	27.5	20.2	2.8	3.7	5.0	54.6							
40～49歳	427	28.1	25.1	3.5	3.3	4.4	54.1							
50～59歳	550	22.2	25.1	6.2	4.4	3.8	55.6							
60～69歳	350	27.1	26.3	9.7	4.9	3.1	53.4							
70～79歳	134	30.6	31.3	9.7	8.2	1.5	45.5							
80歳以上	25	56.0	32.0	32.0	12.0	8.0	32.0							
女性/全体	1727	21.2	18.4	2.8	3.3	3.8	62.5							
15～19歳	131	31.3	6.1	2.3	4.6	4.6	60.3							
20～29歳	278	20.9	4.0	0.4	2.9	4.0	71.6							
30～39歳	451	15.1	21.7	2.7	1.6	3.5	65.9							
40～49歳	414	18.6	26.8	3.6	1.0	3.6	58.7							
50～59歳	291	23.7	18.6	2.7	4.1	3.1	61.5							
60～69歳	117	29.1	17.1	4.3	9.4	3.4	56.4							
70～79歳	41	36.6	31.7	7.3	17.1	9.8	41.5							
80歳以上	4	100.0	50.0	25.0	50.0	0.0	0.0							

(5) 男女、年齢階級別各種支援の受領状況（社会的サポート（他者からの支援））

「図2-12」は、男女、年齢階級別に各種支援の受領状況を示している。支援を受けている人の割合は、全体では2.6%で、男女ともに10歳代でその割合が最も高く、男性で6.0%、女性で3.8%となっている。全国調査では、全体では4.4%で、男女ともに80歳代でその割合が最も高く、男性で8.4%、女性で12.2%となっていた。

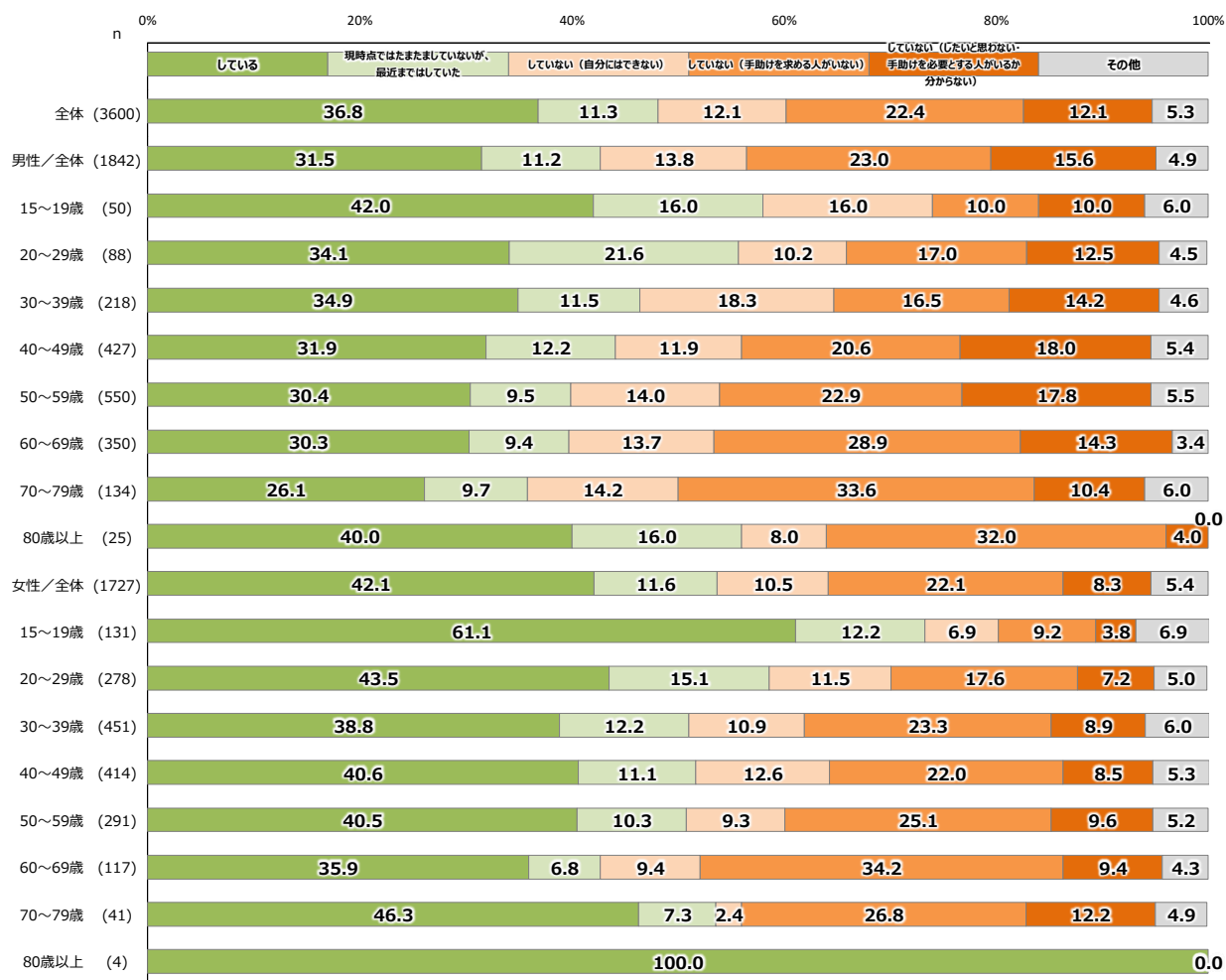
【図2-12】男女、年齢階級別各種支援の受領状況



(6) 男女、年齢階級別他者への手助け状況（社会的サポート（他者への手助け））

「図2-13」は、男女、年齢階級別に他者への手助けの状況（まわりで困っている人がいたら、積極的に声かけや手助けをしているか）を示している。他者への手助けをしている人は、全体では36.8%で、男女ともに10歳代でその割合が最も高く、男性で42.0%、女性で61.1%となっている（n数が30未満を除く）。全国調査では、他者への手助けをしている人は、全体では44.9%で、男女ともに10歳代でその割合が最も高く、男性で55.7%、女性で63.1%となっていた。

【図2-13】男女、年齢階級別他者への手助け状況

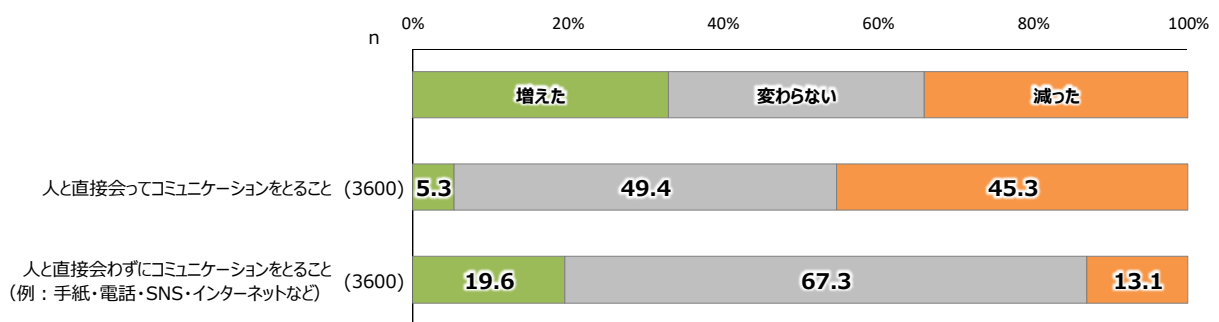


### 3 新型コロナウイルス感染拡大の影響

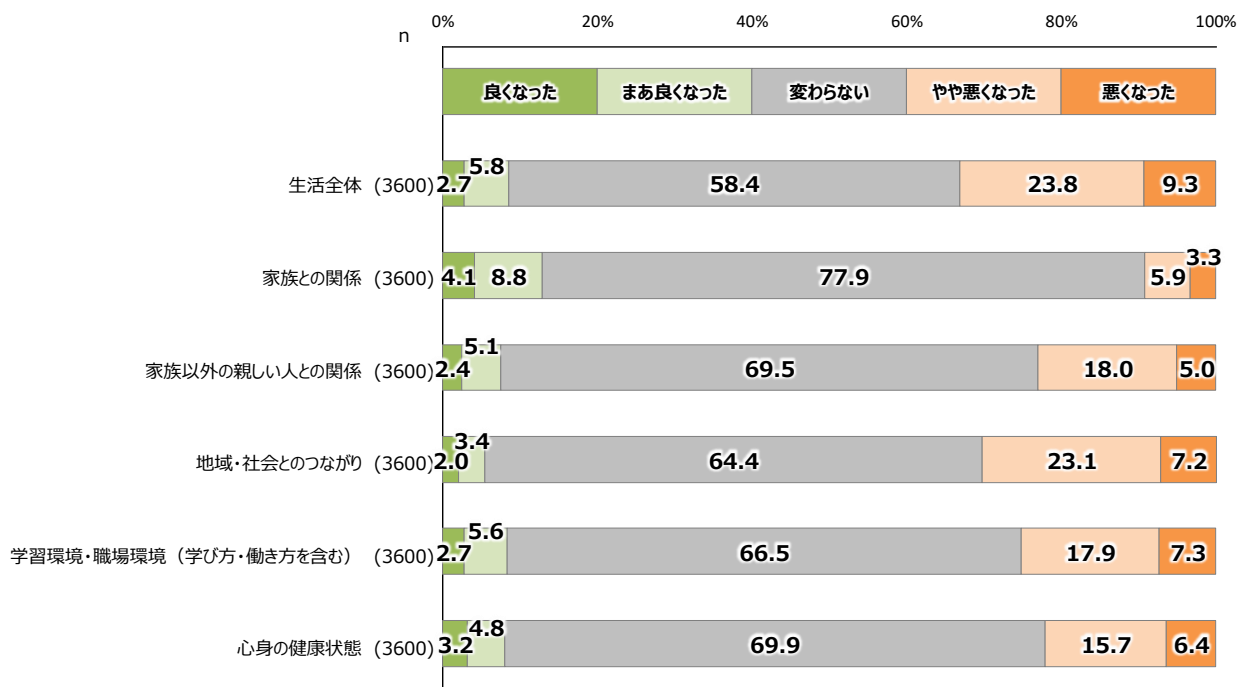
本調査では、新型コロナウイルス感染拡大により、人とのコミュニケーションにどのような変化があったか、また、日常生活にどのような変化があったかを把握した。

人と直接会ってコミュニケーションをとることが減ったと回答した人の割合は、45.3%であった（図3-1）。また、日常生活の変化について、生活全体では58.4%の人が変わらないと回答している（図3-2）。全国調査では、人と直接会ってコミュニケーションをとることが減ったと回答した人の割合は、67.6%であった。また、日常生活の変化について、生活全体では53.5%の人が変わらないと回答していた。

【図3-1】 コロナ禍におけるコミュニケーションの変化



【図3-2】 コロナ禍における日常生活の変化



また、支援を求める声をあげやすい社会にするために必要な取組については、「孤独や孤立は誰にでも起こりうる問題であるという認識や理解を広めていくこと。」が 51.4%で最も多く、「孤独や孤立を感じた時に、ひとりで抱え込まず、支援を求めようと思える働きかけがあること。」が 42.3%、「相談したいときに相談窓口につながりやすいように、窓口情報を周知すること。」が 39.7%と続いた。（滋賀県独自設問につき、全国調査の結果はない）

【図3-3】支援を求める声をあげやすい社会にするために必要な取組【複数回答】

